

**2026 年度**

# ***Syllabus***

**厚木看護専門学校**

**看護学科 45 回生**

# 目次

<u>シラバスとは</u> .....	P. 1
<u>教育理念-教育目的-教育目標-教育目標の軸となる3つのポリシー</u> .....	P. 2
<u>カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー</u> .....	P. 3
<u>授業科目及び単位数及び時間数</u> .....	P. 4
<u>授業科目進捗表</u> .....	P. 6
<u>教育課程の構造図</u> .....	P. 8
<u>各学年のねらいと到達目標</u> .....	P. 9
1 <u>基礎分野</u> .....	P. 10
2 <u>専門基礎分野</u> .....	P. 27
3 <u>専門分野</u> .....	P. 47
1) <u>講義</u> .....	P. 47
<u>基礎看護学</u> .....	P. 48
<u>地域・在宅看護論</u> .....	P. 59
<u>成人看護学</u> .....	P. 63
<u>老年看護学</u> .....	P. 68
<u>小児看護学</u> .....	P. 71
<u>母性看護学</u> .....	P. 74
<u>精神看護学</u> .....	P. 78
<u>領域横断</u> .....	P. 81
<u>看護の統合と実践</u> .....	P. 86
2) <u>実習</u> .....	P. 90
<u>基礎看護学実習</u> .....	P. 91
<u>地域・在宅看護論実習</u> .....	P. 93
<u>成人・老年看護学実習</u> .....	P. 95
<u>小児看護学実習</u> .....	P. 99
<u>母性看護学実習</u> .....	P. 100
<u>精神看護学実習</u> .....	P. 101
<u>看護の統合と実践実習</u> .....	P. 102
<u>学年進行に合わせたシミュレーション演習の内容</u> .....	P. 103
<u>試験に関する考え方</u> .....	P. 107
<u>定期試験のみでない場合の評価</u> .....	P. 108
<u>看護師教育の技術項目と卒業時の到達度</u> .....	P. 109
<u>看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標</u> .....	P. 111

## シラバスとは

厚木看護専門学校のカラバスの内容は、科目名、開講時期、単位数、科目担当、ディプロマ・ポリシーとの関連、授業概要、到達目標、成績評価の方法、テキスト・参考文献、授業方法、内容、授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容など、修得するに当たって必要な情報を示しています。

皆さんが積極的に学習を行うために、それぞれの科目がどのような目標と内容で行われるかを事前に確認できるものとなっています。授業前には必ずよく読み、計画的に学習を進めていきましょう。

卒業後、キャリアアップ等、進学する際には在学時に履修した授業科目のカラバスが必要となります。

## シラバスの項目について

### 科目名

授業科目を表記しています。

### 開講時期

前期、後期、全期の3区分によって表示しています。前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から3月31日まで、全期は4月1日から3月31日までです。

### 単位数

当該授業科目を履修した場合に修得できる単位数を表示してあります。1単位あたり45時間の学習を必要とする内容をもって構成されており、講義・演習は15時間から30時間、実習は30時間から45時間をもって1単位としています。1単位45時間のうち授業時間が15時間の場合は残りの30時間は授業時間外での学習（予習復習）の時間となります。また1時間（45分）となるため、1回の授業は2時間（90分）となります。

### 科目担当

科目を担当する講師（専任教員、外部講師）を示しています。

### ディプロマ・ポリシーとの関連

関連するディプロマ・ポリシーを示しています。

### 授業概要

授業全体の大きな内容を示しています。

### 到達目標

最終的に到達してほしい知識や技術を示しています。

### 成績評価の方法

成績評価の方法を示しています。

### テキスト・参考文献

授業で必ず使用するテキストとテキスト以外に授業を進める上で参考とするものを参考文献として示しています。

### 授業方法、内容

授業の進度に即した授業方法（講義、演習、グループワーク等）、授業内容を示しています。

### 授業時間外（予習・復習等）の学習

それぞれの授業に関して必要とされる予習の内容や、授業後に必要とされる復習の内容、課題等を示しています。

## 教育理念

本校は「共に生きる社会」の発展に貢献するという神奈川県総合リハビリテーション事業団の基本理念に基づき、神奈川県県央地域の保健・医療・福祉に貢献できる看護師の育成を使命としています。この使命を果たすため、以下の理念に基づいた教育を目指します。

学生ひとりひとりの持つ可能性を引き出し、専門職業人として信頼される高い倫理観、自律性を育てます。

人間と健康に対する理解を深め、自ら考え、看護を探究できる看護の実践者を育成します。

時代の先見性をもって柔軟に多職種と協働できる専門職業人を育成します。

## 教育目的

本校は学校教育法及び保健師助産師看護師法に基づき、看護師として必要な知識及び技術を修得し、地域医療に貢献できる有能な人材を育成することを目的とします。

## 教育目標

- 1 個人、家族、社会の健康ニーズの理解ができる知識と感性、コミュニケーション能力を培うことができる
- 2 多様な価値観を認識し、人間の生命、個人の尊厳および権利を尊重する倫理的態度を身につける
- 3 根拠に基づいた判断により、対象に応じた看護を実践できる
- 4 社会の動向や制度について学び、多職種と協働し連携できる能力を身につける
- 5 生涯学習の意義を理解し、主体的に看護を探究し続けていくことができる

## 教育目標の軸となる3つのポリシー

### アドミッション・ポリシー（本校の求める人材）

- 1 看護を学ぶための基礎学力を有し、学ぶ意欲にあふれている人
- 2 考え、表現し、実行する力を持っている人
- 3 人間としての成長をめざし、誠実に努力できる人
- 4 他者に関心を持ち、他者を尊重し、他者と協働できる人
- 5 看護師として地域に貢献しようという意志のある人

## カリキュラム・ポリシー（本校の教育課程編成）

本校の教育課程は、卒業時に期待できる能力を修得できるよう、以下の領域で構成しています。

1 年次の基礎分野科目で教養を積むと共に、科学的、論理的思考を高め看護の対象理解を深めます。また、病理学等の専門基礎分野科目において、人体の構造・機能・発生を体系的に学び、正常な人体の営みの統合的理解を進めます。同時に看護学概論、基礎看護技術、実習等を通して、看護師としての将来像を描き、医療者としての倫理的感性の基盤をつくります。

2 年次は臨床的な視点から、疾病、検査、治療について臓器別システムの病態に関して理解を深めます。健康生活を支える医療・福祉に関連する社会制度についての知識を得て、様々な場所で暮らす、あらゆる発達段階と健康段階にある対象に対する看護を実践するための方法論を学びます。さらに臨床判断能力、倫理的態度の実践、協働性、問題解決能力等、臨床実習に必要な基礎的要素の修得を進めます。

3 年次で行う臨地実習では、患者を受け持ちながら、実際の医療現場でチーム医療に参加します。自律的に臨床能力を身につけることができる参加型実習において、対象との援助関係を築き、看護実践における問題解決の過程を実践します。またその中で倫理問題への取り組みや科学的根拠に基づく研究活動を行います。統合分野の科目では、被災地域における看護の提供や、グローバルヘルスの課題について理解をすすめて、看護師に求められる活動について幅ひろく学びます。

学修成果の評価について、各科目の到達目標、成績評価の方法はシラバス等において明示します。

## ディプロマ・ポリシー（本校の卒業認定・専門士授与）

本校では、以下の能力を身につけ所定の単位を修得した学生に対し、卒業を認定するとともに専門士（医療専門課程）の称号を授与します。

- 1 対象を理解し援助関係を形成する能力
- 2 倫理的な態度を身につけ研鑽し続ける能力
- 3 根拠に基づき対象に応じた看護を実践する能力
- 4 協働して問題解決をはかる能力
- 5 課題を発見し探究し続ける能力

## 看護の主要概念

概 念	意 味
人 間	人間は存在そのものに価値があり平等である。尊厳と権利をもち同時に責任を担う存在である。人間と環境は相互に影響しあい、一生、成長・発達し続ける。身体的・精神的・社会的・霊的側面をもち、基本的欲求の充足、自己実現、幸福を追求する統一体として生活している。
健 康	健康とは、ひとりひとりが多様な生き方を、自らの意志で選択することができることである。その人の健康観を大切にしながら自己の能力が最大限に発揮でき、生き生きとしている状態である。
環 境	環境は、あらゆる生命を取り巻き、その生存や生活に関わるすべての「外部環境」と、人間のからだを構成する「内部環境」からなる。
看 護	看護とは、人間の健康を支援することである。対象となる人の生活環境を整え、健康を保持増進し、疾病を予防し、健康を回復させ、苦痛を緩和する。ケアされる人が治癒し、自己実現に向かうばかりでなく、ケアする人も変化し成長するなど、双方向的なものである。

授業科目及び単位数及び時間数

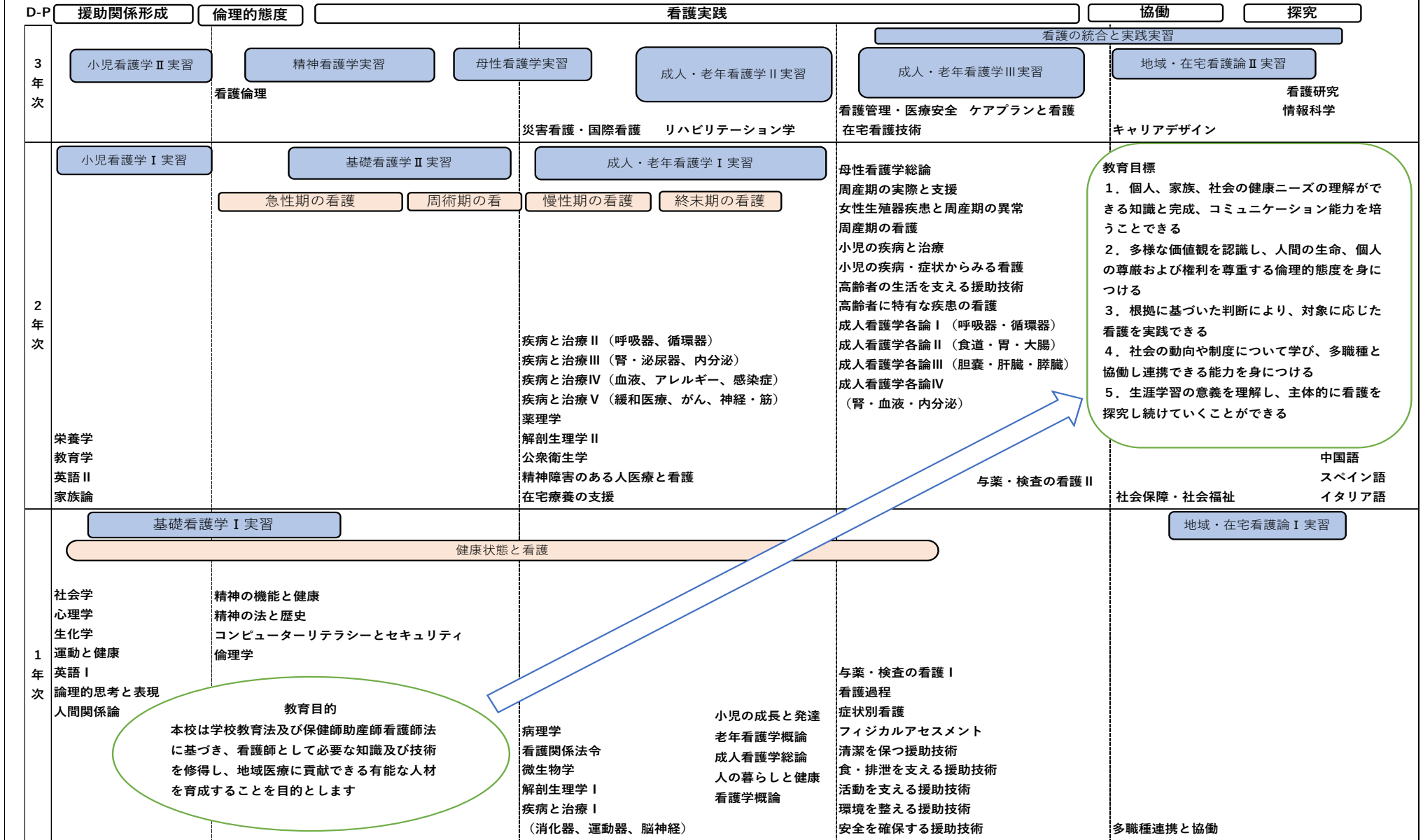
授業科目		単位数(時間数)			計	
		第1学年	第2学年	第3学年		
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考と表現	1 (30)			1 (30)
		運動と健康	1 (30)			1 (30)
		コンピューターリテラシーとセキュリティ	1 (15)			1 (15)
		情報科学			1 (15)	1 (15)
		英語 I	1 (30)			1 (30)
		英語 II		1 (30)		1 (30)
		中国語		1 (15)		1 (15)
		スペイン語	選択	1 (15)	選択	1 (15)
		イタリア語		1 (15)		1 (15)
	人間と生活、社会の理解	社会学	1 (30)			1 (30)
		教育学		1 (15)		1 (15)
		心理学	1 (30)			1 (30)
		倫理学	1 (15)			1 (15)
		人間関係論	1 (15)			1 (15)
		家族論		1 (15)		1 (15)
キャリアデザイン				1 (30)	1 (30)	
基礎分野 小計		8 (195)	4 (75)	2 (45)	14 (315)	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学 I	2 (60)			2 (60)
		解剖生理学 II		2 (60)		2 (60)
		生化学	1 (30)			1 (30)
		栄養学		1 (30)		1 (30)
		病理学	1 (30)			1 (30)
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病と治療 I (消化器、運動器、脳神経)	2 (30)			2 (30)
		疾病と治療 II (呼吸器、循環器)		1 (15)		1 (15)
		疾病と治療 III (腎・泌尿器、内分泌)		1 (15)		1 (15)
		疾病と治療 IV (血液、アレルギー、感染症)		1 (15)		1 (15)
		疾病と治療 V (緩和医療、がん、神経・筋)		1 (15)		1 (15)
		微生物学	1 (30)			1 (30)
		薬理学		1 (30)		1 (30)
		リハビリテーション学			1 (15)	1 (15)
	健康支援と社会保障制度	多職種連携と協働	2 (30)			2 (30)
		公衆衛生学		1 (15)		1 (15)
		看護関係法令	1 (15)			1 (15)
		社会保障・社会福祉		2 (30)		2 (30)
	専門基礎分野 小計		10 (225)	11 (225)	1 (15)	22 (465)
	専門分野	基礎看護学				
看護学概論		1 (30)			1 (30)	
安全を確保する援助技術		1 (30)			1 (30)	
環境を整える援助技術		1 (30)			1 (30)	
活動を支える援助技術		1 (30)			1 (30)	
食・排泄を支える援助技術		1 (30)			1 (30)	
清潔を保つ援助技術		1 (30)			1 (30)	
フィジカルアセスメント		1 (30)			1 (30)	
症状別看護		1 (30)			1 (30)	
看護過程		1 (30)			1 (30)	
与薬・検査の看護 I		1 (15)			1 (15)	
与薬・検査の看護 II			1 (30)		1 (30)	
地域・在宅看護論					5 (75)	
人の暮らしと健康		1 (15)			1 (15)	
在宅療養の支援			2 (30)		2 (30)	
ケアプランと看護				1 (15)	1 (15)	
在宅看護技術				1 (15)	1 (15)	
成人看護学					5 (150)	
成人看護学総論		1 (30)			1 (30)	
成人看護学各論 I (呼吸器・循環器)			1 (30)		1 (30)	
成人看護学各論 II (食道・胃・大腸)			1 (30)		1 (30)	
成人看護学各論 III (胆嚢・肝臓・膵臓)			1 (30)		1 (30)	
成人看護学各論 IV (腎・血液・内分泌)			1 (30)		1 (30)	
老年看護学					3 (90)	
老年看護学概論		1 (30)			1 (30)	
高齢者の生活を支える援助技術		1 (30)		1 (30)		
高齢者に特有な疾患の看護		1 (30)		1 (30)		

専門分野	小児看護学				<b>3</b>	<b>(75)</b>		
	小児の成長と発達	1	(30)		1	(30)		
	小児の疾病と治療			1	(15)	1	(15)	
	小児の疾病・症状からみる看護			1	(30)	1	(30)	
	母性看護学					<b>4</b>	<b>(90)</b>	
	母性看護学総論			1	(15)	1	(15)	
	周産期の実際と支援			1	(30)	1	(30)	
	女性生殖器と周産期の異常			1	(30)	1	(30)	
	周産期の看護			1	(15)	1	(15)	
	精神看護学					<b>3</b>	<b>(75)</b>	
	精神の機能と健康	1	(30)			1	(30)	
	精神の法と歴史	1	(15)			1	(15)	
	精神障害のある人の医療と看護			1	(30)	1	(30)	
	健康状態別看護					<b>5</b>	<b>(150)</b>	
	健康状態と看護	1	(30)			1	(30)	
	急性期の看護			1	(30)	1	(30)	
	周術期の看護			1	(30)	1	(30)	
	慢性期の看護			1	(30)	1	(30)	
	終末期の看護				1	(30)	1	(30)
	看護の統合と実践					<b>4</b>	<b>(120)</b>	
	看護管理・医療安全				1	(30)	1	(30)
	看護倫理				1	(30)	1	(30)
	災害看護・国際看護				1	(30)	1	(30)
	看護研究				1	(30)	1	(30)
	臨地実習					<b>24</b>	<b>(690)</b>	
	基礎看護学Ⅰ実習	2	(60)			2	(60)	
	基礎看護学Ⅱ実習			2	(60)	2	(60)	
	地域・在宅看護論Ⅰ実習	1	(30)			1	(30)	
	地域・在宅看護論Ⅱ実習				2	(60)	2	(60)
	成人・老年看護学Ⅰ実習(回復期・慢性期)			2	(60)	2	(60)	
成人・老年看護学Ⅱ実習(急性期)				3	(90)	3	(90)	
成人・老年看護学Ⅲ実習(慢性期・終末期)				3	(90)	3	(90)	
小児看護学Ⅰ実習			1	(30)	1	(30)		
小児看護学Ⅱ実習				1	(45)	1	(45)	
母性看護学実習				2	(60)	2	(60)	
精神看護学実習				2	(90)	2	(90)	
看護の統合と実践実習				3	(135)	3	(135)	
専門分野 講義 小計	17	(465)	19	(495)	7	(180)	43	(1140)
専門分野 臨地実習 小計	3	(90)	5	(150)	16	(570)	24	(810)
講義 合計	35	(885)	34	(795)	10	(240)	79	(1920)
臨地実習 合計	3	(90)	5	(150)	16	(570)	24	(810)
<b>総計</b>	<b>38</b>	<b>(975)</b>	<b>39</b>	<b>(945)</b>	<b>26</b>	<b>(810)</b>	<b>103</b>	<b>(2730)</b>





教育課程の構造図



教育課程の構造図

## 各学年のねらいと到達目標

### 1年生

- 1 人間関係を豊かにする
- 2 生命の尊さを理解し、人間理解を深めることができる
- 3 看護に対する関心を高める
- 4 他者を理解し、協調性を高める努力ができる
- 5 学習の必要性を理解し、学習習慣を身につけられる

### 2年生

- 1 日々の学習や看護学校での生活で理論的に考える力を養うことができる
- 2 社会人になる自覚を持ち、自身を律し良識ある態度がとれる
- 3 対象の状況に応じた、看護過程展開の技術を習得できる
- 4 他者との関係の中で自己の役割を理解し、協力的な行動がとれる
- 5 自らの理想とする看護師像を目指し、目的意識をもって行動できる

### 3年生

- 1 対象を理解し、援助関係を形成する能力を習得する
- 2 倫理的な態度を身につけ、研鑽し続ける能力を高める
- 3 根拠に基づき対象に応じた看護を実践する能力を獲得する
- 4 協働して問題解決をはかる能力を習得する
- 5 課題を発見し、探究し続ける能力を育成できる

## 1 基礎分野 14 単位

科学的・論理的思考を高められるよう〈科学的思考の基盤〉として、「論理的思考と表現」「運動と健康」「コンピューターリテラシーとセキュリティ」「情報科学」「英語Ⅰ」を科目設定した。情報化社会に対応する基礎的知識及び情報通信技術を学ぶため「コンピューターリテラシーとセキュリティ」については情報リテラシーについて思慮しながら能動的に学べる内容とした。また、国際化に対応するよう第2外国語として2年次科目に「英語Ⅱ」の他に「中国語」「スペイン語」「イタリア語」を選択科目として設けた。さらに「論理的思考と表現」では対象に何を伝える必要があるのか考えたうえで、物事を論理的に整理し表現方法を検討していくことのできる知識と技術を学ぶこと、普段のコミュニケーションで強化できる内容とした。

〈人間と生活、社会の理解〉として、多様な場において対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力、倫理観に基づいた人間理解と、生命を尊重する心と豊かな感性を育て、コミュニケーション能力や感性を磨き、人間関係力を養うために「社会学」「教育学」「心理学」「倫理学」「人間関係論」「家族論」を科目設定した。「家族論」では、時代の変化に伴い家族のあり方も多様化し、現代社会の家族における諸問題、家族の多様性、男女の性差や平等性をめぐるジェンダー、現代社会と家族について時代の変化に伴う家族のあり方について学ぶ内容とした。

人間関係論は、1年次に設定し、自己理解・他者理解をするためにグループワークの中で自己表現を高められるようにした。「キャリアデザイン」は、3年次の実習の間に設定し、看護専門職者になるために学ぶという自覚と姿勢を育みながら、看護師としての責任を自覚して自分自身を管理し、職場や個人の所属する組織において円滑な人間関係を営む能力を身につけられるようにした。

科目名		論理的思考と表現			
開始時期	1 年前期	単位数	1 単位 (30 時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
<p>他者の考えを理解し、自らの考えを理解してもらいながら多（他）職種と協働し連携して看護を行っていくにあたり「ひとりよがり」に陥らないスキルを身につけることが求められる。その思考のスキルこそが論理的思考であり、「対人専門職」として論理的思考を養い表現できることを目指す。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者の考えを理解し、自らの考えを理解してもらえるよう表現できる</li> <li>2. 論理的なものの方、考え方、表現する力を身につける</li> <li>3. 一般常識や教養を学び、論理的に思考する力を身につけ、文章に表現することができる</li> </ol>					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】 日本看護協会出版会 看護師のための文章ノート					
【参考文献】 なし					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第 1 回	講義	他者に分かりやすく簡潔に表現する		予習	論理学とは何かを調べる
				復習	講義で学習したことをまとめる
第 2 回	講義	小論文・レポートの書き方		予習	小論文とは何かを調べる
				復習	講義で学習したことをまとめる
第 3 回	講義	文章の種類（論説・評論・説明）		予習	論説・評論・説明とは何かを調べる
				復習	講義で学習したことをまとめる
第 4 回	講義	論理的思考とは		予習	論理的思考について調べる
				復習	講義で学習したことをまとめる
第 5 回	講義	主観と客観（事実か意見か）		予習	主観と客観の違いについて調べる
				復習	講義で学習したことをまとめる
第 6 回	講義	三段論法（帰納法と演繹法）		予習	帰納法と演繹法について調べる
				復習	講義で学習したことをまとめる
第 7 回	講義	具体化と抽象化（おりの・のぼる）		予習	具体と抽象の違いを調べる
				復習	講義で学習したことをまとめる
第 8 回	講義	小論文を読み解く（読解法）		予習	小論文を読む
				復習	講義で学習したことをまとめる
第 9 回	講義	水掛け論（根拠を示す）		予習	水掛け論について調べる
				復習	講義で学習したことをまとめる
第 10 回	講義	接続表現（ことばをつなぐ）		予習	接続詞について調べる
				復習	作成した小論文を読み返し、理解する
第 11 回	講義	論述力（対象に合わせた伝え方の工夫）		予習	理解したことを相手に合わせて伝える方法を考える
				復習	よりよい伝え方の学びをまとめる
第 12 回	講義	小論文を書く		予習	小論文を読む
				復習	作成した小論文を読み返す
第 13 回	講義	小論文の推敲		予習	作成した小論文を読む
				復習	推敲した小論文を読む
第 14 回	講義	まとめと練習		予習	学習した内容をまとめたものを読み返す
				復習	小論文を作成する
第 15 回		終講試験			

科目名		運動と健康			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
スポーツ・レクリエーションを通して、健康生活を支える運動について考え、自己の体力をつくるとともに、個人および集団の健康づくりに活かす。					
【到達目標】					
1. 健康生活を支える運動について考え、健康づくりに生かす思考を身につける 2. 自己の体力をつくる					
【成績評価の方法】 課題 100%					
【テキスト】なし(授業で資料を提示)					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 演習	コミュニケーションワーク		講義のキーワードを参考に予習・復習を行う	
第2回	講義 演習	体力測定法 体力測定			
第3回	講義 演習	運動の基礎と応用実践			
第4回	講義 演習	運動の基礎と応用実践			
第5回	講義 演習	運動の基礎と応用実践(コグニサイズ)			
第6回	講義 演習	運動の基礎と応用実践			
第7回	講義 演習	障害(腰痛・膝痛)予防の運動			
第8回	演習	運動療法①			
第9回	演習	運動療法②			
第10回	演習	球技大会			
第11回	演習	球技大会			
第12回	演習	球技大会			
第13回	演習	生活習慣病・介護予防運動処方			
第14回	演習	生活習慣病・介護予防運動処方			
第15回		課題			

科目名		コンピューターリテラシーとセキュリティ			
開始時期	1 年前期	単位数	1 単位 (15 時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
様々な情報を適切に処理する力や活用に役立てる力を高めるために、情報科学の基礎を学ぶ。また、情報の活用に伴う倫理的な課題についても考え、適切な情報活用の力を養う。					
【到達目標】					
1. 情報社会に必要なマナーを知る 2. 情報管理の方法、個人情報やセキュリティに関する基礎的な知識を習得する 3. よく使われるアプリケーションソフトの操作を習得する					
【成績評価の方法】 終講試験 50% 課題 50%					
【テキスト】医学書院 看護情報学					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容		
第 1 回	講義	情報セキュリティについて 情報モラル・個人情報について	テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 該当する内容を復習する 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する		
第 2 回	講義	ここまでの確認問題 情報科学室の使用ルール確認 パソコン基本操作、絵を描く			
第 3 回	演習	Word 1 (画面説明、ページ設定、開く/保存 文書書式、段落書式)			
第 4 回	演習	Word 2 (文字カウント、印刷プレビュー/印刷、 図の挿入、オンライン画像の挿入、文字列 の折り返し、図の移動/サイズ変更、図形の 作成、ページ番号の挿入)			
第 5 回	演習	Word 3 (自動文章校正、表の挿入～網掛け、 ワードアート、ページ罫線、段組み～タブ とリーダー、ビジネス文書の基本)			
第 6 回	演習	PowerPoint 1 (画面説明および基本的な操作 オブジェクトの挿入、スライドショー)			
第 7 回	演習	PowerPoint 2 (スライドの移動、画面切り替え アニメーション、配布資料の作成 プレゼンテーションの流れ 良いスライド/悪いスライド)			
第 8 回		終講試験			

科目名		情報科学			
開始時期	3年前期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
□ DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度    □ DP3 看護実践    □ DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
様々な情報を統計的に適切に処理する力や活用に役立てる力を高めるために、統計学の基礎を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 統計処理の基礎が理解できる 2. Excel を用いてデータ処理ができる					
【成績評価の方法】 課題 100%					
【テキスト】東京図書 基礎からの看護保健統計学					
【参考文献】医学書院 看護情報学 統計学    東京図書 医療・看護系のための情報リテラシー					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 演習	情報処理 1 既存の情報の収集方法		該当箇所のテキストを熟読して授業に臨む 該当する内容を復習する 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義 演習	情報処理 2 調査によるデータ収集方法			
第3回	講義 演習	情報処理 3 Excel による統計解析①			
第4回	講義 演習	情報処理 4 Excel による統計解析②			
第5回	講義 演習	情報処理 5 Excel による統計解析③			
第6回	講義 演習	情報処理 6 Excel による統計解析④			
第7回	講義 演習	情報処理 7 Excel による統計解析⑤			
第8回		情報処理課題の実践			

科目名		英語 I			
開始時期	1 年後期	単位数	1 単位 (30 時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
各チャプターで「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を習得する。インプット、アウトプットを繰り返し Listening・Speaking 力をつける。また演習を通して身体を動かしながら英語を活用することで、使える英語の習得を目指す。					
【到達目標】					
1. 看護実践テキストを通し実践的な看護英語コミュニケーション力が習得できる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】 特定非営利活動法人プロフェッショナル イングリッシュコミュニケーション協会 Nursing English in Action					
【参考文献】 なし					
授業の方法		内容		授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容	
第 1 回	講義	英語の 4 技法	初対面の対応	テキストの音源を聞きながら発音練習を行う 単語カードを作成し覚える	
第 2 回	講義	初対面の対応			
第 3 回	講義	初対面の対応・症状			
第 4 回	講義	症状			
第 5 回	講義	症状			
第 6 回	講義	患者のプロフィール			
第 7 回	講義	患者のプロフィール			
第 8 回	講義	患者のプロフィール・病歴と生活習慣			
第 9 回	講義	病歴と生活習慣			
第 10 回	講義	病歴と生活習慣			
第 11 回	講義	病棟内のオリエンテーション			
第 12 回	講義	病棟内のオリエンテーション			
第 13 回	講義	バイタルサイン			
第 14 回	講義	バイタルサイン			
第 15 回		終講試験			

科目名		英語Ⅱ					
開始時期	2年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当		外部講師	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】							
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究							
【授業概要】							
発言しなければ語学力はのびない。ネイティブ講師の English Only の環境で、基礎的な日常会話から自分の考えや意見を述べる、聴くことを通して日常会話に必要な力を身につける。完璧な英語を求めず、間違いを怖がらない。「伝える」を大切にする。							
【到達目標】							
1. 英語で「伝える」ことにチャレンジし、「伝わる」ことを実感できる 2. 英語でコミュニケーションをとることの楽しさを感じ取り、外国語の学習への関心を高めることができる							
【成績評価の方法】 プレゼンテーション 100%							
【テキスト】なし							
【参考文献】なし							
授業の方法		内容			授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義 演習	Starting Conversations 会話を始める			授業内容に沿った「伝えたい」中身を英文で準備する 授業後は繰り返しスピーチする		
第2回	講義 演習	Basic Question Words 会話を広げるための質問をする－答える					
第3回	講義 演習	Likes and Dislikes 好き嫌いについて話す－理由を聴く					
第4回	講義 演習	Daily Schedule 日常生活について話す－質問する					
第5回	講義 演習	Feelings and Emotions 感情の表現方法を学ぶ－共感する					
第6回	講義 演習	Describing Locations 場所の説明をする－確認する					
第7回	講義 演習	Personal History 経験について話す－詳しく聴く					
第8回	講義 演習	Talking about Future 将来について話す－応援する					
第9回	講義 演習	Talking about Japan 日本の文化について話す－共有する					
第10回	講義 演習	Presentation プレゼンテーションを練習する－助言する					
第11回	実習	TOKYO GLOBAL GATEWAYでの 体験型セッション			HRで事前にオリエンテーションを行う 実習目標の立案と、体験したいセッションの選択を行う		
第12回							
第13回							
第14回							
第15回	まとめ	Let`s present what we have learned. 学びのプレゼンテーションを行う					

科目名		中国語（選択科目）			
開始時期	2年後期	単位数	1単位（15時間）	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
中国は圧倒的な人口を誇る大国であり、中国語は世界で最も話されている言語である。中国の標準語である「普通話」を話すことができるようになれば、13億人いるどこの国の中国人ともコミュニケーションがとれる。様々な可能性が広がる中国語の初級編を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 中国語の発音に慣れ、覚えた表現を使って簡単なあいさつや自己紹介ができる 2. 外国語学習や異文化間の違いを認めながらコミュニケーションを取ることの楽しさを感じ取ることができる					
【成績評価の方法】 レポート・参画を総合的に評価する					
【テキスト】金星堂 発音重視！中国語初級マスター22					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第1回	講義	中国について知ろう！ 中国語を発音してみる		中国について、関心のあるテーマについて調べる （歴史、文化、食、芸能、建築 等）	
第2回	講義	中国語の発音 簡単な挨拶を覚える 数を数える		<予習> 指示した動画を視聴する	
第3回	講義	第1課 自己紹介をする		授業内容についてテキストを用いて予習と復習をする	
第4回	講義	第3課 雑談をする			
第5回	講義	第4課 家族構成を聴く			
第6回	講義	第5課 スケジュールを聞く			
第7回	講義	第11課 趣味の話をする			
第8回	まとめ	学びのレポート		調べ学習を行ったノートの持ち込みを可とする	

科目名		スペイン語（選択科目）					
開始時期	2年後期	単位数	1単位（15時間）	科目担当	外部講師		
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】							
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究							
【授業概要】							
スペイン語の話者人口は世界第二位で、スペインをはじめ南北アメリカ大陸 16 カ国、カリブ海地域、アフリカ大陸の 21 の国と地域の公用語である。広大で多様な地域の様々な人たちとコミュニケーションがとれるスペイン語の初級編を学ぶ。							
【到達目標】							
1. スペイン語の発音に慣れ、覚えた表現を使って簡単なあいさつや自己紹介ができる 2. 外国語学習や異文化間の違いを認めながらコミュニケーションを取ることの楽しさを感じ取ることができる							
【成績評価の方法】 レポート・参画を総合的に評価する							
【テキスト】朝日出版社 ¡Hola! ¿Qué tai? –やあ、元気？–							
【参考文献】なし							
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容			
第1回	講義	スペインについて知ろう！ スペイン語を発音してみる アルファベットの暗記や発音の規則を覚える		スペインについて、関心のあるテーマについて調べる（歴史、文化、食、芸能、建築 等）			
第2回	講義	スペイン語の発音 簡単な挨拶を覚える 1–はじめまして、よろしく 数字の教え方		授業内容についてテキストを用いて予習と復習をする			
第3回	講義	スペイン語の発音 簡単な挨拶を覚える 2–やあ！ 元気？ ありがとう、さようなら、また明日					
第4回	講義	スペイン語の発音 簡単な挨拶を覚える 3–自己紹介					
第5回	講義	スペイン語の発音 単数/複数形 冠詞 発音の規則、アクセントの規則を暗記					
第6回	講義	職業 立場などの名詞、いろいろな形容詞 SER 動詞 語彙を増やす					
第7回	講義	SER 動詞 いろいろな疑問詞を使う 質問に答えるだけでなく、聞きたいことを能動的に尋ねる					
第8回	まとめ	学びのレポート				調べ学習を行ったノートの持ち込みを可とする	

科目名		イタリア語（選択科目）			
開始時期	2年後期	単位数	1単位（15時間）	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
EUの公用語であるイタリア語は、イタリア本国、スイス南部で話されているが、多くのイタリア人が世界各地に移民として渡った歴史から、世界でイタリア語が適用する範囲は広い。日本でもイタリア語の名称が多く使われ、歴史的なつながりを知りながらイタリア語の初級編を学ぶ。					
【到達目標】					
1. イタリア語の発音に慣れ、覚えた表現を使って簡単なあいさつや自己紹介ができる 2. 外国語学習や異文化間の違いを認めながらコミュニケーションを取ることを楽しむことができる					
【成績評価の方法】 レポート・参画を総合的に評価する					
【テキスト】三修社 ゼロから話せるイタリア語（改訂版）					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第1回	講義	イタリアについて知ろう！ イタリア語を発音してみるアルファベットの暗記や発音の規則を覚える		イタリアについて、関心のあるテーマについて調べる（歴史、文化、食、芸能、建築 等）	
第2回	講義	イタリア語の発音 簡単な挨拶を覚える 1ーはじめまして、よろしく 数字の教え方		授業内容についてテキストを用いて予習と復習をする	
第3回	講義	イタリア語の発音 簡単な挨拶を覚える 2ーやあ！ 元気？ ありがとう、さようなら、また明日			
第4回	講義	イタリア語の発音 簡単な挨拶を覚える 3ー自己紹介			
第5回	講義	イタリア語の発音 単数/複数形 冠詞 発音の規則、アクセントの規則を暗記			
第6回	講義	職業 立場などの名詞、いろいろな形容詞 動詞 語彙を増やす			
第7回	講義	動詞 いろいろな疑問詞を使う 質問に答えるだけでなく、聞きたいことを能動的に尋ねる			
第8回	まとめ	学びのレポート			

科目名		社会学			
開始時期	1年後期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 社会学的な方法論や態度を学習し、「社会的に保健医療という営みを捉え、考えるということ」について反省的に捉え直す力を養う。					
【到達目標】 1. 社会学的な考え方を身につけることで、社会や自分に対する視野を広げ、自ら表現する力を身につける 2. 社会的に保健医療という営みを捉え、考える力を身につける					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 社会学					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	社会学：健康、病気、医療への視座	テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する		
第2回	講義	社会学の基礎概念			
第3回	講義	保健医療と社会学			
第4回	講義	社会調査の理論と技法			
第5回	講義	健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方			
第6回	講義	健康・病気の社会格差			
第7回	講義	「働き方」「働きせ方」と健康・病気			
第8回	講義	健康・病気行動と病経験			
第9回	講義	患者－医療者関係とコミュニケーション			
第10回	講義	保健医療の専門職			
第11回	講義	性・ジェンダー・家族と保健医療			
第12回	講義	地域社会と保健医療			
第13回	講義	保健医療制度			
第14回	講義	保健医療の現代的变化の位相 ケアと医療			
第15回		終講試験			

科目名		教育学			
開始時期	2 年前期	単位数	1 単位 (15 時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
看護・医療に携わることを目指す者の基礎教育として、教育学の考え方を学ぶ。教育問題や教育ということをも人間の発達や社会との関係という点に戻って考え、判断できる基礎を培う。					
【到達目標】					
1. 教育学の考え方を学び、看護を行う者として他者教育と自己教育を理解できる 2. 自身に関する理解を深め、自己教育と対象を理解しながら、人間関係を形成する方法を身につける					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 教育学					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容		
第 1 回	講義	教育学を学ぶために	テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する		
第 2 回	講義	教育を成り立たせるもの 1			
第 3 回	講義	教育を成り立たせるもの 2			
第 4 回	講義	教育の営みを考える 1			
第 5 回	講義	教育の営みを考える 2			
第 6 回	講義	現代教育の課題 1			
第 7 回	講義	現代教育の課題 2			
第 8 回		終講試験			

科目名		心理学			
開始時期	1年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
人間のこころや行動を理解する際の心理学的な考え方や視点について学習し、対人援助の場面で有用となる各発達段階についての知識を深める。心理学の基礎的理論と応用について学び、人間理解を深め、臨床心理学・カウンセリングなどの基礎的な考え方を学習する。また、自己理解・他者理解や対人援助職としての態度について考え、心理学をどのように活かせるのかについて理解を深める。					
【到達目標】					
1. 心理学的知識を習得する 2. 心理学的知識により、自ら考え、自己理解・他者理解に活かせるようにする					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 心理学					
【参考文献】ミネルヴァ書房 よくわかる発達心理学    よくわかる臨床心理学    東京大学出版会 心理学					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	心理学とは		テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義	感覚と知覚			
第3回	講義	記憶			
第4回	講義	思考・言語・知能			
第5回	講義	学習			
第6回	講義	感情と動機づけ			
第7回	講義	性格とパーソナリティ			
第8回	講義	社会と集団			
第9回	講義	発達 1			
第10回	講義	発達 2			
第11回	講義	発達 3			
第12回	講義	心理臨床 1			
第13回	講義	心理臨床 2			
第14回	講義	医療・看護と心理			
第15回		終講試験			

科目名		倫理学			
開始時期	1 年前期	単位数	1 単位 (15 時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
社会における倫理問題について認識し、倫理原則や価値観について理解を深める。その上で、医療や福祉における倫理的判断や行動について、その重要性を認識して、アプローチの方法を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 社会における倫理的問題について認識し、倫理原則や価値観について説明できる 2. 医療における倫理的判断や行動について協議できる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 看護倫理					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第 1 回	講義	倫理とは何か 倫理と道徳と法律と		講義で指定されたことについて調べる 各章終了後は内容を確認し、授業の内容と共に自己の考えを再考する	
第 2 回	講義	生命倫理とはなにか なぜ、虐待か。なぜ、イジメか。			
第 3 回	講義	性と生殖の生命倫理 たとえば「脳死」と「体外受精」の場合 「いつ治療をやめるか」			
第 4 回	講義	先端医療と制度をめぐる生命倫理① 「認知症」を考える 重度障害者とコミュニケーション			
第 5 回	講義	先端医療と制度をめぐる生命倫理② 「村医者」がやってくる 地域医療が目指すもの			
第 6 回	講義 グループワーク	死の生命倫理 「看取り」と「こころの時代」			
第 7 回	講義 グループワーク	倫理的問題へのアプローチ 検証・現代社会の倫理課題から			
第 8 回		終講試験			

科目名		人間関係論				
開始時期	1 年前期	単位数	1 単位 (15 時間)	科目担当	専任教員・外部講師	
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】						
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
人間関係とは自己と他者の関わりから理解することができる。人間関係構築のための態度や能力を体験的に理解し、専門職業人としての成長を目指す。						
【到達目標】						
1. グループワーク・研修参加を通して人との交流、組織的活動の視点でコミュニケーションのあり方を考えることができる 2. 「自分」について考え、表現することで「自分を知る」ことの意義を理解できる 3. 「他者」との応答を通して「他者を知る」ことの意義を理解できる 4. 学んだ知識を関連・統合させて、自分の体験に意味や価値を見出すことができる						
【成績評価の方法】 レポート 100%						
【テキスト】 医学書院 人間関係論						
【参考文献】 なし						
授業の方法		内容		授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容		
第 1 回	講義	チーム力を高める実践活動 学内：オリエンテーション				
第 2 回	演習	人間関係の中の自己と他者 レクリエーション：外部講師				
第 3 回						
第 4 回						
第 5 回	演習	人間関係発展に必要な基本技術 接遇 (マナー)：外部講師				前回の講義で指定された用語や事象を事前に調べる
第 6 回	講義 グループワーク	安心・安全の場の体験を通して、現在の自己についての気づきを深め、同志と共有する ：外部講師				
第 7 回	講義 グループワーク	自己、他己の関係性の中から様々な価値観について語り合う体験を通して、人間関係における多様性について感じたことを同志と共有する：外部講師				
第 8 回	講義 グループワーク	「私を生きる」をテーマに語り合い「私」についての理解を深め、気づきや感じたことを同志と共有する：外部講師				

科目名		家族論			
開始時期	2 年前期	単位数	1 単位 (15 時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
現代社会の家族における諸問題、家族の多様性、男女の性差や平等性をめぐるジェンダー、現代社会と家族についてなど、時代の変化に伴う家族のあり方を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 様々な家族形態や現代の家族の諸問題を理解し、家族や家族を取り巻く現状の理解ができる 2. 現代社会と家族の特徴が理解できる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 家族看護学					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容	
第 1 回	講義	家族とは 看護のために家族をみつめ直す		予習：テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 復習：リフレクションペーパー及び設問への回答を記載し提出する レジュメやテキストの関連する内容の箇所を読む グループワーク等でのほかの学生の意見と自分の考えとの違いを振り返り、家族観について自己の考えを深める	
第 2 回	講義	家族構造 家族をめぐる歴史と構造			
第 3 回	講義	家族機能 ジェンダーとセクシュアリティ			
第 4 回	講義	家族機能 恋愛・結婚・生殖をめぐる現代			
第 5 回	講義	現代の家族とその課題 依存と自立 (ヤングケアラー) の問題			
第 6 回	講義	現代の家族とその課題 家族をめぐるイノセンス・暴力・赦し			
第 7 回	講義	医療における現代の家族とその課題 老いゆくこと、死にゆくこと、別れること			
第 8 回		終講試験			

科目名		キャリアデザイン			
開始時期	3年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
自分自身の看護職としてのキャリア(生き方、働き方)を思い描くとともに、人間としての成長を目指す過程をデザインできることを目標に、将来に向けたキャリア開発を考える力を養う。					
【到達目標】					
1. キャリアデザインする上で必要な考え方を理解できる 2. キャリア開発に必要な自己理解を深めることができる 3. 他者の経験を聞くことで、多様な生き方、考え方があることを知り、自己のキャリアデザインに役立てることができる					
【成績評価の方法】 レポート 100%					
【テキスト】 つちや書店 看護師のためのキャリアデザイン B00K					
【参考文献】 なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	キャリアデザインとは:外部講師		授業前に該当箇所の予習(授業内で提示) 授業後に該当箇所の復習(授業内で提示)	
第2回	講義	ライフスタイルとキャリア:外部講師			
第3回	講義	働き方を知る:外部講師			
第4回	講義	看護を行う人としての社会人基礎力:外部講師			
第5回	講義	看護師のキャリアデザイン:外部講師			
第6回	講義	キャリアデザインを支える考え方:外部講師			
第7回	講義	キャリア理論:外部講師			
第8回	講義	他者のキャリアから学ぶ:外部講師 (専門看護師)			
第9回	講義	他者のキャリアから学ぶ:外部講師 (中小企業経営支援の看護師)			
第10回	講義	他者のキャリアから学ぶ:外部講師			
第11回	講義	キャリアデザインの実践			
第12回	講義	キャリアデザインの実践			
第13回	講義	今後のキャリアデザインのプレゼンテーション			
第14回	講義	今後のキャリアデザインのプレゼンテーション			
第15回		学びのレポート			

## 2 専門基礎分野 22 単位

### 1) 人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進 16 単位

人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関するヘルスアセスメント力を強化できるよう、〈人体の構造と機能〉では「解剖生理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」「生化学」「栄養学」を、〈疾病の成り立ちと回復の促進〉として、「病理学」「疾病と治療Ⅰ」「疾病と治療Ⅱ」「疾病と治療Ⅲ」「疾病と治療Ⅳ」「疾病と治療Ⅴ」「微生物学」「薬理学」を科目設定した。また、3年次に「リハビリテーション学」を設定し、より専門性の高い内容の学習を強化して深い理解につながるようにした。

臨床判断能力については、臨床判断（クリニカルジャッジメント）の効果的な能力を育成するため、気づきの基になる解剖生理学Ⅰと疾病と治療Ⅰ・Ⅱを1年次に学び、その知識を看護に活用できるよう、人体を構成する各器官系の機能を日常生活の視点から、専門看護師や認定看護師の学びを取り入れる。さらに2年次に解剖生理学Ⅱ、疾病と治療Ⅲ～Ⅴを取り入れ、学内でのシミュレーション教育と臨床実習での体験を積み上げ、知識と経験を積むことで深い理解につながるようにした。

### 2) 健康支援と社会保障制度 6 単位

本校は「共に生きる社会」の発展に貢献するという教育理念を反映させるため、保健・医療・福祉の幅広い知識の学習とセルフケア能力、調整能力を強化するため、「多職種連携と協働」「公衆衛生学」「看護関係法令」「社会保障・社会福祉」を科目設定した。特にこれからの地域社会を支える多職種協働を実現させるため、「多職種連携と協働」は2単位に設定し、多職種の講師を迎え、看護師、他の専門職の視点や価値観を共有し理解する。さらに、よりよいケア実践を目指したチーム医療の連携に向けて、事例を活用し、一緒に考える、話し合う過程で協働の在り方を学べる内容とした。「看護関係法令」では看護業務に携わる人の身分や業務に関する法の理解と共に、国民の健康を守る立場、また自分自身が一人の国民として、生活者として、職業人として健康な生活を維持するために必要な法令について学習する。

科目名		解剖生理学 I			
開始時期	1 年前期	単位数	2 単位 (60 時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
<p>本科目では、看護が実践する日常生活援助のなかで必要な解剖学の知識、生理学の知識を活用できるよう学習していく。学習を通して対象のからだに働きかけ、その人の持つ最大限の力を発揮できる看護を、根拠をもち、自信をもって実施できるようになる。</p>					
【到達目標】					
1. 学んだ知識から根拠を持った日常生活支援を実践することができる 2. 看護の対象となる人のからだを学習し、その知識を活かして対象に必要な看護を考えることができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 解剖生理学					
【参考文献】日本看護協会出版会 看護形態機能学 生活行動からみるからだ					
授業の方法		内容		授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容	
第 1 回	講義	解剖生理学のための基礎知識 1 :外部講師 人体とはどういうものか 構成要素から見たヒトの体 細胞から器官		予習 : テキストを読み知らない言葉を調べる 復習 : 講義内容を図など活用してまとめる	
第 2 回	講義	解剖生理学のための基礎知識 2 :外部講師 機能からみた人体			
第 3 回	講義	生きているとはどういうことか 1 内部環境と恒常性 ①細胞とは②体液の分類と量③血漿とpH			
第 4 回	講義	生きているとはどういうことか 2 生命維持と生活行動 ①動脈血と酸素分圧②血漿の糖分			
第 5 回	講義	血液の循環とその調節 1 :外部講師 体液と血液・血球・血液凝固			
第 6 回	講義	血液の循環とその調節 2 :外部講師 心臓の構造と機能 心臓の拍出機能			
第 7 回	講義	血液の循環とその調節 3 :外部講師 末梢循環系の構造			
第 8 回	講義	血液の循環とその調節 4 :外部講師 血液循環の調節 リンパとリンパ管			
第 9 回	講義	恒常性維持のための物質流通(運ぶ) 1 流通の媒体(血液) ①血液の恒常性維持 ②物質の運搬			
第 10 回	講義	恒常性維持のための物質流通(運ぶ) 2 流通路と流通の原動 ①血管、リンパ管②脾臓③心臓④血圧			
第 11 回	講義	恒常性維持のための物質流通(運ぶ) 3 血液凝固			
第 12 回	講義	栄養の消化と吸収 1 :外部講師 消化器官とは 口腔から咽頭、食道の構造と機能			
第 13 回	講義	栄養の消化と吸収 2 :外部講師 胃から小腸の構造と機能			
第 14 回	講義	栄養の消化と吸収 3 :外部講師 大腸の構造と機能			
第 15 回	講義	栄養の消化と吸収 4 :外部講師 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 腹膜について			

科目名		解剖生理学 I					
開始時期	1 年前期	単位数	2 単位 (60 時間)	科目担当	外部講師・専任教員		
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】							
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究							
【授業概要】							
<p>本科目では、看護が実践する日常生活援助のなかで必要な解剖学の知識、生理学の知識を活用できるよう学習していく。学習を通して対象のからだに働きかけ、その人の持つ最大限の力を発揮できる看護を、根拠をもち、自信をもって実施できるようになる。</p>							
【到達目標】							
1. 学んだ知識から根拠を持った日常生活支援を実践することができる 2. 看護の対象となる人のからだを学習し、その知識を活かして対象に必要な看護を考えることができる							
【成績評価の方法】 定期試験 100%							
【テキスト】医学書院 解剖生理学							
【参考文献】日本看護協会出版会 看護形態機能学 生活行動からみるからだ							
授業の方法		内容		授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容			
第 16 回	講義	食べる 1 食欲から食行動 ①食物を口に運ぶまで②食物の性質判断 ③口の準備		予習：テキストを読み知らない言葉を調べる 復習：講義内容を図など活用してまとめる			
第 17 回	講義	食べる 2 食行動の調節 (何をどれだけ食べるのか) 咀嚼し味わい飲み込む					
第 18 回	講義	食べる 3 消化と吸収 ①消化管の構造②消化液の作用 ③消化液分泌の調節④吸収後の栄養分					
第 19 回	講義	身体の支持と運動 1 :外部講師 骨と骨格・関節について 骨格筋について					
第 20 回	講義	身体の支持と運動 2 :外部講師 頭頸部と体幹の骨格と筋 筋の収縮について					
第 21 回	講義	身体の支持と運動 3 :外部講師 上肢・下肢の骨格と筋					
第 22 回	講義	動く 1 姿勢 ①体位と構え②赤ちゃんが歩くまで ③意図的でない運動…反射④体位保持					
第 23 回	講義	動く 2 神経から筋への指令と筋の収縮 ①骨格 骨格筋関節②意図的な運動					
第 24 回	講義	動く 3 日常生活の基本的な動き					
第 25 回	講義	情報の受容と処理 1 :外部講師 神経系の構造と機能					
第 26 回	講義	情報の受容と処理 2 :外部講師 脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 錐体路と錐体外路					
第 27 回	講義	情報の受容と処理 3 :外部講師 運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路					
第 28 回	講義	情報の受容と処理 4 :外部講師 目の構造と視覚 耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚と嗅覚					
第 29 回	講義	話す、聞く(感じ、考える) 声を出す(言語野と大脳の働き) 聞く、ことばを発する(聴覚のメカニズム)					
第 30 回		終講試験					

科目名		解剖生理学Ⅱ			
開始時期	2年前期	単位数	2単位(60時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
<p>本科目では、看護が実践する日常生活援助のなかに必要な解剖学の知識、生理学の知識を活用できるよう学習していく。学習を通して対象のからだに働きかけ、その人の持つ最大限の力を発揮できる看護を、根拠をもち、自信をもって実施できるようになる。</p>					
【到達目標】					
1. 学んだ知識から、根拠を持った日常生活支援を実践することができる 2. 看護の対象となる人のからだを学習しその知識を活かして対象に必要な看護を考えることができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 解剖生理学					
【参考文献】日本看護協会出版会 看護形態機能学 生活行動からみるからだ					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	内臓機能の調節 1 : 外部講師 自律神経による調節		予習：テキストを読み知らない言葉を調べる 復習：講義内容をノートにまとめる	
第2回	講義	内臓機能の調節 2 : 外部講師 内分泌系による調節			
第3回	講義	内臓機能の調節 3 : 外部講師 全身の内分泌腺と内分泌細胞			
第4回	講義	内臓機能の調節 4 : 外部講師 ホルモン分泌の調節			
第5回	講義	恒常性維持のための調整機構(整える)1 神経性調節①受容器②中枢神経③末梢神経 ④情報の伝達法			
第6回	講義	恒常性維持のための調整機構(整える)2 液性調節 ①ホルモンとは②ホルモンの分泌調整 ③ホルモンの働き			
第7回	講義	恒常性維持のための調整機構(整える)3 恒常性維持①血圧調節②体温調節 ③ストレス			
第8回	講義	呼吸と血液の働き 1 : 外部講師 呼吸器の構造 他			
第9回	講義	呼吸と血液の働き 2 : 外部講師 呼吸 他			
第10回	講義	呼吸と血液の働き 3 : 外部講師 肺の循環と血流 他			
第11回	講義	息をする 1 息を吸う吐く ①呼吸運動の神経支配②呼吸運動 ③気道から肺の構造			
第12回	講義	息をする 2 ガス交換 ①メカニズム…外呼吸・内呼吸 ②換気の仕組み…血液によるガス交換			
第13回	講義	体液の調節と尿の生成 1 : 外部講師 腎臓の構造と機能 他			
第14回	講義	体液の調節と尿の生成 2 : 外部講師 排尿路 他			
第15回	講義	体液の調節と尿の生成 3 : 外部講師 体液の調節 他			

科目名		解剖生理学Ⅱ			
開始時期	2年前期	単位数	2単位(60時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
<p>本科目では、看護が実践する日常生活援助のなかで必要な解剖学の知識、生理学の知識を活用できるよう学習していく。学習を通して対象のからだに働きかけ、その人の持つ最大限の力を発揮できる看護を、根拠をもち、自信をもって実施できるようになる。</p>					
【到達目標】					
1. 学んだ知識から、根拠を持った日常生活支援を実践することができる 2. 看護の対象となる人のからだを学習しその知識を活かして対象に必要な看護を考えることができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 解剖生理学					
【参考文献】日本看護協会出版会 看護形態機能学 生活行動からみるからだ					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第16回	講義	排泄する 1 排尿 体液量の調節機構…レニン、アンギオテンシン、アルドステロン系 抗利尿ホルモン		予習：テキストを読み知らない言葉を調べる 復習：講義内容をノートにまとめる	
第17回	講義	排泄する 2 排便			
第18回	講義	排泄する 3 二酸化炭素 アンモニア その他 アシドーシス アルカローシスについて			
第19回	講義	身体機能の防御と適応 1 : 外部講師 皮膚の構造と機能			
第20回	講義	身体機能の防御と適応 2 : 外部講師 生体の防御機構			
第21回	講義	身体機能の防御と適応 3 : 外部講師 代謝と運動 他			
第22回	講義	侵入物に対する防衛(守る) 1 非特異的防衛機構(皮膚 消化管) 痛覚			
第23回	講義	侵入物に対する防衛(守る) 2 食作用			
第24回	講義	侵入物に対する防衛(守る) 3 免疫			
第25回	講義	清潔にする 皮膚粘膜の働きと温まることの効果			
第26回	講義	生殖・発生と老化の仕組み 1 : 外部講師 男性 女性 生殖器			
第27回	講義	生殖・発生と老化の仕組み 2 : 外部講師 受精と胎児の発生 成長と老化 他			
第28回	講義	子どもを産む 1 : 外部講師 生殖を支えるホルモンと性の違い 遺伝による男女 ホルモンによる男女			
第29回	講義	子どもを産む 2 : 外部講師 性交と受精、出産			
第30回		終講試験			

科目名		生化学			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
看護や医学領域での生化学では、生物物質の基本的知識とその物質代謝を基に健康なヒトでの生体内の機能や、それがいかに維持されて調節されているかを理解する。さらに病気や病態の発生の過程を生化学的視点から考察し、人体の構成成分である化学物質の性状、その分布および代謝について学ぶ。					
【到達目標】					
1. 代謝と生体のエネルギーについて理解できる 2. 生命現象を引き起こす物質と化学反応について理解する 3. 遺伝子情報とその発現について理解する					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 生化学					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	生化学を学ぶための基礎知識		テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義	糖質の構造と機能			
第3回	講義	脂質の構造と機能			
第4回	講義	タンパク質の構造と機能			
第5回	講義	タンパク質の構造と機能			
第6回	講義	酵素・補酵素			
第7回	講義	ビタミン			
第8回	講義	ミネラル			
第9回	講義	遺伝子と核酸		テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第10回	講義	遺伝子の複製・修復・組み換え			
第11回	講義	バイオテクノロジー			
第12回	講義	糖質代謝			
第13回	講義	脂質代謝			
第14回	講義	タンパク質代謝			
第15回		終講試験			

科目名		栄養学			
開始時期	2年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
人間は、外界から体内へ「食物」を摂りこむことにより生命を維持している。食品に含まれる各栄養素がどのように体内で消化吸収され、代謝され利用されていくのか、人間にとっての食の意義を理解する。					
【到達目標】					
1. 栄養状態のアセスメント、各疾患別に応じた食事療法を学び、栄養と健康・疾病との関連について理解することができる 2. 人間に必要な栄養について理解し、効果的な食事療法ができるよう、基礎的知識を理解することができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 栄養学					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	看護と栄養 栄養とは、日本の食生活の変遷と現状	テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する		
第2回	講義	食事と食品			
第3回	講義	栄養素の種類とはたらき			
第4回	講義	栄養素の種類とはたらき			
第5回	講義	栄養素の種類とはたらき			
第6回	講義	食物の消化と栄養素の吸収・代謝			
第7回	講義	エネルギー代謝			
第8回	講義	食事摂取基準			
第9回	講義	ライフステージと栄養			
第10回	講義	栄養状態の評価・判定			
第11回	講義	特別用途食品、機能性食品、介護食			
第12回	講義	臨床栄養－食事療法、種類と形態について			
第13回	講義	臨床栄養－疾患・症状別食事療法			
第14回	講義	臨床栄養－疾患・症状別食事療法			
第15回		終講試験			

科目名		病理学			
開始時期	1年後期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
奇形や退行性病変、進行性病変、炎症、腫瘍などの病変のカテゴリーに関する知識を得るとともにそれらの病変が各種の臓器に現れた疾病の成り立ちについて学ぶ。					
【到達目標】					
1. 病気の原因、病気の発症・進展の過程、患者に対する影響などを明らかにすることができる 2. それぞれの病気について本質から理解していくことができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 病理学					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	病理学とは	テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する		
第2回	講義	病理診断の実際			
第3回	講義	細胞・組織の損傷と修復、老化と死			
第4回	講義	循環障害、代謝障害			
第5回	講義	免疫、移植と再生医療、感染症			
第6回	講義	先天異常と遺伝性疾患			
第7回	講義	腫瘍概論(定義と分類)			
第8回	講義	循環器系の疾患			
第9回	講義	血液・造血器系の疾患、内分泌系の疾患			
第10回	講義	消化器系の疾患			
第11回	講義	呼吸器系の疾患			
第12回	講義	腎・泌尿器、生殖器系および乳腺の疾患			
第13回	講義	脳・神経・筋肉系の疾患			
第14回	講義	腫瘍の診断と治療			
第15回		終講試験			

科目名		疾病と治療 I (消化器、運動器、脳神経)			
開始時期	1 年全期	単位数	2 単位 (30 時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
脳神経系・運動器系・消化器系の形態や機能を踏まえ、症状・疾患を理解し、診断・治療・検査について学ぶ。					
【到達目標】					
1. 脳神経系疾患の症状と病態生理、検査・治療について理解することができる 2. 運動器系疾患の症状と病態生理、検査・治療について理解することができる 3. 消化器系疾患の症状と病態生理、検査・治療について理解することができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 消化器 運動器 脳・神経					
【参考文献】医学書院 病理学 臨床検査 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム					
授業の方法		内容		授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容	
第 1 回	講義	内科系疾患 1 消化器系の疾患の症状と病態生理 検査・治療		テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第 2 回	講義	内科系疾患 2 胆道、肝臓、膵臓の疾患			
第 3 回	講義	外科系疾患 1 消化管の症状と検査法			
第 4 回	講義	外科系疾患 2 口腔、食道、胃の疾患			
第 5 回	講義	外科系疾患 3 腸、肛門および腹膜の疾患			
第 6 回	講義	外科系疾患 4 肝臓の疾患			
第 7 回	講義	運動器系疾患 1 症状と病態生理、検査・治療、疾患の理解 ①骨粗鬆症 ②骨折 ③脱臼 ④靭帯			
第 8 回	講義	運動器系疾患 2 ⑤骨髄炎 ⑥変形性関節症			
第 9 回	講義	運動器系疾患 3 ⑦変形性脊椎症 ⑧椎間板ヘルニア			
第 10 回	講義	運動器系疾患 4 ⑨関節リウマチ 他			
第 11 回	講義	脳神経系の疾患 1 症状と病態生理、検査・治療、疾患の理解 ①脳梗塞 ②一過性脳虚血発作 (TIA)			
第 12 回	講義	脳神経系の疾患 2 ③脳出血			
第 13 回	講義	脳神経系の疾患 3 ④くも膜下出血			
第 14 回	講義	脳神経系の疾患 4 ⑤硬膜外血腫、硬膜下血腫			
第 15 回		終講試験			

科目名		疾病と治療Ⅱ（呼吸器、循環器）			
開始時期	2年前期	単位数	1単位（15時間）	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
呼吸器系・循環器系の形態や機能を踏まえ、症状・疾患を理解し、診断・治療・検査について学ぶ。					
【到達目標】					
1. 呼吸器系疾患の症状と病態生理、検査・治療について理解することができる 2. 循環器系疾患の症状と病態生理、検査・治療について理解することができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 呼吸器 循環器					
【参考文献】医学書院 病理学 臨床検査					
授業の方法		内容	授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容		
第1回	講義	循環器系疾患 1 症状と病態生理、検査と治療、疾患の理解 ①不整脈	テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する		
第2回	講義	循環器系疾患 2 ②狭心症			
第3回	講義	循環器系疾患 3 ③心筋梗塞			
第4回	講義	循環器系疾患 4 ④心不全			
第5回	講義	呼吸器系疾患 1 症状と病態生理、検査と治療 ①肺炎			
第6回	講義	呼吸器系疾患 2 ②肺気腫			
第7回	講義	呼吸器系疾患 3 ③肺がん 他			
第8回		終講試験			

科目名		疾病と治療Ⅲ（腎・泌尿器、内分泌）			
開始時期	2年全期	単位数	1単位（15時間）	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 腎・泌尿器・内分泌・代謝の形態や機能を踏まえ、症状・疾患を理解し、診断・治療・検査について学ぶ。					
【到達目標】					
1. 腎・泌尿器系疾患の症状と病態生理、検査・治療・検査について理解することができる 2. 内分泌系・代謝障害の症状と病態生理、検査・治療・検査について理解することができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 腎・泌尿器 内分泌・代謝					
【参考文献】医学書院 病理学 臨床検査					
授業の方法		内容	授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容		
第1回	講義	腎・泌尿器系疾患 1 症状と病態生理、検査・治療 <内科的治療> ①腎・泌尿器の構造と機能	テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する		
第2回	講義	腎・泌尿器系疾患 2 <内科的治療> ②腎不全と AKI・CKD ③腎・尿路の炎症 他			
第3回	講義	腎・泌尿器系疾患 3 <外科的治療> ①腎・尿路の通過障害と機能障害			
第4回	講義	腎・泌尿器系疾患 4 ②尿路・性器の腫瘍			
第5回	講義	内分泌系・代謝疾患 1 症状と病態生理、検査・治療、疾患の理解 ①視床下部一下垂体疾患 ②副腎の疾患			
第6回	講義	内分泌系・代謝疾患 2 ③代謝疾患			
第7回	講義	内分泌系・代謝疾患 3 ④甲状腺疾患			
第8回		終講試験			

科目名		疾病と治療Ⅳ（血液、アレルギー、感染症）			
開始時期	2年後期	単位数	1単位（15時間）	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
血液、アレルギー、感染症についての形態や機能を踏まえ、症状・疾患を理解し、診断・治療・検査について学ぶ。					
【到達目標】					
1. 血液・造血器疾患の症状と病態生理、検査・治療・検査について理解することができる 2. アレルギー・感染症疾患の症状と病態生理、検査・治療・検査について理解することができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 血液・造血器 アレルギー 膠原病 感染症					
【参考文献】医学書院 病理学 臨床検査					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第1回	講義	血液と造血器疾患 1 症状と病態生理、検査・治療、疾患の理解 ①赤血球系の異常、白血球系の異常		テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義	血液と造血器疾患 2 ②造血器腫瘍			
第3回	講義	血液と造血器疾患 3 ③出血性疾患 他			
第4回	講義	アレルギーと自己免疫疾患の症状 1 病態生理、検査・治療			
第5回	講義	アレルギーと自己免疫疾患の症状 2 病態生理、検査・治療			
第6回	講義	感染症と病原微生物			
第7回	講義	感染症の症状と病態生理 検査と治療			
第8回		終講試験			

科目名		疾病と治療Ⅴ（緩和医療、がん、神経・筋）			
開始時期	2年後期	単位数	1単位（15時間）	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
緩和医療、がん、神経・筋についての形態や機能を踏まえ、症状・疾患を理解し、診断・治療・検査について学ぶ。					
【到達目標】					
1. がんの症状と病態生理、検査・治療について理解することができる 2. 緩和医療について理解することができる 3. 神経・筋疾患の症状と病態生理、検査・治療について理解することができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 緩和ケア 脳・神経					
【参考文献】医学書院 病理学 臨床検査					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第1回	講義	がんの病態生理		テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義	緩和医療の実際 医療倫理と意思決定支援			
第3回	講義	がんの特徴的な症状とマネジメント ：認定看護師			
第4回	講義	がんの鎮痛・鎮静 ：認定看護師			
第5回	講義	末梢神経・筋疾患 1 ①パーキンソン病 ②筋萎縮性側索硬化症			
第6回	講義	末梢神経・筋疾患 2 ③筋ジストロフィー ④重症筋無力症 ⑤ギランバレー症候群			
第7回	講義	末梢神経・筋疾患 3 ⑥脊髄小脳変性症 ⑦多系統萎縮症 ⑧多発性硬化症			
第8回		終講試験			

科目名		微生物学			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
看護実践に必要な微生物学の知識を学び、看護場面における感染を防止する使命を理解し、安全な看護を提供する力を養う。					
【到達目標】					
1. 細菌やウイルスなど微生物の生物学的特徴を知り、感染症の概念、感染症と生体防御、消毒・滅菌法、衛生材料の取り扱いなどの基礎知識を学ぶ 2. 主な病原微生物とその感染症、予防対策について学ぶ					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 微生物学					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	微生物学の基礎	テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する		
第2回	講義	感染とその防御 感染と感染症			
第3回	講義	感染に対する生体防御機構 1			
第4回	講義	感染に対する生体防御機構 2			
第5回	講義	滅菌と消毒			
第6回	講義	感染症の検査と診断			
第7回	講義	感染症の治療			
第8回	講義	感染症の現状と対策			
第9回	講義	病原細菌と細菌感染症 1			
第10回	講義	病原細菌と細菌感染症 2			
第11回	講義	病原ウイルスとウイルス感染症 1			
第12回	講義	病原ウイルスとウイルス感染症 2			
第13回	講義	病原微生物と真菌感染症			
第14回	講義	寄生虫と衛生動物			
第15回		終講試験			

科目名		薬理学			
開始時期	2年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
現代医学における薬物治療とあわせて、代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理などについて学ぶ。					
【到達目標】					
1. 現代医学における薬物治療について理解する 2. 代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理について理解する					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 薬理学					
【参考文献】医学書院 臨床薬理学					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	薬理学総論1 薬とはどのようなものか 生体の機能と薬理作用 薬物の体内動態		テキストの該当箇所を熟読し授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義	薬理学総論2 薬効に及ぼす影響要因 薬の有害作用 薬の適用 各種製剤と処方箋 処方の実際と看護			
第3回	講義	臨床薬理 抗感染症薬・消毒薬			
第4回	講義	アレルギーおよび炎症に対する薬物			
第5回	講義	末梢での神経活動に作用する薬物			
第6回	講義	心臓・血管系に作用する薬物			
第7回	講義	中枢神経に作用する薬物			
第8回	講義	呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物			
第9回	講義	物質代謝に作用する薬物			
第10回	講義 演習	抗がん薬 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防 策の実施			
第11回	講義	外用薬			
第12回	講義	救急の際に使用される薬物			
第13回	講義	漢方薬			
第14回	講義	検査・診断薬			
第15回		終講試験			

科目名		リハビリテーション学			
開始時期	3年全期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 解剖学の知識を応用し、実践に即したリハビリテーション技術を学ぶ。					
【到達目標】 1. 臨床で必要なリハビリテーション技術が理解でき、実践できる					
【成績評価の方法】 レポート 100%					
【テキスト】 医学書院 成人看護学総論 リハビリテーション看護 地域・在宅看護の実践					
【参考文献】 中央法規 リハビリ現場で使える移動・移乗技術トレーニング					
授業の方法		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	演習	理学療法概論 1 運動療法・基本的動作の体験～介助、リハビリ ロボット:外部講師	授業前に該当箇所の予習(授業内で提示) 授業後に該当箇所の復習(授業内で提示)		
第2回	演習	理学療法概論 2 運動療法・基本的動作の体験～介助 :外部講師			
第3回	演習	作業療法概論 日常生活動作 :外部講師			
第4回	講義 演習	リハビリテーション工学科、義肢装具 福祉用具:外部講師			
第5回	講義 演習	言語障害・嚥下障害とリハビリテーション :外部講師			
第6回	講義 演習	視覚障害者のリハビリテーション :外部講師			
第7回	講義 演習	リハビリテーション看護 多職種連携と看護			
第8回		学びのレポート			

科目名		多職種連携と協働			
開始時期	1年全期	単位数	2単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
多職種の連携・協働を図る必要性を理解し、専門職として必要な知識と技術を学ぶ。また、保健・医療・福祉など関連職種の専門性や価値観を理解し、より良いケアの実践を目指すチーム医療連携に向けた看護師の役割を考えることができる。					
【到達目標】					
1. 多職種連携の必要性が理解できる 2. 多職種連携における看護師の役割が理解できる 3. 各職種の考え方や視点の違いについて気づくことができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】なし					
【参考文献】医学書院 看護学概論 地域・在宅看護の基盤 老年看護学 リハビリテーション看護					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	多職種連携の概念		授業後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義 グループワーク	多職種連携における看護師の役割			
第3回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解			
第4回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 1:外部講師(薬剤師)			
第5回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 2:外部講師(理学療法士)			
第6回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 3:外部講師(作業療法士)			
第7回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 4:外部講師(言語聴覚士)			
第8回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 5:外部講師(公認心理士)			
第9回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 6:外部講師(地域連携部門)			
第10回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 7:外部講師(ケアマネジャー)			
第11回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 8:外部講師(介護士)			
第12回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 9:外部講師(看護師)			
第13回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 10:まとめ①			
第14回	講義 グループワーク	保健・医療・福祉を支える職種の理解と職種間連携 11:まとめ②			
第15回		終講試験			

科目名		公衆衛生学			
開始時期	2年前期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
人間が健康な生活を維持するために必要な公衆衛生活動および衛生法規について学び、看護活動をしていくうえで必要な法令について学ぶ。					
【到達目標】					
1. 予防医学、人口動態、母子保健、精神保健、地域保健、学校保健、産業保健、環境保健を含めて社会の健康を守ることを総合的に学習できる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 公衆衛生 厚生労働統計協会 国民衛生の動向					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	公衆衛生学の基本理念と歴史について学ぶ		テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義	公衆衛生の活動対象について学ぶ			
第3回	講義	公衆衛生のしくみについて学ぶ			
第4回	講義	集団の健康をとらえるための手法、疫学・保健統計を理解する			
第5回	講義	環境保健や感染症の現状を知り、今後の問題点を考える			
第6回	講義	地域における公衆衛生の実際を学習しその概念を理解する 1 (母子保健・成人保健・高齢者保健)			
第7回	講義	地域における公衆衛生の実際を学習しその概念を理解する 2 (精神保健・歯科保健・障害者保健・難病保健)			
第8回		終講試験			

科目名		看護関係法令			
開始時期	1年後期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
<p>看護師が質の高い看護を提供するために、社会人として充実した豊かな人生と、職業人としての任務を果たし、人々の健康を守るための保健医療福祉に関する諸制度の理解、それを規定する諸法令を理解することが必要である。職務を正しく遂行するために基本的なことを学習し、国民の健康を守る立場や一国民、生活者としての視点から健康な生活を維持するために必要な法令について理解を深める。</p>					
【到達目標】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護に携わるものとして必要な保健師助産師看護師法を理解する</li> <li>2. 学んだ法令がなぜこのような内容になっているのかを考えることができる</li> <li>3. 学んだ法令と看護との関係はどのようなのかを考え、日常生活や実習と関連付けて理解することができる</li> </ol>					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 看護関係法令					
【参考文献】ナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障(4) 看護をめぐる法と制度					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	法の概念について学ぶ		テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義	看護法について学ぶ ①保健師助産師看護師法 ②看護師等の人材確保の促進に関する法律			
第3回	講義	医事法について学ぶ ①医療法 ②医療関係資格法			
第4回	講義	保健衛生法について ①共通保健法 ②分野別保健法			
第5回	講義	薬務法について学ぶ			
第6回	講義	環境衛生法と環境法について学ぶ			
第7回	講義	労働法と社会基盤整備について学ぶ			
第8回		終講試験			

科目名		社会保障・社会福祉			
開始時期	2年後期	単位数	2単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
生活を支える社会福祉の考え方や理念を学び、我が国の社会福祉と社会保障の概要について体系的に理解する。 また、社会福祉を支える法制度とその変遷を学び、我が国の実態と問題、施策の関係性について学ぶ。合わせて、今後の課題と対策を考える力を養う。					
【到達目標】					
1. 障害者や要介護高齢者など社会的な援護を要するものが自立した生活を送れるよう生活面での様々な支援を学ぶ 2. 社会保障や社会福祉の制度の理解をする					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】 医学書院 社会保障・社会福祉					
【参考文献】 ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障 社会福祉と社会保障					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	社会保障制度とは 社会保障の概念・目的・機能・体系・内容		テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り学習内容を再確認する	
第2回	講義	社会福祉の法制度 社会福祉サービスの内容とサービス提供のしくみ			
第3回	講義	社会福祉法と福祉6法			
第4回	講義	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向			
第5回	講義	医療保障 ①我が国の医療保障制度の特徴 ②健康保険と国民健康保険			
第6回	講義	高齢者医療制度 ①後期高齢者医療制度 ②保険診療のしくみ			
第7回	講義	介護保険制度の歴史と概要			
第8回	講義	介護保険の財政 ～介護保険制度の課題と展望～			
第9回	講義	所得保障制度のしくみ ～我が国の年金保険制度のしくみ～			
第10回	講義	社会手当 ～労働保険制度～			
第11回	講義	公的扶助 ①貧困・低所得問題と公的扶助制度 ②生活保護制度のしくみ			
第12回	講義	社会福祉の分野とサービス1 ①高齢者福祉 ②障害者福祉			
第13回	講義 グループワーク	社会福祉の分野とサービス2 1 児童家庭福祉			
第14回	講義	社会福祉実践と医療・看護 1 社会福祉援助とは 2 社会福祉援助の検討課題・連携の重要性			
第15回		終講試験			

### 3 専門分野

#### 1) 講義 43 単位

地域での暮らしを支援するということでは基礎看護学だけでなく地域・在宅看護論も各看護学の基盤と考えた。そのため、1年次より地域・在宅看護論実習を計画し、看護の対象及び目的の理解、健康の保持増進及び疾病・障害の看護の方法を、地域共生社会の理解、自主的な学習方法の獲得も考えた実習を設けた。

各看護学において、臨床実践能力の向上を図るため、臨床判断能力とシミュレーション教育を段階的に繰り返し経験知を増やせるように工夫した。シミュレーション教育ではタスクトレーニングやアルゴリズム・ベースド・トレーニングでテクニカルな部分の強化を目指す。特に領域横断での学びが深まるよう設定した。「健康状態別看護」では、シチュエーション・ベースド・トレーニングで臨地実習で受け持つ患者の状態や状況を模擬的に再現して、患者に必要な情報収集とアセスメント、それに基づく問題を明確化し一部技術の提供や思考の強化を目指す。基礎看護学（11 単位 315 時間）地域・在宅看護論（5 単位 75 時間）成人看護学（5 単位 150 時間）、老年看護学（3 単位 90 時間）小児看護学（3 単位 75 時間）、母性看護学（4 単位 90 時間）精神看護学（3 単位 75 時間）健康状態別看護（5 単位 150 時間）看護の統合と実践（4 単位 120 時間）を構築した。各看護学の特徴的な安全の考え方を学び、各臨地実習と統合分野の双方で深め、考えられるように構築した。

看護の統合と実践では、看護の知識・技術を統合し自身の看護観を整理するとともに、幅広く看護について考えられる基礎を学ぶ内容とした。特に医療安全の考え方は、基礎看護学の中で医療安全の基本的な考え方を学び、専門分野Ⅱの各看護学の中で、それぞれの特徴的で安全の考え方を学び、3年次に実習の具体を通しながら卒業後の実践に活用できる安全の知識を学べるよう構築している。また、看護実践の場面において、看護師の思考で倫理的な判断ができる能力を養うため、3年次に「看護倫理」の科目を設定し卒業後の実践に活用できる看護倫理の知識や思考を学べるよう構築している。

科目名		看護学概論			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。そして人を世話するにあたって基本となる姿勢や考え方について学ぶ。「看護とは何か」を考える基盤となる素材が盛り込まれているが、どう考えていけばよいかなど疑問を持ち、看護を志す初学者として基本的な“考え方”を身につける。					
【到達目標】					
1. 「看護とは何か」という問いを持つことができる 2. 看護の対象について理解を深める 3. 看護における要素や考え方、倫理的課題に触れ、看護を考える素地を養う					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 参画 20%					
* 私語、居眠り、当該講義以外の学習を行う等の行為を行った者には退室を命ずる					
【テキスト】医学書院 看護学概論					
【参考文献】現代社 看護覚え書き    ゆみる出版 ケアの本質    メディックメディア 看護が見える④看護過程の展開					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	看護とはなにか 看護学への導入		ポートフォリオの「なぜ看護師になりたいと思ったのだろう」の欄に記入する。テキスト「看護の基本となるもの」を読んで授業に臨む	
第2回	講義 グループワーク 小テスト	看護の変遷・看護の定義		第1章 看護とは：①日本看護協会の看護の定義 ②ICNの看護の定義③分からない言葉をノートにまとめる	
第3回	病院見学	看護の役割と機能		第1章 看護の役割と機能や多職種チームの連携について調べまとめる	
第4回	講義 グループワーク 小テスト	看護の対象の理解 1-一人間の「こころ」と「からだ」の相関関係		第2章 看護の対象の理解：①ホメオスタシス②ストレス学説③コーピング理論④マズローの欲求段階説⑤キューブラー＝ロス、フィングの危機モデルについてノートに記載	
第5回	講義 グループワーク 小テスト	看護の対象の理解 2-発達し続ける人間		第2章 看護の対象の理解：①スキヤモンの成長曲線②ハヴィガースト③エリクソンについて説明できるように準備する	
第6回	講義 グループワーク 小テスト	健康のとらえ方		第3章 国民の健康状態と生活「B国民の健康状態」で教科書の文中の太字のところをノートにまとめる	
第7回	講義 グループワーク 小テスト	国民の健康の全体像		同じ項目で、厚木市の値を調べ比較する：総人口・年少人口・生産年齢人口・老年人口・世帯数(総数・平均世帯人員・単独世帯・高齢者世帯)・乳児死亡率・平均寿命・合計特殊出生率	
第8回	講義 グループワーク 小テスト	看護の提供者		第4章 「看護職の資格・養成制度・就業状況」についてノートにまとめる	
第9回	講義 グループワーク 小テスト	看護における倫理 1-職業倫理としての看護倫理 倫理規定と倫理原則		第5章 日本看護協会「看護職の倫理綱領」、ICN看護師の倫理綱領について。倫理原則の「ピーチャムとチルドレス」、「フライ」それぞれについてノートにまとめる	
第10回	講義 事例検討	看護における倫理 2-職業倫理としての看護倫理 倫理規定と倫理原則		第5章 看護における倫理の「看護実践場面での倫理的ジレンマ」事例⑨、課題考えてみよう①、課題考えてみよう②についてそれぞれ熟読し、考えてくる	
第11回	協働学習	看護理論 1		夏期休業中の課題：看護理論家を一人選び、できれば原本を一冊読んでノートにまとめる	
第12回	協働学習	看護理論 2		グループで決めた学習課題を行う	
第13回	協働学習 発表	看護理論 3		レポート課題提出	
第14回	講義 グループワーク 小テスト	看護の提供のしくみ-看護サービス提供のしくみ		第6章 看護提供のしくみのなかで「医療施設における看護」「地域における看護」「医療保険制度」についてノートにまとめる	
第15回		終講試験			

科目名		安全を確保する援助技術			
開始時期	1年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
看護技術を学ぶ意義を理解し、看護技術を安全・安楽の視点から考える力を養う。医療安全の基礎を学び、看護者として事故防止から救急時の対応を身につける。医療従事者としての自覚を持ち、積極的に支援できる力を養う。					
【到達目標】					
1. 看護技術の基本的考え方を理解し、看護における安全・安楽の視点を身につける 2. 医療安全の基礎を理解し、感染防止・事故防止・再発防止へ向けた取り組みを考え実践する 3. 救急法を学ぶことで医療従事者としての自覚を持ち、看護者として人を支援する姿勢を身につける					
【成績評価の方法】 終講試験 100% ※教員が指定する回数の技術演習を実施すること					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 救急看護学 災害看護学・国際看護学 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	看護技術とは何か 看護技術の特徴と適切に実践するための要素 看護技術を学ぶ意義		テキストを読み、わからない言葉を学習し授業に臨む	
第2回	講義 グループワーク	感染とその予防の基礎知識 標準予防策の基礎知識 感染性廃棄物の取り扱い			
第3回	演習	スタンダードプリコーション(標準予防策)に基づく手洗い 必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン)の選択・着脱 感染性廃棄物の取扱い		演習前:テキストを読み、指定された動画を視聴し、技術のイメージトレーニングを行う 演習後:レポートを作成する	
第4回	講義 グループワーク	感染経路別予防策 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識		テキストを読み、わからない言葉を学習し授業に臨む	
第5回	演習	必要な防護用具の選択・着脱 (滅菌手袋、ガウンテクニック)		テキストを読み、指定された動画を視聴し、技術のイメージトレーニングを行って演習に臨む 演習後レポートを作成する	
第6回	演習	創傷処置 1 無菌操作の実際			
第7回	演習	創傷処置 2 無菌操作の実際			
第8回	講義 演習	包帯法 1			
第9回	演習	包帯法 2		テキストを読み、わからない言葉を学習し授業に臨む	
第10回	講義	安全確保の基礎知識 安全な療養環境の整備 (転倒・転落、患者誤認 等)			
第11回	講義 グループワーク	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告		KYTについて学習し授業に臨む	
第12回	講義 演習	BLS:外部講師 日本赤十字社「救急法基礎講習」 緊急時の応援要請		BLSについて動画を視聴し、技術のイメージトレーニングを行って演習に臨む	
第13回					
第14回					
第15回		終講試験			

科目名		環境を整える援助技術			
開始時期	1年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解し、コミュニケーションの基本的な技法を身につける。健康の回復・維持・増進のための環境の意義を学び、環境について考え、基本的な技術を身につける。					
【到達目標】					
1. 看護の対象にとっての環境を考えることができる 2. 清潔で安全・安楽な環境調整の技術を身につけられるようになる 3. 生活環境をアセスメントする能力を身につけられるようになる 4. 人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術を身につけられるようになる					
【成績評価の方法】 終講試験 100% ※教員が指定する回数の技術演習を実施すること					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】医学書院 ベッド周りの環境学					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	コミュニケーションの理論と実践 1		指定された動画を視聴する	
第2回	講義	人間にとっての環境の意味		教科書を読み人間に環境について自分の考えをまとめておく	
第3回	講義	環境調整技術 ①療養生活の環境 ②病室の環境のアセスメントと調整		教科書を読み環境調整のポイントをまとめておく	
第4回	演習	快適な療養環境の整備 病床を整える技術 ①リネン類の取り扱い:シーツ・毛布・枕カバー 衣類等のたたみ方		演習前:指定された動画を視聴する 演習後:演習後課題をまとめる	
第5回	演習	病床を整える技術 ②ベッドメイキング		演習前:ベッドメイキングの動画を確認する 演習後:レポートを作成する	
第6回	演習	病床を整える技術 ③ベッドメイキング			
第7回	演習	病床を整える技術 ④ベッド周囲の環境調整		演習後:演習後レポート	
第8回	講義 グループワーク	コミュニケーションの理論と実践 2		指定された動画を視聴する	
第9回	演習	快適な療養環境の整備 病床を整える援助の実際 ①臥床患者のシーツ交換		演習前:指定された動画を視聴する 演習後:レポートを作成する	
第10回	演習	病床を整える援助の実際 ①臥床患者のシーツ交換			
第11回	講義 グループワーク	病床を整える援助の実際 ②事例を用いたベッド周囲の環境を観察する		演習前:教科書の該当箇所を読む	
第12回	講義 グループワーク	病床を整える援助の実際 ③ベッド周囲の観察から援助の必要性を考える		教科書の該当箇所を読む	
第13回	演習 グループワーク	病床を整える援助の実際 ④援助計画から環境調整を実践する		教科書の該当箇所を読む	
第14回	演習 グループワーク	病床を整える援助の実際 ⑤援助計画の評価・修正 / 発表		演習前:援助計画書を完成させ参加する	
第15回		終講試験			

科目名		活動を支える援助技術			
開始時期	1年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
健康の回復・維持・増進のための活動と休息の意義を学び、活動と休息の援助について考え、基礎的な技術を身につける。					
【到達目標】					
1. 活動・休息の意義と看護の役割が理解できる 2. 活動における援助技術を身につける 3. 休息における援助技術を身につける					
【成績評価の方法】 終講試験 100% ※教員が指定する回数の技術演習を実施すること					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】医学書院 解剖生理学					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	基本的活動の基礎知識		テキストを読み、わからない言葉を学習し授業に臨む	
第2回	講義	安静の効果および弊害 廃用性症候群 褥瘡予防ケア			
第3回	講義 演習	運動器系のフィジカルアセスメント MMT 関節可動域(自動・他動運動の援助)			
第4回	演習	安楽な体位の調整(体位保持) 1 褥瘡予防ケア 良肢位、立位、座位、臥位、特殊体位		テキストを読み、指定された動画を視聴し、技術のイメージトレーニングを行って演習に臨む 演習後レポートを作成する	
第5回	演習	安楽な体位の調整(体位保持) 2 褥瘡予防ケア 良肢位、立位、座位、臥位、特殊体位			
第6回	演習	体位変換 1 水平移動、仰臥位から側臥位 仰臥位から座位			
第7回	演習	体位変換 2 水平移動、仰臥位から側臥位 仰臥位から座位			
第8回	演習	移乗・移送 ベッド⇄車椅子、車椅子の移送 ベッド⇄ストレッチャー			
第9回	演習	ストレッチャーの移送、歩行			
第10回	講義	睡眠・休息の基礎知識			
第11回	講義 グループワーク	睡眠障害のアセスメント		テキストを読み、わからない言葉を学習し授業に臨む 睡眠のアセスメントを講義までに行う	
第12回	講義 グループワーク	睡眠・休息の援助		テキストを読み、わからない言葉を学習し授業に臨む 睡眠の援助を講義までに行う	
第13回	講義 演習	褥法 1 温褥法、冷褥法		テキストを読み、指定された動画を視聴し、技術のイメージトレーニングを行って演習に臨む 演習後レポートを作成する	
第14回	演習	褥法 2 温褥法、冷褥法			
第15回		終講試験			

科目名		食・排泄を支える援助技術			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
☑ DP1 援助関係形成    □ DP2 倫理的態度    ☑ DP3 看護実践    □ DP4 協働    □ DP5 探究					
【授業概要】 健康の回復・維持・増進のための食と排泄の意義を学び、食と排泄について考え、基本的な技術を身につける。					
【到達目標】					
1. 栄養と食の意義が理解できるようになる 2. 排泄の意義が理解できるようになる 3. 対象に応じた食事・排泄のアセスメントを学習し、基本的な技術を身につける					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 参画 20% ※教員が指定する回数の技術演習を実施すること					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】学研 看護技術プラクティス					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	食・排泄の基本知識 1 人間にとっての食べることの意味 2 人間が排泄することの意味		食と排泄が自分自身にとって、どのような意味を持っているのか考える 他者の意見を聞き人間にとっての食と排泄についてまとめる	
第2回	講義	栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント		食のメカニズム・食欲・栄養状態・水分電解質について、指定された動画を視聴する	
第3回	講義	消化器系フィジカルアセスメント		教科書の該当箇所を読み授業に臨む 指定された動画を視聴する	
第4回	講義	食事介助と摂食・嚥下機能		摂食動作と嚥下について、解剖生理学から学習する 指定された動画を視聴する	
第5回	演習	食事の援助 1		食事準備から終了後まで【手洗い(手浴)・食事・歯磨き】の安全・安楽・自立を考えた食事介助について目的、手順、留意点を事前学習し演習に臨む 演習後レポートを作成する 技術レベルを維持・向上できるよう演習を継続する	
第6回	演習	食事の援助 2			
第7回	講義	非経口的栄養摂取法 (経管栄養法・経静脈栄養法)		根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術の非経口的栄養摂取法を読む	
第8回	講義	排泄の観察とアセスメント		排泄のメカニズムについてまとめる 指定された動画を視聴する	
第9回	講義 演習	自然排尿および自然排便の援助		援助方法について目的、手順、留意点を事前学習し演習に臨む 演習後レポートを作成する 技術レベルを維持・向上できるよう演習を継続する	
第10回	講義 演習	排泄の援助 1		トイレ・ポータブルトイレ・尿器・差し込み便器・みんなのトイレを使用した介助について目的、手順、留意点を事前学習し、演習に臨む 演習後レポートを記載する 技術のレベルが保たれた状態を維持・向上できるよう演習を継続する	
第11回	講義 演習	排泄の援助 2			
第12回	講義 演習	排便の援助 3 オムツ交換		オムツを使用した排泄の援助について目的、手順、留意点を事前学習し、演習に臨む 演習後レポートを記載する 技術のレベルが保たれた状態を維持・向上できるよう演習を継続する	
第13回	講義 演習	排便の援助 4 オムツ交換			
第14回	講義 グループワーク	人間にとっての「食・排泄」を理解し、対象者が健康的な生活を行うために必要なこと		1~13回の講義を振り返ってグループワークに臨む	
第15回		終講試験			

科目名		清潔を保つ援助技術			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 健康の回復・維持・増進のための清潔の意義を学び、清潔について考え、基本的な技術を身につける。					
【到達目標】 1. 皮膚の機能と身体に及ぼす影響を学び、人が健康な生活を送るために必要な清潔の意義が理解できる 2. 清潔の援助における対象者へのアセスメントと安全な援助技術を身につける					
【成績評価の方法】 終講試験(こちらが指定した項目の技術試験も実施) ※教員が指定する回数の技術演習を実施すること					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	人が「清潔にする」意味 皮膚粘膜の構造と機能、清潔援助の意義・清潔行動のアセスメントと援助方法 精神的安寧を保つためのケア		テキストを読み、わからない言葉を学習し授業に臨む	
第2回	講義	人が「衣生活を整える」意味 衣服の機能と選択、衣服を用いることの意義・衣生活に関するニーズのアセスメントと援助方法			
第3回	演習	身体の清潔援助技術 1 入浴		入浴の動画を視聴する 演習後レポートを作成する	
第4回	演習	身体の清潔援助技術 2 寝衣交換 (点滴・ドレーン等を留置していない患者)		寝衣交換の動画を確認する 演習後レポートを作成する	
第5回	演習	身体の清潔援助技術 3 洗髪・整容		洗髪の動画を確認する 演習後レポートを作成する	
第6回	演習	身体の清潔援助技術 3 洗髪・整容			
第7回	演習	身体の清潔援助技術 4 足浴		足浴の動画を確認する 演習後レポートを作成する	
第8回	演習	身体の清潔援助技術 4 足浴			
第9回	演習	身体の清潔援助技術 5 陰部の保清		陰部洗浄の動画を確認する 演習後レポートを作成する	
第10回	演習	身体の清潔援助技術 5 陰部の保清			
第11回	演習	身体の清潔援助技術 6 全身清拭		全身清拭の動画を確認する 演習後レポートを作成する	
第12回	演習	身体の清潔援助技術 6 全身清拭			
第13回	演習	身体の清潔援助技術 6 全身清拭			
第14回	講義	清潔・衣生活のまとめ		これまでの学習の振り返り	
第15回		終講試験			

科目名		フィジカルアセスメント			
開始時期	1年全期	単位数	1単位 (30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
ヘルスアセスメントの意義を学び、基本的な技術を身につける。また、ヘルスアセスメントによって得られた結果を看護ケアに結びつける思考を養う。					
【到達目標】					
1. 生命徴候の意義を理解し、正しく測定ができるようになる 2. フィジカルアセスメントの基本的技術を身につける 3. 情報から身体状況のアセスメントができるようになる					
【成績評価の方法】終講試験（こちらが指定した項目の技術試験も実施）					
※教員が指定する回数の技術演習を実施すること					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅰ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック    メディックメディア フィジカルアセスメントがみえる					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第1回	講義	看護におけるフィジカルアセスメントとは 1 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 2 フィジカルアセスメントに必要な基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診） 3 バイタルサインとは		指示範囲のテキストを熟読し、不明な言葉にラインを引き調べる	
第2回	講義	バイタルサインの正常と異常 バイタルサインの測定方法		テキストを活用し、体温・脈拍・呼吸・血圧・意識のメカニズムについて事前学習を行う	
第3回	講義 演習	バイタルサイン測定 1		患者に実施できるレベルになるまで技術練習を繰り返し試験にのぞむ	
第4回	講義 演習	バイタルサイン測定 2			
第5回	講義 演習	身体計測（身長・体重・腹囲など）		計測の目的、評価方法についてテキストより事前学習を行う	
第6回	演習	消化器のフィジカルアセスメント 1		消化器の解剖生理についてテキストを活用して事前学習を行う	
第7回	演習	消化器のフィジカルアセスメント 2			
第8回	演習	呼吸器系のフィジカルアセスメント 1		呼吸器の解剖生理について、テキストを活用して事前学習を行う	
第9回	演習	呼吸器系のフィジカルアセスメント 2			
第10回	演習	循環器系のフィジカルアセスメント 1		循環器の解剖生理について、テキストを活用して事前学習を行う	
第11回	演習	循環器系のフィジカルアセスメント 2			
第12回	演習	神経・感覚器系のフィジカルアセスメント 1		神経・感覚器の解剖生理について、テキストを活用して事前学習を行う	
第13回	演習	神経・感覚器系のフィジカルアセスメント 2			
第14回	演習	乳房・腋窩のフィジカルアセスメント		乳房・腋窩の解剖生理について、テキストを活用して事前学習を行う	
第15回		終講試験		この他に技術確認を一定の基準に達するまで実施	

科目名		症状別看護			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
健康状態についての特徴を捉え、臨床において看護の対象者を理解するための基盤を養う。さらに、症状のメカニズムを基盤にアセスメントの視点や看護援助の根拠を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 健康障害をもつ対象が理解できるようになる 2. 健康状態に応じた看護の考え方が理解できるようになる 3. 症状がおこるメカニズムがわかる 4. 症状に対するアセスメントの視点や看護援助の根拠を理解できるようになる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅰ 臨床看護総論 解剖生理学 緊急度・重症度からみた症状別看護過程					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	健康障害とは、アセスメントガイドについて	指示した範囲のテキストを熟読し、不明な言葉にラインを引き調べる		
第2回	講義	呼吸困難のある患者の看護	呼吸のしくみと病態生理について、テキスト及び動画の指示された内容を活用し事前学習を行う		
第3回	演習	呼吸困難のある患者の看護の実際	演習前：呼吸のアセスメントのポイントをテキストで調べる 演習後：事例を基に状態のアセスメントを行う		
第4回	講義	循環障害のある患者の看護	循環のしくみと病態生理について、テキスト及び動画の指示された内容を活用し事前学習を行う		
第5回	演習	循環障害のある患者の看護の実際	演習前：循環のアセスメントのポイントをテキストで調べる 演習後：事例を基に状態のアセスメントを行う		
第6回	講義	栄養・代謝障害のある患者の看護	栄養吸収・代謝のしくみと病態生理についてテキスト及び動画の指示された内容を活用し事前学習を行う		
第7回	演習	栄養・代謝障害のある患者の看護の実際	演習前：消化・吸収のアセスメントのポイントをテキストで調べる 演習後：事例を基に状態のアセスメントを行う		
第8回	講義	排泄の援助をうける患者の看護	排泄のしくみと病態生理についてテキスト及び動画の指示された内容を活用し事前学習を行う		
第9回	演習	排泄の援助をうける患者の看護の実際	演習前：排尿・排便のアセスメントのポイントをテキストで調べる 演習後：事例を基に状態のアセスメントを行う		
第10回	講義	運動・感覚機能に障害がある患者の看護	運動・感覚のしくみと病態生理についてテキスト及び、動画の指示された内容を活用し事前学習を行う		
第11回	演習	運動・感覚機能に障害がある患者の看護の実際	演習前：運動-感覚器のアセスメントのポイントをテキストで調べる 演習後：事例を基に状態のアセスメントを行う		
第12回	講義 演習	嘔気・嘔吐・痛みのある患者の看護 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	演習前：嘔気・嘔吐・痛みのある患者のアセスメントのポイントをテキストで調べる 演習後：事例を基に状態のアセスメントを行う		
第13回	講義	意識障害のある患者の看護	意識のしくみと病態生理についてテキストを活用し事前学習を行う		
第14回	演習	意識障害のある患者の看護の実際	演習前：意識状態のアセスメントのポイントをテキストで調べる 演習後：事例を基に状態のアセスメントを行う		
第15回		終講試験			

科目名		看護過程			
開始時期	1年後期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
看護過程の意義を理解し、対象に必要な看護を導き出し、看護展開するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 看護過程を用いる意義と必要性が理解でき、看護過程の各段階について理解できる 2. 自分の生活に当てはめて思考の整理ができる 3. 事例をもとに看護過程が展開できるようになる					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 課題 20%					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅰ    メディックメディア 看護がみえる④看護過程の展開					
【参考文献】医学書院 緊急度・重症度からみた症状別看護過程 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	看護過程とは 1 看護過程の5つの構成要素 2 問題解決過程		看護過程用紙の疾病像と一般的治療の理解の取り組み	
第2回	講義	看護の概念枠組み		事例の情報をみる	
第3回	講義 グループワーク	事例内容から必要な情報を収集し、整理する		アセスメントをすすめる	
第4回	発表	情報の整理について共有			
第5回	グループワーク	アセスメント		グループで発表内容の検討と準備をすすめる	
第6回	発表	アセスメントの共有		「問題の明確化および期待される成果」をすすめる	
第7回	講義 グループワーク	問題の明確化および期待される成果(結果)		「問題の明確化および期待される成果」の発表準備	
第8回	発表	問題の明確化および期待される成果(結果)の共有		個人で事例の看護計画について考える	
第9回	グループワーク	看護計画立案		「看護計画立案」の発表準備	
第10回	発表	看護計画の共有		看護計画で立案した援助を行う準備をすすめる	
第11回	演習	看護計画に基づき実施		「実施の評価」を進める	
第12回	グループワーク	実施・結果から評価する		「評価」の発表準備	
第13回	発表	評価の共有		「評価」の追加・修正	
第14回	講義	全体を通してのまとめ		看護過程の提出ファイルの追加・修正	
第15回		終講試験			

科目名		与薬・検査の看護 I			
開始時期	1 年後期	単位数	1 単位 (15 時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
与薬のための基礎知識を学び、看護師の役割と基本的技術を身につける。					
【到達目標】					
1. 与薬における看護の役割と責任が理解できるようになる 2. 与薬に伴う援助に必要な基礎知識が理解できるようになる 3. 与薬に伴う援助に必要な基本的技術を身につける					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容	
第 1 回	講義	薬の基礎知識 (薬の種類と吸収経路)		薬にどのような種類があるのか、自己の経験を踏まえ学習する	
第 2 回	講義 演習	薬の基礎知識 (看護師の役割) 薬剤等の管理、患者の誤認防止策の実施		テキストの指定範囲を読み、その中の看護師の役割についてラインをひく	
第 3 回	講義	与薬の技術		テキストの指定範囲を読み授業に臨む	
第 4 回	演習	与薬の技術 1 経口薬 (バツカル錠・内服薬・舌下錠) の投与		援助方法について目的、手順、留意点を事前学習し演習に臨む 演習後レポートを作成する	
第 5 回	演習	与薬の技術 2 経皮・外用薬の投与			
第 6 回	演習	与薬の技術 3 浣腸			
第 7 回	演習	与薬の技術 3 浣腸			
第 8 回		終講試験			

科目名		与薬・検査の看護Ⅱ			
開始時期	2年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 診療や検査の基本的知識とその看護師の役割を学ぶ。また、解剖生理学を理解しながら、注射技術を身につける。					
【到達目標】					
1. 診療や検査における看護の役割と責任が理解できるようになる 2. 診療や検査に伴う援助に必要な基礎知識が理解できるようになる 3. 診療や検査に伴う援助に必要な基本的技術を身につける					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅱ 臨床検査 臨床放射線医学 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】医学書院 薬理学 解剖生理学					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 演習	薬の基礎知識 注射の種類 皮内、皮下、筋肉、静脈注射、輸血 針刺し事故防止・事故後の対応 使用した器具の感染防止の取扱い		注射部位になる皮膚・筋肉・血管・神経の構造を学習し、それぞれの注射による薬の吸収について、薬理学と合わせ学習する	
第2回	講義	検査時の看護 1 検体検査(血液検査、尿検査、便検査)、検体の採取方法、検査値の評価 :外部講師		テキストの該当箇所を読む 指定された動画を視聴する	
第3回	演習	検査時の看護 2 検体の取り扱い 無菌操作での検体採取方法 導尿		導尿についてテキストおよび動画の指示された内容を確認する	
第4回	講義 演習	検査時の看護 3 生体情報のモニタリング (12誘導心電図検査) :外部講師		テキストの該当箇所を読む 心臓について解剖生理学で確認する 指定された動画を視聴する	
第5回	講義 演習	検査時の看護 4 検査・処置の介助(放射線検査 X-P・CT・MRI) 放射線の被ばく防止策の実施 :外部講師		テキストの該当箇所を読む	
第6回	演習	静脈血採血(シリンジ採血・真空管採血) 1		静脈血採血についてテキストおよび動画の指示された内容を確認する 援助方法について目的、手順、留意点を事前学習し演習に臨む 演習後レポートを作成する	
第7回	演習	静脈血採血(シリンジ採血・真空管採血) 2			
第8回	演習	静脈血採血(シリンジ採血・真空管採血) 3			
第9回	講義	点滴静脈内注射 筋肉内注射		点滴静脈内注射、筋肉内注射についてテキストおよび動画の指示された内容を確認する	
第10回	演習	点滴静脈内注射とその管理 1 静脈路確保、ミキシング・プライミング、自然滴下・輸液ポンプ		援助方法について目的、手順、留意点を学習し演習に臨む援助方法について目的、手順、留意点を学習し演習に臨む 演習後レポートを作成する 技術レベルを維持・向上できるよう演習を継続する	
第11回	演習	点滴静脈内注射とその管理 2 静脈路確保、ミキシング・プライミング、自然滴下・輸液ポンプ			
第12回	演習	点滴静脈内注射とその管理 3 静脈路確保、ミキシング・プライミング、自然滴下・輸液ポンプ			
第13回	演習	筋肉内注射 1		援助方法について目的、手順、留意点を学習し演習に臨む 演習後レポートを作成する	
第14回	演習	筋肉内注射 2			
第15回		終講試験			

科目名		人の暮らしと健康					
開始時期	1年前期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	外部講師・専任教員		
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】							
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究							
【授業概要】							
地域で暮らしているあらゆる発達段階の人々の暮らし方や生活、健康を考えるしくみ等を学び、地域で暮らす人々の健康を考えることで支え合う社会のしくみに関心を持ち、自己の身近な学びに繋げる。							
【到達目標】							
1. 自己の暮らし・他者の暮らし・人々の暮らし・地域社会に暮らす人々に関心を持つ 2. 地域における「保健」「医療」「福祉」のしくみが理解できる 3. 学習した内容が自己の暮らしと関連付けることができる							
【成績評価の方法】 終講試験 70% 参画 30%							
【テキスト】医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 公衆衛生							
【参考文献】医学書院 看護学概論							
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容			
第1回	講義	私の暮らしと人々の暮らし		予習	自己の1日の過ごし方、タイムスケジュールを記入する		
				復習	私の暮らしについてポートフォリオの活用		
第2回	講義 グループワーク	地域社会で暮らす人々		予習	自己の住む市町村の特徴を調べる		
				復習	講義後の内容をまとめ、理解したことを口頭で答えられるようにする		
第3回	講義 グループワーク	暮らしや健康を脅かすリスク		予習	講義内容についてテキストを熟読する		
				復習	講義後の内容をまとめ、理解したことを口頭で答えられるようにする		
第4回	講義 グループワーク	地域社会を構成している行政・税		予習	自己の住む市町村の税について調べる		
				復習	講義後の内容をまとめ、理解したことを口頭で答えられるようにする		
第5回	講義 グループワーク	地域の健康に関連した保健・医療・福祉		予習	講義内容についてテキストを熟読する		
第6回	講義	地域保健の実際				復習	講義後の内容をまとめ、理解したことを口頭で答えられるようにする
第7回	講義	地域における精神保健 :外部講師					
第8回		終講試験					

科目名		在宅療養の支援					
開始時期	2年全期	単位数	2単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員		
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】							
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究							
【授業概要】							
人々の暮らしの実際を踏まえ、社会・地域の一員として考えながら地域における看護の場や看護の役割を学び、地域や在宅看護にかかわる法令や制度のもとに社会資源があり必要としている人がいることを理解する。							
【到達目標】							
1. 地域包括ケアシステムがなぜ必要なのか、どのような仕組みなのかが理解できる 2. 地域連携の実際を知ることで地域の看護の役割を理解できる							
【成績評価の方法】 終講試験 70% 参画 30%							
【テキスト】医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 社会保障・社会福祉							
【参考文献】医学書院 公衆衛生 厚生労働統計協会 国民衛生の動向							
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容			
第1回	講義	地域における在宅療養の場・在宅看護の目的と対象者 地域における看護師の役割		予習	講義内容についてテキストを熟読する		
				復習	講義後の内容をまとめ、理解したことを口頭で答えられるようにする		
第2回	講義	地域包括ケアシステムの概要		予習	自己の住んでいる市町村の地域包括ケアシステムについて調べる		
				復習	理解したことを口頭で答えられるようにする		
第3回	講義	地域・在宅看護にかかわる法令・制度 介護保険・医療保険制度他		予習	講義内容についてテキストを熟読する		
第4回	講義	訪問看護の概要と制度				復習	講義後の内容をまとめ、理解したことを口頭で答えられるようにする
第5回	講義	地域・在宅看護にかかわる多職種連携の理解					
第6回	講義	地域・在宅看護における ICF モデルの活用 1					
第7回	講義 グループワーク	地域・在宅看護における ICF モデルの活用 2					
第8回	講義 グループワーク	地域・在宅看護における ICF モデルの活用 3					
第9回	講義 グループワーク	ケアマネジメントと社会資源の活用 ケアプランとは					
第10回	講義	訪問診療の実際 :外部講師		予習	「訪問診療とは」を調べる		
				復習	講義で気づいたことや学んだことを記入する		
第11回	講義	地域連携の実際 :外部講師		予習	病院の地域連携室の役割を調べる		
				復習	講義で気づいたことや学んだことを記入する		
第12回	講義	訪問看護の実際 1 :外部講師		予習	自己の住んでいる市町村の訪問看護ステーションについて調べる		
				復習	講義で気づいたことや学んだことを記入する		
第13回	講義	訪問看護の実際 2 :外部講師		予習	訪問看護についての質問を考える		
				復習	講義で気づいたことや学んだことを記入する		
第14回	講義 グループワーク	地域包括ケア社会		予習	厚木市の地域包括ケア社会の特徴を調べる		
				復習	地域包括ケアシステムとは何かの問いに答えられるようにする		
第15回		終講試験					

科目名		ケアプランと看護			
開始時期	3年全期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
ケアマネジメントやケアプランとは何かを学び、ケアプランを読み取ることで療養者とその家族の全体像を捉えて在宅看護の必要性を導き出し、具体的な計画立案、実施・結果、評価を行う。					
【到達目標】					
1. ケアプランを読み取ることができる 2. 事例を通して在宅看護の実際を理解する 3. 対象者とその家族のとらえ方と介入について考えることができる					
【成績評価の方法】 レポート 65% 参画 35%					
【テキスト】 医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実際 リハビリテーション看護 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程					
【参考文献】 医学書院 老年看護病態・疾患論					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	ケアプラン(ICFの考え方)		予習 講義内容についてテキストを熟読 復習 講義後の内容をまとめ、理解したことを口頭で答えられるようにする	
第2回	講義 グループワーク	ケアプランの全体像の把握 (神経難病等)		予習 事例のジェノグラムの読み方、書き方 復習 ジェノグラムの読み方、書き方とケアプランから理解したことを口頭で答えられる	
第3回	講義 グループワーク	ケアプランの実際と療養者の全体像の把握 1		予習 療養者の全体像の把握 復習 理解したことを口頭で答えられるようにする	
第4回	講義 グループワーク	ケアプランの実際と療養者の全体像の把握 2			
第5回	講義 グループワーク	ケアプランの実際と療養者の全体像の把握 3			
第6回	講義 グループワーク	ケアプランの実際と療養者の全体像の把握 4			
第7回	講義 グループワーク	ケアプランの実際と療養者の全体像の把握 5			
第8回		レポート			

科目名		在宅看護技術			
開始時期	3年全期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
在宅で求められる看護技術を学び、卒業時到達すべき技術を習得する。経管栄養法を必要とする在宅療養者の事例で援助の適応性について症例を検討できる。					
【到達目標】					
1. 在宅で求められる看護技術を実施できる 2. 援助技術の経験を通して臨床判断能力を養うことができる 3. 実施したケアの評価ができる					
【成績評価の方法】 レポート70% 参画30%					
【テキスト】医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 在宅療養を支える技術					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 演習	活動 在宅における移乗・移動の援助		予習 移動・移乗の手順や留意点について学習する 復習 講義および演習後の学びを記入する	
第2回	演習	活動 移乗・移動の援助 (ポータブルトイレ・トイレ・浴槽・ベッド)		予習 事例について学習する 復習 実施結果から気づき学びを記入する	
第3回	講義 演習	在宅での清潔援助とスキンケア 感染予防対策 片麻痺の事例 (簡易浴槽での入浴・在宅でのスキンケア法)		予習 片麻痺のある対象者の障害とその看護を学習する 復習 演習時の実施内容の事実を記入し振り返る	
第4回	演習	在宅での褥瘡予防とケア・臨床判断能力 片麻痺の事例(体位変換・体位の工夫・ポジショニング)		予習 褥瘡予防と体位変換の手順や留意点について学習する 復習 演習時の実施内容の事実を記入し振り返る	
第5回	講義 演習	在宅での食生活の援助と栄養管理・在宅中心 静脈栄養法・携帯用輸液システム・医療廃棄物の取り扱い		予習 食生活と栄養について学習する 復習 実施結果から気づき学びを記入する	
第6回	講義 演習	呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助 1 COPDによる在宅療養者の在宅酸素療法(HOT) 呼吸の援助・排痰法 在宅療養環境の工夫と整備・在宅酸素療法		予習 慢性閉塞性肺疾患(COPD)・在宅酸素療法(HOT)について学習する 復習 実施結果から事実を記入し、振り返る	
第7回	講義 演習	呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助 2 在宅人工呼吸法 呼吸の援助・排痰法		予習 在宅人工呼吸法について学習する 復習 実施結果から事実を記入し、振り返る	
第8回		レポート			

科目名		成人看護学総論			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 成人期にある対象の健康の保持・増進の重要性を理解し、保健活動の実際について学ぶ。					
【到達目標】					
1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴や発達課題を理解することができるようになる 2. 成人における人々に対する健康の保持・増進の重要性とその関わりについて考えることができるようになる 3. 成人における人々の健康生活に対する看護技術を学ぶ					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 参画 20%					
【テキスト】医学書院 成人看護学総論 厚生労働統計協会 国民衛生の動向					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	各成人期の発達段階と生産年齢としての成人		成人と生活、生産年齢について学習する 現代の成人の特徴(身体面、精神面、社会面、健康面)の調べ学習をする	
第2回	講義 グループワーク	青年期における健康と生活の特徴と健康課題		青年期の健康と生活の特徴、健康課題について学習する	
第3回	講義 グループワーク	壮年期における健康と生活の特徴と健康課題		壮年期の健康と生活の特徴、健康課題について学習する	
第4回	講義 グループワーク	中年・向老期における健康と生活の特徴と健康課題		中年・向老期の健康と生活の特徴、健康課題について学習する	
第5回	講義 グループワーク	成人の健康を守る法制度		①ヘルスプロモーション②健康日本21③健康増進法④がん対策基本法⑤特定健康診査、特定保健指導について学習する	
第6回	講義 グループワーク	労働災害と健康経営 1 実際に発生した労働災害とその対策に関するワーク		最近発生した労働災害、身近で発生した労働災害を各自1つ選び、その要因・背景等の調べ学習を行う	
第7回	講義 グループワーク	労働災害と健康経営 2 労働災害が発生した職場の健康経営プログラムを作る		健康経営について学習する	
第8回	講義 グループワーク	労働と治療の両立支援 1 労働と治療の両立の実際を事例から学ぶ		労働と治療を両立している事例を最近のニュース、記事等から1つ選択し、支援の在り方等の調べ学習を行う	
第9回	講義 グループワーク	労働と治療の両立支援 2 事例患者の治療と労働を両立させる為の指導プログラムの立案		労働と治療の両立に関する企業・会社の取り組みの調べ学習を行う	
第10回	講義 グループワーク	労働と治療の両立支援 3 事例患者の治療と労働を両立させる為の指導プログラムの立案・発表		プログラムの発表ができるように、グループ内で決めた課題を行う	
第11回	講義 グループワーク	働く人の健康を守るシステムをつくる 1 身近な成人期の対象者が働く職場の健康を守るシステムの調べ学習の発表		身近な成人期の対象者が働く職場の健康を守るシステムについて調べる	
第12回	講義 グループワーク	働く人の健康を守るシステムをつくる 2 身近な成人期の対象者が働く職場の健康を守るシステム作り演習		職場で働く人の健康を守るシステムを作成できるように準備する	
第13回	講義 グループワーク	働く人の健康を守るシステムをつくる 3 身近な成人期の対象者が働く職場の健康を守るシステム作り演習		第12回で作成したシステムを発表できるように準備する	
第14回	講義 グループワーク	まとめ 現代社会を支える成人とは		これまで学習した内容を復習する	
第15回		終講試験			

科目名		成人看護学各論 I (呼吸器・循環器)			
開始時期	2 年全期	単位数	1 単位 (30 時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
成人期にある人が病気になるということが生活にどのように影響を与えるのか学習を行う。また、生命維持活動に直結する呼吸・循環器の疾患における看護を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 成人期にある人が病気になるということの影響を身体的・精神的・社会的側面から考えることができる 2. 呼吸・循環器疾患についての理解を深め、検査・治療に対する看護を学ぶ 3. 看護過程の展開を行うことで、健康期に合わせた看護について学び深めることができる					
【成績評価の方法】 終講試験 70% 参画 30%					
【テキスト】医学書院 成人看護学総論 呼吸器 循環器 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程					
【参考文献】医学書院 臨床外科看護総論 臨床検査 臨床放射線医学					
授業の方法		内容		授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容	
第 1 回	講義	冠動脈疾患の病態理解と検査における看護		心臓の解剖生理を学習して授業に臨む 曖昧な知識が確実な知識になるまで振り返る	
第 2 回	講義 グループワーク	循環器疾患を抱える人への看護 1 経過に合わせた看護 (発症から慢性期)		指定の動画を視聴して授業に臨む	
第 3 回	講義 グループワーク	循環器疾患を抱える人への看護 2 経過に合わせた看護 (発症から慢性期)		指定の学習課題を行い授業に臨む 曖昧な知識が確実な知識になるまで振り返る	
第 4 回	講義 グループワーク	循環器疾患を抱える人への看護 3 経過に合わせた看護 (発症から慢性期)			
第 5 回	講義	心不全・不整脈の病態理解と検査における看護		指定の動画を視聴して授業に臨む	
第 6 回	講義 演習	心不全・不整脈を抱える人への看護 1 経過に合わせた看護 (発症から急性期) シリンジポンプの操作と管理 12 誘導心電図の装着			
第 7 回	講義 演習	心不全・不整脈を抱える人への看護 2 経過に合わせた看護 (発症から急性期) シリンジポンプの操作と管理 心電図モニターの装着		指定の学習課題を行い授業に臨む 曖昧な知識が確実な知識になるまで振り返る	
第 8 回	講義 グループワーク	心不全・不整脈を抱える人への看護 3 経過に合わせた看護 (維持期)			
第 9 回	講義	呼吸器疾患の動向 呼吸器疾患の病態理解と検査における看護 :外部講師		肺の解剖生理を学習して授業に臨む 曖昧な知識が確実な知識になるまで振り返る	
第 10 回	講義	気胸患者の経過に合わせた看護 (胸腔ドレナージの理解と看護) :外部講師		指定の動画を視聴して授業に臨む	
第 11 回	講義	肺がんの病態理解		肺がんに関する学習を実施する	
第 12 回	講義 演習	肺がん患者の経過に合わせた看護 1 体位ドレナージ		体位ドレナージ、酸素吸入療法に関する動画を視聴し、演習で実践可能なレベルになるまで学習をして授業に臨む 曖昧な知識が確実な知識になるまで振り返る	
第 13 回	講義 演習	肺がん患者の経過に合わせた看護 2 酸素吸入療法の実施と酸素化の評価			
第 14 回	講義 グループワーク	肺がん患者の看護 経過に合わせた看護 (終末期)		指定の学習課題を行い授業に臨む 曖昧な知識が確実な知識になるまで振り返る	
第 15 回		終講試験			

科目名		成人看護学各論Ⅱ（食道・胃・大腸）			
開始時期	2年前期	単位数	1単位（30時間）	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
□ DP1 援助関係形成 □ DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 □ DP4 協働 □ DP5 探究					
【授業概要】					
成人期にある人が病気になるということが生活にどのように影響を与えるのか学習を行う。また、食べることは生きることである。その重要な器官である消化管を病むということについて学ぶ。					
【到達目標】					
1. 成人期にある人が病気になるということの影響を身体的・精神的・社会的側面から考えることができる 2. 消化器疾患についての理解を深め、検査・治療に対する看護を学ぶ 3. 周術期にある患者の経過に合わせた看護が理解できる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 成人看護学総論 消化器 臨床外科看護総論 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程					
【参考文献】医学書院 臨床検査 臨床放射線医学 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第1回	講義	中年期の人が消化管に癌を抱えることでの社会的影響をふまえた看護 食道がんの病態の理解と検査における看護		中年期の発達段階について学習する 動画視聴で、食道の解剖生理と、食道がんについて学習する	
第2回	講義 グループワーク	食道がん患者の看護 経過に合わせた看護（発症～周手術期～慢性期）		指定された動画で、周手術期の看護について視聴する	
第3回	講義	胃がんの病態理解と検査における看護		動画視聴で、胃の解剖生理、がんの基本的な知識を学習する	
第4回	講義 グループワーク	胃がん患者の看護 1 経過に合わせた看護を考える		動画で、胃がんについて視聴する提示した事例を読み込み、患者理解をする	
第5回	講義 グループワーク 演習	胃がん患者の看護 2 経過に合わせた看護を考える		第4回で実施したグループワークの課題を実施する	
第6回	演習	胃がん患者の看護 3 食事指導		胃がん罹患した人の食事について学習し、実際に指導できるように準備を行う	
第7回	講義	大腸がんの病態理解と検査における看護		動画視聴で、大腸についての解剖生理と大腸がん・ストーマの基本的な知識を学習する	
第8回	演習	消化管ストーマ管理		ストーマについての基本的な学習と、管理方法について学習し、実際の指導ができるように準備を行う	
第9回	講義 グループワーク	大腸がん患者の看護 1 経過に合わせた看護を考える～術前の看護～		SCENARIOにあるS状結腸にがんのある患者の事例を確認し、状態の変化について理解する 周手術期で学習した生体反応を復習する	
第10回	講義 グループワーク	大腸がん患者の看護 2 経過に合わせた看護を考える～術直後から術後の看護～		グループで決めた学習課題を行う	
第11回	演習	大腸がん患者の看護 3 経過に合わせた看護過程の展開 演習：手術後の観察、体温調節の援助、酸素ボンベ・輸液ポンプの管理、ドレーン管理（挿入部処置含む）		演習前：輸液ポンプ、ドレーン管理について学習する 第9回、第10回看護過程の授業内容に基づき、グループでSCENARIOを使って早期離床の看護が実践できるように、看護計画を立案する 演習後：実施後は計画の評価・修正まで行う	
第12回	演習	大腸がん患者の看護 4 経過に合わせた看護過程の展開 演習：手術後のバイタルサイン測定、早期離床			
第13回	講義 グループワーク 演習	大腸がん患者の看護 5 経過に合わせた看護過程の展開～術後から退院指導～		事例の患者にどのような退院指導が必要か考え、指導を実施できるように準備する	
第14回	講義	継続看護（看護要約）		基礎看護学で学習した看護要約を見直し、看護要約の必要性について学習を深める	
第15回		終講試験			

科目名		成人看護学各論Ⅲ（胆嚢・肝臓・膵臓）			
開始時期	2年全期	単位数	1単位（30時間）	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
□ DP1 援助関係形成 □ DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 □ DP4 協働 □ DP5 探究					
【授業概要】					
成人期にある人が病気になるということが生活にどのように影響を与えるのか学習を行う。また、内分泌・代謝系の疾患における看護を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 糖尿病を抱える患者の病態の特徴を理解し、経過に合わせた看護の実際について理解を深める 2. 胆石症患者の病態の特徴を理解し、経過に合わせた看護の実際について理解を深める 3. 急性膵炎を抱える患者の病態の特徴を理解し、経過に合わせた看護の実際について理解を深める					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 参画 20%					
【テキスト】医学書院 成人看護学総論 消化器 内分泌・代謝 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程					
【参考文献】医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	糖尿病を抱える人の看護 1 糖尿病の病態理解と検査における看護		動画視聴で膵臓の解剖生理、糖尿病の病態、検査、治療、看護を学習する	
第2回	講義 グループワーク	糖尿病を抱える人の看護 2 事例に対する患者理解 事例に対する退院に向けた生活・疾病指導		自分の身近な食べ物のカロリーや栄養素について調べてくる	
第3回	講義 グループワーク	糖尿病を抱える人の看護 3 事例に対する患者理解 事例に対する退院に向けた生活・疾病指導		第2回で提示した、事例を読み込み問題を明確化する	
第4回	講義 演習	糖尿病を抱える人の看護 4 演習：簡易血糖測定、インスリン注射 展開事例に基づいた計画の実施、看護計画の評価		簡易血糖測定、インスリン注射に関する技術レポート作成	
第5回	講義 グループワーク	肝臓に疾患を抱える人の看護 1 肝臓の病態理解と検査における看護：概要		動画視聴で、肝臓の解剖生理を学習する	
第6回	演習 グループワーク	肝臓に疾患を抱える人の看護 2 肝炎に対する看護（発症～慢性期）		動画視聴で、肝炎の病態生理、検査、治療、看護の学習をする	
第7回	グループワーク	肝臓に疾患を抱える人の看護 3 肝硬変に対する看護		肝硬変について学習し、グループワークに臨む	
第8回	グループワーク	肝臓に疾患を抱える人の看護 4 肝硬変に対する看護		第9回で演習ができるように、看護問題を明確化し、看護を見出す	
第9回	演習	肝臓に疾患を抱える人の看護 5 肝硬変に対する看護		各グループで立案した計画に基づき援助を実施する	
第10回	講義 グループワーク	胆石症患者の看護 1 経過に合わせた看護を考える （グループワークのテーマ決め）		動画視聴で、胆嚢の解剖整理を学習する	
第11回	演習 グループワーク	胆石症患者の看護 2 経過に合わせた看護を考える （テーマに沿ったグループワーク）		第10回で選択した胆石症についての学習をする。各グループで設定した課題を行う	
第12回	演習 グループワーク	胆石症患者の看護 3 経過に合わせた看護を考える ワークの全体発表		第10、11回で学習した内容を発表できるように準備する	
第13回	講義 グループワーク	急性膵炎を抱える人の看護 1 経過に合わせた看護を考える～発症から急性期～		動画視聴で、膵臓の解剖生理を学習する	
第14回	講義 グループワーク	急性膵炎を抱える人の看護 2 経過に合わせた看護を考える～回復期から健康管理～		膵炎のクリニカルパスに基づいた看護について調べ学習をする	
第15回		終講試験			

科目名		成人看護学各論Ⅳ（腎・血液・内分泌）			
開始時期	2年後期	単位数	1単位（30時間）	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】 □ DP1 援助関係形成 □ DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 □ DP4 協働 □ DP5 探究					
【授業概要】 成人期にある人が病気になるということが生活にどのように影響を与えるのか学習を行う。また、腎・泌尿器、血液、内分泌系の疾患における看護を学ぶ。					
【到達目標】 1. 内分泌機能障害を抱える患者の病態の特徴を理解し、経過に合わせた看護の実際について理解を深める 2. 腎疾患を抱える患者の病態の特徴を理解し、経過に合わせた看護の実際について理解を深める 3. 白血病・悪性リンパ腫患者の病態の特徴を理解し、経過に合わせた看護の実際について理解を深める					
【成績評価の方法】 終講試験 70% 参画 30%					
【テキスト】医学書院 成人看護学総論 腎・泌尿器 血液・造血器 内分泌・代謝 病態生理学 基礎看護技術Ⅱ 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】厚生労働統計協会 国民衛生の動向					
授業の方法		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	腎疾患を抱える人の看護 1 経過に合わせた看護を考える （疾病像の理解と検査における看護）		動画視聴で腎臓の解剖生理を学習する	
第2回	講義 グループワーク	腎疾患を抱える人の看護 2 経過に合わせた看護を考える （腎不全と AKI・CKD）		動画視聴で、腎不全と AKI・CKD の病態、検査、治療、看護について学習する	
第3回	演習 グループワーク	腎疾患を抱える人の看護 3 膀胱留置カテーテルの管理		膀胱留置カテーテルの管理について目的、手順、留意点を学習し演習に臨む 演習後レポートを作成する 技術レベルを維持・向上できるよう演習を継続する	
第4回	講義 グループワーク	腎疾患を抱える人の看護 4 経過に合わせた看護を考える （透析導入期）：外部講師		動画視聴で、透析治療とその看護について学習する	
第5回	講義 グループワーク	腎疾患を抱える人の看護 5 経過に合わせた看護を考える （透析維持期）：外部講師		動画視聴で、透析治療を受けている患者への生活指導、血液浄化装置について学習する	
第6回	講義 グループワーク	血液・造血器疾患を抱える人の看護 1 白血病の病態の理解と検査における看護		動画視聴で、血液・造血器の解剖生理を学習する	
第7回	講義 グループワーク	血液・造血器疾患を抱える人の看護 2 白血病の発症時・急性期		動画視聴で、白血病の病態、治療、検査、看護を学習する	
第8回	講義 グループワーク	血液・造血器疾患を抱える人の看護 3 白血病の寛解導入期の看護：外部講師		動画視聴で、化学療法と副作用、看護を学習する	
第9回	講義 グループワーク	血液・造血器疾患を抱える人の看護 4 白血病の完全寛解、社会復帰に向けた看護 ：外部講師		白血病の寛解期、維持期の治療と看護を学習する	
第10回	講義 グループワーク	血液・造血器疾患を抱える人の看護 5 造血幹細胞移植・悪性リンパ腫の看護		造血幹細胞移植・悪性リンパ腫についての学習をする	
第11回	講義 グループワーク	内分泌機能障害のある人の看護 1 甲状腺疾患、副甲状腺疾患の病態の理解と検査における看護		動画視聴で、甲状腺・副甲状腺の解剖生理を学習する 甲状腺疾患、副甲状腺疾患の病態、治療、検査を学習する	
第12回	講義 グループワーク	内分泌機能障害のある人の看護 2 甲状腺疾患、副甲状腺疾患の経過に合わせた看護を考える		甲状腺疾患、副甲状腺疾患の看護を学習する	
第13回	講義 グループワーク	内分泌機能障害のある人の看護 3 下垂体機能障害の病態の理解と検査における看護		動画視聴で、下垂体の解剖生理を学習する 下垂体機能障害の病態、治療、検査を学習する	
第14回	講義 グループワーク	内分泌機能障害のある人の看護 4 下垂体機能障害の経過に合わせた看護を考える		下垂体機能障害の看護を学習する	
第15回		終講試験			

科目名		老年看護学概論			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 老年期にある人の特徴と高齢社会における看護の役割を学ぶ。					
【到達目標】					
1. ライフサイクルの中での老年期にある対象の身体的・生理的、心理・精神的、発達段階的、社会的特徴を理解できる 2. 社会構造の変化・高齢化に伴う保健・医療・福祉の現状と課題が理解できる 3. 老年期のQOLについて理解を深め、高齢社会における老年看護の役割について理解できる					
【成績評価の方法】 終講試験80% レポート20%					
【テキスト】医学書院 老年看護学 老年看護 病態・疾患論					
【参考文献】厚生労働統計協会 国民衛生の動向 照林社 よくわかる看護職の倫理綱領					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	「超高齢社会」における老年看護への期待 老年看護の対象と役割		老年看護の対象と役割についてテキストを事前に読んで臨む	
第2回	講義 グループワーク	老年期にある人の理解 ①「老いる」ということ 加齢と老化 ② 老年症候群 ③加齢に伴う身体的側面の変化		身近にいる高齢者と関わる、または高齢者に関連する本や動画などを視聴し、高齢者のイメージをつけて臨む	
第3回	講義 グループワーク	敬老会 1 ①企画・運営・準備		地域に住む高齢者について調べ臨む	
第4回	演習 グループワーク	加齢変化が生活に及ぼす影響を考える 1 高齢者疑似体験		加齢変化を学習し臨む	
第5回	グループワーク	加齢変化が生活に及ぼす影響を考える 2 高齢者疑似体験		前回の演習課題をまとめて臨む	
第6回	グループワーク	敬老会 2 高齢者に渡すメッセージカード作り		加齢による変化を学習し、高齢者に適したカードづくりを考え臨む	
第7回	講義 演習 グループワーク	敬老会 3 地域に住む高齢者への支援の実際		前回までの授業内容を復習し、地域における高齢者支援について情報収集し臨む	
第8回					
第9回	講義 グループワーク	老年期にある人の理解 1 ①身体の加齢変化とアセスメント ②加齢に伴う心理的側面の変化		授業範囲のテキストを読んで臨む	
第10回	講義 グループワーク	老年期にある人の理解 2 ③加齢に伴う社会的側面の変化 ④発達と成熟 ⑤セクシュアリティ		授業範囲のテキストを読んで臨む	
第11回	講義 グループワーク	超高齢社会の統計		授業範囲のテキストを読んで臨む 高齢社会に関するニュースを調べ臨む	
第12回	講義 グループワーク	高齢社会における保健医療福祉の動向 生活療養の場における看護		授業範囲のテキストを読んで臨む 高齢者を取り巻く社会に関するニュースを調べ臨む	
第13回	講義 グループワーク	高齢者の権利擁護のための制度について 高齢者と医療安全		授業範囲のテキストを読んで臨む 権利擁護のための制度を事前に調べ臨む	
第14回	講義 グループワーク	老年期にある人の倫理的課題について考える		授業範囲のテキストを読んで臨む 看護職の倫理綱領を読みこんで臨む	
第15回		終講試験			

科目名		高齢者の生活を支える援助技術			
開始時期	2年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 老年期にある人の日常生活を支える看護技術について学ぶ。					
【到達目標】					
1. 老年期の特徴、加齢変化をふまえ、生活を支える援助技術を身につける 2. 老年期にある人の残存機能を活かした援助技術を考え、実践する					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 緊急度・重症度からみた症状別看護過程 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術					
【参考文献】厚生労働統計協会 国民衛生の動向					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	認知症をもつ高齢者の看護：外部講師		指示された動画を視聴する	
第2回	講義	認知症をもつ高齢者の看護：外部講師			
第3回	講義	高齢者の生活を支える看護 1 排泄・排泄障害 便秘・下痢のアセスメントと看護		指示された動画を視聴する 高齢者の身体的変化を復習する	
第4回	演習 グループワーク	高齢者の生活を支える看護 2 排便・直腸内与薬		排便・直腸内与薬について事前学習し臨む	
第5回	講義 グループワーク	高齢者の生活を支える看護 3 高齢者の清潔ケアとは		高齢者の皮膚機能、スキンケアについて学習し臨む	
第6回	演習 グループワーク	高齢者の生活を支える看護 4 高齢者の清潔ケア 爪切り・髭剃り		高齢者の皮膚機能について学習し臨む	
第7回	講義	高齢者の生活を支える看護 5：外部講師 食事・食生活に対する看護		高齢者の食生活について学習し臨む	
第8回	講義 演習	高齢者の生活を支える看護 6：外部講師 摂食・嚥下障害のアセスメント 食事援助		摂食・嚥下機能について高齢者の加齢変化も含めて学習し臨む	
第9回	講義 演習	高齢者の生活を支える看護 7：外部講師 摂食・嚥下障害のアセスメント 口腔ケア・義歯の取り扱い		口腔ケア・義歯の一般的な取り扱いについて学習し臨む	
第10回	講義 演習 グループワーク	高齢者の生活を支える看護 8：外部講師 摂食・嚥下障害のアセスメント 経鼻経管栄養		経管胃チューブ、経腸栄養について、対象・留意点・手技を学習し授業に臨む	
第11回	講義 演習 グループワーク	高齢者の生活を支える看護 9：外部講師 摂食・嚥下障害のアセスメント 経鼻経管栄養 経鼻胃チューブの挿入			
第12回	講義 演習 グループワーク	高齢者の生活を支える看護 10 口腔内・鼻腔内吸引・気管切開の管理		吸引の対象・留意点・手技と気管切開の管理について学習する 指示された動画を視聴する	
第13回	講義 演習 グループワーク	高齢者の生活を支える看護 11 口腔内・鼻腔内吸引・気管切開の管理			
第14回	講義 演習 グループワーク	高齢者の生活を支える看護 12 口腔内・鼻腔内吸引・気管切開の管理			
第15回		終講試験			

科目名		高齢者に特有な疾患の看護			
開始時期	2年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 高齢者に特有な疾患と治療を学び、状態に応じた看護を考える。それらを基に看護過程を展開し、対象者に必要な看護を考える。					
【到達目標】					
1. 高齢者に特徴的な健康障害の病態・症状・治療・検査・看護について学ぶ 2. 高齢者に特徴的な健康障害の病態・状態に応じた看護の視点と看護過程ができるようになる					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 課題 20%					
【テキスト】医学書院 老年看護学 老年看護 病態・疾患論 腎・泌尿器 運動器 眼 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 緊急度・重症度からみた症状別看護過程					
【参考文献】医学書院 生活機能からみた老年看護過程					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	老年期にある患者の看護過程の考え方 高齢者と薬		既習の老年期の加齢に伴う変化、高齢者の生活を支える援助技術を復習して臨む	
第2回	講義	高齢者に特有な腎泌尿器疾患と看護		腎・泌尿器の解剖生理を復習して臨む 関連する動画を視聴して臨む	
第3回	講義	運動器疾患をもつ高齢者の看護 1 高齢者に多い骨折と看護		運動器の解剖生理を復習して臨む 関連する動画を視聴して臨む	
第4回	講義	運動器疾患をもつ高齢者の看護 2 高齢者に多い運動器疾患と看護			
第5回	講義 演習	運動器疾患をもつ高齢者の看護 3 :外部講師 麻痺のある患者の更衣		感覚器疾患について事前学習をして臨む	
第6回	講義	高齢者に特有な感覚器系疾患と看護 1 1 老人性白内障をもつ高齢者の看護 :外部講師			
第7回	講義	高齢者に特有な感覚器系疾患と看護 2 2 老人性白内障をもつ高齢者の看護 :外部講師		事前に事例の疾患に関連する動画を視聴し、解剖生理を復習して臨む 加齢に伴う身体・心理・社会的側面の変化を復習して臨む	
第8回	グループワーク	看護過程の展開 1 情報収集			
第9回	グループワーク	看護過程の展開 2 アセスメント①		検査データの見方や疾患のアセスメントを行うために必要な学習して臨む 必要だと考える参考書を持参して臨む 講義時間までに課題を終了して臨む	
第10回	グループワーク	看護過程の展開 2 アセスメント②			
第11回	グループワーク	看護過程の展開 3 看護上の問題点を明らかにする・看護計画の立案			
第12回	演習 グループワーク	看護過程の展開 4 立案した看護計画の実施			
第13回	グループワーク	看護過程の展開 5 看護計画の評価・看護要約		学びの発表ができるように準備して臨む	
第14回	グループワーク	看護過程の展開 6 全体像の把握・理解について学びの共有			
第15回		終講試験			

科目名		小児の成長と発達			
開始時期	1年後期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
日々、大きく変化する子どもの特徴的な成長・発達について学ぶ。個性ある子どもの成長・発達を正しく評価するためにも評価方法を学び、その子に合わせた関わりやその子を支える保護者への支援方法を考える。					
【到達目標】					
1. 子どもの成長発達を理解し評価できる 2. 乳児から青年期までの時期がその後のライフサイクルに大きく影響し、重要な時期であることがわかる 3. 子どもの健康を維持、増進するための生活について理解を深める					
【成績評価の方法】 終講試験 90% 参考 10%					
【テキスト】医学書院 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	子どもの成長・発達と生活 1	テキスト、他の書籍などを活用して子どもの成長発達の特徴について学習する		
第2回	講義	子どもの成長・発達と生活 2			
第3回	講義	子どもの成長・発達と生活 3			
第4回	講義	乳幼児期の成長・発達と生活 1	テキスト、他の書籍などを活用して乳幼児期の成長発達の特徴について学習する		
第5回	講義 グループワーク	乳幼児期の成長・発達と生活 2			
第6回	講義	学童期・思春期・青年期の成長・発達と生活	各期の特徴について、テキストや他の書籍などを活用し学習する		
第7回	講義 グループワーク	発達段階に応じた遊び	テキストや他の書籍などを活用し、各発達段階に応じたおもちゃや遊びについて調べる		
第8回	講義	子どもの栄養	テキストや他の書籍などを活用し、各発達段階に必要な栄養について学習する		
第9回	演習	健康を維持・増進するための食事援助(食事指導について・子どもに合わせた食の選択)	指導方法を検討し事例の保護者、子どもへの指導を実施できるように準備する		
第10回	演習	清潔を維持するための援助(臀部浴・乳幼児のおむつ交換・更衣)	主体的に進められるように、テキスト、動画など自己学習を進める		
第11回	講義	子どもの発達評価 (デンバー 遠城寺他) :外部講師	子どもの発達を評価する指標について学習する 正しく評価するための関わりを考える		
第12回	講義 演習	子どもの事故と安全対策	各期の子どもの事故と安全対策について学習する 第1回目~12回目の内容を踏まえて レポートを作成する		
第13回	演習	子どもの遊び 1 (遊びの演習)	発達段階に応じた手作りおもちゃを使って、 発達に合った関わりが取れるように学習し準備する		
第14回	演習	子どもの遊び 2 (遊びの演習)	遊びを通して、子どもにとっての遊びの意味を考える		
第15回		定期試験			

科目名		小児の疾病と治療			
開始時期	2年前期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
小児の特徴的な疾患と共に診断方法、症状、治療、検査について学ぶ。得られた知識を疾患、障害を持つ子どものアセスメントに活かし小児看護、指導に役立てる。					
【到達目標】					
1. 系統別にまとめた小児特有の疾患を知り、症状、治療、検査方法について知識を得る 2. 疾患や症状に対して看護を考えることができる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 小児臨床看護各論					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	染色体異常・先天異常 代謝性疾患	事前にテキスト第1章 第3章を読む わからない言葉を調べ、学習する		
第2回	講義	内分泌疾患 免疫・アレルギー性疾患 リウマチ性疾患	事前に第4章 第5章を読む わからない言葉を調べ、学習する		
第3回	講義	感染症 呼吸器疾患	事前に第6章 第7章を読む わからない言葉を調べ、学習する		
第4回	講義	循環器疾患	事前に第8章を読む わからない言葉を調べ、学習する		
第5回	講義	消化器疾患	事前に第9章を読む わからない言葉を調べ、学習する		
第6回	講義	血液・造血器疾患 腎・泌尿器及び生殖器疾患	事前に第10章 第12章を読む わからない言葉を調べ、学習する		
第7回	講義	神経疾患 運動疾患	事前に第14章を読む わからない言葉を調べ、学習する		
第8回		終講試験			

科目名		小児の疾病・症状からみる看護			
開始時期	2年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
小児の成長と発達、小児の疾病と治療で学んだ知識を活用して対象となる子どもの看護を考える。また、子どもを支える保護者、家族の存在に対しても看護の必要性を考え、双方を支援できる個別性ある看護実践ができるようになる。					
【到達目標】					
1. 症状、疾病を理解し、それぞれの発達段階をふまえた看護を考えることができる 2. 小児の疾患、障害、入院が身体的・精神的・社会的にどのように影響するのかを考えることができる 3. 疾患、障害を持つ小児を支える家族への看護を考えることができる					
【成績評価の方法】 終講試験 90% 参画 10%					
【テキスト】医学書院 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	小児看護と倫理 (子どもの権利)		指定の動画を視聴する 倫理的問題に関する授業後レポートを作成する	
第2回	講義 グループワーク	虐待を受けた小児の症状と看護		虐待防止支援啓発CM作成に向けて、第1回目の講義を振り返り、準備を進める	
第3回	講義	子どもの病気の理解		テキストの内容をよく読み準備する 指定の動画を視聴する	
第4回	講義	症状を示す疾病と看護 1 (発熱 脱水 嘔吐 下痢)		テキスト、他の書籍などを活用し学習する 指定の動画を視聴する	
第5回	講義	症状を示す疾病と看護 2 (意識障害 痙攣 痛み)		テキスト、他の書籍などを活用して(意識障害 痙攣 痛み)説明できるようにする	
第6回	講義 グループワーク	循環器疾患のある子どもと家族の看護 (川崎病 ファロー四徴症) 事例から看護を考える		テキスト、他の書籍を活用し疾患の学習をする	
第7回	講義 グループワーク	消化器疾患のある子どもと家族の看護 (先天性幽門狭窄症 腸重積) 事例から看護を考える			
第8回	講義 グループワーク	内分泌疾患のある子どもと家族の看護 (糖尿病) 事例から看護を考える			
第9回	講義 グループワーク	泌尿器疾患のある子どもと家族の看護 (ネフローゼ症候群) 事例から看護を考える			
第10回	講義 グループワーク	脳神経疾患のある子どもと家族の看護 (てんかん 脳性まひ) 事例から看護を考える			
第11回	講義 グループワーク	呼吸器疾患のある子どもと家族の看護 (気管支喘息) 事例から看護を考える		指定の動画を視聴する	
第12回	演習	子どものフィジカルアセスメント			
第13回	演習	子どもと家族に合った看護実践 (バイタルサイン、環境整備、計測、生活指導)			
第14回	演習	子どもと家族に合った看護実践 (バイタルサイン測定、環境整備、計測、生活指導)			
第15回		終講試験			

科目名		母性看護学総論			
開始時期	2年前期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 母性看護の基盤となる概念を理解するとともに、母性看護を実践する上で必要な基礎的知識や考え方を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 母性看護学は女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護を基盤として次世代の健全育成を目指す看護である事がわかる 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状についての理解を深め、母性看護の課題や役割について考えられる 3. 女性のライフサイクルにおける母性機能の特徴とその看護について理解できる 4. リプロダクティブヘルスに関する主な健康問題についての理解を深めることができる					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 参画 20%					
【テキスト】医学書院 母性看護学概論					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	母性看護の基盤となる概念 ①母性とは ②母性関係と家族発達 ③セクシュアリティ(人間の性) ④リプロダクティブヘルス・ライツ ⑤ヘルスプロモーション ⑥母性看護のあり方と倫理 ⑦母性看護における安全・事故予防		基本的概念について各自事前に調べる	
第2回	講義	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 ①母性看護の歴史的変遷と現状 ②母性看護の提供システム		現在の母性看護に関するニュースを調べる(母子統計など)	
第3回	講義 グループワーク	母性看護の対象理解 ①ライフサイクルに伴う形態・機能の変化 ②ライフサイクルと家族 ③母性の発達・成熟・継承		自分のライフプランを考えて持参する	
第4回	講義 グループワーク	母性看護に必要な技術 ①母性看護における看護過程 ②情報収集・アセスメント技術 ③母性看護に使われる看護技術		次回グループワークに向けてグループ(思春期、性成熟期、更年期、老年期)に分かれ、各期の学習を進める	
第5回	演習 グループワーク	女性のライフステージ各期における看護 ①ライフサイクルにおける女性の健康と看護 ②思春期の健康と看護 ③性成熟期の健康と看護 ④更年期・老年期の健康と看護			
第6回	講義 グループワーク	リプロダクティブヘルスケア その1 ①家族計画 ②性感染症と予防 ③HIVに感染した女性への看護 ④人工妊娠中絶と看護		リプロダクティブヘルスケアに関する項目と看護について予習する	
第7回	講義 グループワーク	リプロダクティブヘルスケア その2 ⑤喫煙と女性の健康 ⑥性暴力を受けた女性に対する看護 ⑦児童虐待と看護・里親制度 ⑧国際化社会と看護 (外国人にとっての周産期看護)			
第8回		終講試験			

科目名		周産期の実際と支援			
開始時期	2年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 妊娠・分娩・産褥・新生児の正常経過とアセスメント視点と看護について学ぶ。					
【到達目標】					
1. 周産期の考え方と子どもを産み育てることの意味が分かる 2. 周産期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)の理解とアセスメントの視点、保健指導を含めた支援がわかる 3. 周産期に異常経過となった対象者への看護がわかる					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 参画 20%					
【テキスト】医学書院 母性看護学各論					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	周産期の考え方と子どもを産み育てることの意味/出生前からのリプロダクティブヘルスケアとは:外部講師		指定された動画を事前に視聴する 周産期の定義、およびリプロダクティブヘルスケアについて教科書を読み、理解を深める	
第2回	講義 グループワーク	妊娠期の健康診査と保健指導:外部講師		妊娠期の身体的・心理・社会的特性の理解を深めるための事前学習をして授業に臨む	
第3回	講義 グループワーク	分娩期における看護:外部講師		分娩経過について動画を再視聴し、講義に参加する	
第4回	講義 演習	妊婦の健康診査の実際(腹部診察 子宮底測定) 分娩期の看護の実際(呼吸法・陣痛緩和の実際・胎盤計測):外部講師		具体的に演習できるための事前学習をして、演習に臨む(看護・技術マトリックス参照する)	
第5回	演習	妊婦健診、分娩時の支援:外部講師		具体的に演習できるための事前学習をして、演習に臨む(看護・技術マトリックス参照する)	
第6回	講義 演習	新生児の健康状態のアセスメントと看護の実際 産褥期における看護 その1 新生児の清潔ケア(沐浴)		時間内に演習ができない場合は自己研修の時間を使って必ず演習すること	
第7回	講義 グループワーク	産褥期における看護 1:外部講師 ①産褥経過 ②産褥のアセスメント ③産褥と家族看護		母性看護の中で使われる専門用語を理解して授業に臨む	
第8回	講義 グループワーク	産褥期における看護 2 ④施設退院後の看護		退院後はどのような支援が必要となるかワークを進めながら実際の看護について深める 次回演習の確認をする	
第9回	講義 演習	産褥期における看護 3:外部講師 ⑤産褥期のアセスメントに沿った観察の実際と看護		退行性変化・進行性変化、母乳栄養促進のための援助の演習ができるよう事前学習して臨む	
第10回	講義	妊娠期の異常への看護 ①妊娠糖尿病妊婦への看護 ②妊娠高血圧症候群妊婦への看護 ③切迫早産妊婦への看護		正常を逸脱している病態が理解できるよう事前学習して臨む	
第11回	講義 グループワーク	分娩期の異常への看護:外部講師 産科処置と産科手術が必要になった産婦の看護		正常な分娩経過を理解した上で授業に臨む	
第12回	講義	新生児期の異常への看護 低出生児・高ビリルビン血症児の看護		新生児の生理的变化を理解したうえで授業に臨む	
第13回	講義 グループワーク	産褥期の異常への看護 1:外部講師 ①母子に健康上の問題を抱えている褥婦の看護 ②育児に困難を抱える母親への看護		正常な産褥経過を理解し、またニュースなどで取り上げられている身近な事例を用意しワークに参加する	
第14回	講義 グループワーク	産褥期の異常への看護 2:外部講師 ③児を亡くした褥婦・家族への看護 ④メンタルヘルスの問題を抱える母親への支援		正常な産褥経過を理解した上で授業に臨む ニュースなどで取り上げられている身近な事例を用意しワークに参加できるようにする	
第15回		終講試験			

科目名		女性生殖器と周産期の異常			
開始時期	2年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 女性生殖器疾患に関する基本的知識と必要な診察・検査・処置などについて学ぶ。					
【到達目標】					
1. 女性生殖器疾患の症状とその病態生理がわかる 2. 女性生殖器疾患に必要な診察・検査および治療・処置についてわかる 3. 周産期の異常やそのリスク、および予防がわかる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 母性看護学各論					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	子宮筋腫・内膜症の診断と治療		女性生殖器、子宮の構造、内膜等解剖学で復習する	
第2回	講義	不妊症・内分泌の診断と治療		教科書等を読み、排卵や妊娠に関与するホルモンについて事前学習する	
第3回	講義	子宮頸癌・子宮体癌の診断と治療		女性生殖器、子宮の構造、内膜等解剖学で復習する	
第4回	講義	更年期・老年期における婦人科疾患と治療		更年期、老年期の身体・心理・社会的特徴を確認する女性生殖器について復習する	
第5回	講義	妊娠初期の異常(流産、異所性妊娠、絨毛性疾患、不育症等)と治療		妊娠の成立について教科書で学習する	
第6回	講義	性感染症、骨盤内炎症性疾患の診断と治療		女性生殖器、感染症について学習する	
第7回	講義	卵巣腫瘍(良性腫瘍・悪性腫瘍)の診断と治療		卵巣の解剖、排卵の機序、腫瘍の定義を学習する	
第8回	講義	妊娠期の異常と治療 1 ①ハイリスク妊娠 ②妊娠期の感染症		妊娠の成立、感染症についての学習をする	
第9回	講義	妊娠期の異常と治療 2 ③妊娠疾患(妊娠悪阻・妊娠高血圧症候群・血液型不適合妊娠)、多胎妊娠、妊娠持続期間の異常の診断と治療 ④異所性妊娠		妊娠期の身体的・心理・社会的特性を復習する	
第10回	講義	分娩の異常の診断と治療 1		分娩期における看護 ①分娩の要素②分娩の経過③産婦・胎児・家族のアセスメントについて学習する	
第11回	講義	分娩の異常の診断と治療 2		分娩期における看護 ①分娩の要素②分娩の経過③産婦・胎児・家族のアセスメントについて学習する	
第12回	講義	新生児の異常と治療		新生児期における看護 ①新生児の生理②新生児の機能③新生児のアセスメントを学習する	
第13回	講義	産褥の異常と治療 1		産褥期における看護 ①産褥経過②産褥のアセスメントを学習する	
第14回	講義	産褥の異常と治療 2		産褥期における看護の実際 産褥期のアセスメントに沿った観察の実際と看護を学習する	
第15回		終講試験			

科目名		周産期の看護			
開始時期	2年後期	単位数	1単位 (15時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
「母性看護学概論」、「周産期の実際と支援」、「女性生殖器疾患と周産期の異常」で学んだ知識、タスクトレーニングでの技術を活用しながら、より臨床に近いシチュエーションでの看護を実践する能力を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 正常な産褥経過にある対象者のアセスメント視点を理解したうえで、必要な看護の判断力が深まり、看護実践できる能力が深まる 2. 異常経過となった妊産褥婦のアセスメント視点を理解したうえで、必要な看護の判断力が深まり、看護実践していく方法がわかる 3. 新生児の正常経過のアセスメント視点を理解したうえで、必要な看護の判断力、看護実践できる能力が深まる					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 参画 20%					
【テキスト】医学書院 母性看護学各論					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外 (予習・復習等) の学習と具体的な内容	
第1回	講義	正常な産褥経過にある対象者の事例の提示 (新生児を含む) 異常経過となった妊産褥婦の事例の提示		指定された動画の視聴 提示された事例を理解するために必要な知識・技術の確認をする	
第2回	講義 グループワーク	【事例1】【事例2】について観察の視点をワーク		授業の進行に合わせ、今後の授業で計画的に演習ができるように各グループから選出された演習リーダーを通して実践可能な演習計画をたてる	
第3回	講義 グループワーク 演習	【事例1】【事例2】について観察の視点をワーク 内容の共有と解決に向けての質疑・応答 事例に必要な看護の実践		ワークを行うグループと演習を行うグループが出てくるため、計画的に行っているか共有をする	
第4回	講義 グループワーク 演習	【事例1】【事例2】について観察の視点をワーク 内容の共有と解決に向けての質疑・応答 事例に必要な看護の実践 産褥期の排便を促す援助等		指定された動画を視聴し技術確認をしながら必要な看護実践ができるよう学習を進める	
第5回	講義 グループワーク 演習	【事例1】【事例2】について観察の視点をワーク 内容の共有と解決に向けての質疑・応答 事例に必要な看護の実践 リラクゼーションケア等		指定された動画を視聴し技術の確認をしながら必要な看護実践ができるよう学習を進める	
第6回	講義 グループワーク 演習	【事例1】【事例2】について観察の視点をワーク 内容の共有と解決に向けての質疑・応答 事例に必要な看護の実践 褥婦の退院に向けての支援		事例の看護過程展開に基づいた看護支援の実際と退院に向けた指導の実際ができるか質疑・応答、演習を行いながら看護実践能力を深める	
第7回	講義 グループワーク 演習	【事例1】【事例2】について観察の視点をワーク 内容の共有と解決に向けての質疑・応答 事例に必要な看護の実践のまとめ		事例の看護過程展開に基づいた看護支援の実際と退院に向けた指導の実際ができるか質疑・応答、演習を行いながら看護実践能力を深める	
第8回		終講試験			

科目名		精神の機能と健康			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
こころの誕生から機能している過程を学習することにより、自己を見つめると共に、人のこころのはたらきについて学ぶ。また、健康な生き方とは何かについて考える。					
【到達目標】					
1. こころの誕生から機能している過程を学習し、自己を見つめると共に、人のこころのはたらきについて考える。また、健康な生き方とは何かについて考えられるようになる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 精神看護の基礎 精神看護の展開					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	精神看護学で学ぶこと 心ケアと現代社会、精神看護学の課題など		講義のキーワードを参考に予習・復習を行う	
第2回	講義 グループワーク	精神の健康と精神障害のとらえ方			
第3回	講義 グループワーク	ストレスと健康の危機 ストレス反応、危機介入、危機への対処 喪失と悲嘆			
第4回	講義 グループワーク	ストレスと健康の危機 心的外傷、自殺問題 回復を支える力「レジリエンス」			
第5回	講義 グループワーク	心のしくみと人格の発達 フロイトの精神力動理論(自我の構造、自我の発達段階)			
第6回	講義 グループワーク	心のしくみと人格の発達 フロイトの精神力動理論(自我の防衛機制)			
第7回	講義 グループワーク	心のしくみと人格の発達 ライフサイクルとアイデンティティ エリクソンの漸性的発達理論			
第8回	講義 演習	関係のなかの人間 看護場面の再構成 1 理論と形式		講義のキーワードを参考に予習・復習を行う 指定された動画を視聴する 講義のキーワードを参考に予習・復習を行う	
第9回	講義 演習	関係のなかの人間 看護場面の再構成 2 看護場面における関係性の考察			
第10回	講義 演習	回復を支える精神療法—個人・集団精神療法(SST)			
第11回	講義 グループワーク	関係のなかの人間 人間と集団 精神看護に必要なチームワーク		講義のキーワードを参考に予習・復習を行う	
第12回	講義 グループワーク	ケアの人間関係 ケアの前提、ケアの原則 患者—看護師関係における感情体験			
第13回	講義 グループワーク	リエゾン精神看護の実際 精神疾患を抱える患者・家族の看護:外部講師		講義のキーワードを参考に予習・復習を行う 指定された動画を視聴する	
第14回	講義 グループワーク 演習	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 精神的安寧を保つためのケア		講義のキーワードを参考に予習・復習を行う	
第15回		終講試験			

科目名		精神の法と歴史			
開始時期	1年後期	単位数	1単位(15時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
精神保健医療の歴史と現状、法律を学び、今日の精神医療に求められることについて考える。					
【到達目標】					
1. 精神保健医療の歴史と現状を学び、今日の精神医療・看護に求められることについて考える					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 精神看護の基礎 精神看護の展開					
【参考文献】なし					
授業の方法		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義 グループワーク	社会のなかの精神障害	講義のキーワードを参考に予習・復習を行う 指定された動画を視聴する		
第2回	講義 グループワーク	精神障害と治療の歴史			
第3回	講義 グループワーク	日本における精神医学・精神医療の流れ、精神障害と文化			
第4回	講義 グループワーク	精神障害と法制度 1			
第5回	講義 グループワーク	精神障害と法制度 2			
第6回	講義 グループワーク	精神障害と法制度 3			
第7回	講義 グループワーク	精神障害と倫理			
第8回		終講試験			

科目名		精神障害のある人の医療と看護			
開始時期	2年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 精神科医療がイメージできるよう精神科医療で行われている治療と看護の実際を学習する。					
【到達目標】					
1. 精神科医療に焦点をあて、行われている治療の実際を学習し、精神科医療がイメージできる 2. 精神科医療に焦点をあて、行われている看護の実際を学習し、精神科看護がイメージできる					
【成績評価の方法】 終講試験 100%					
【テキスト】医学書院 精神看護の基礎 精神看護の展開					
【参考文献】このほか、疾患に合わせてテキスト参照のこと					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	精神科病理および治療総論		講義のキーワードを参考に予習・復習を行う 指定された動画を視聴する	
第2回	講義	精神科病理および治療各論－統合失調症			
第3回	講義	精神科病理および治療各論－気分(感情)障害			
第4回	講義	精神科病理および治療各論 －神経症性障害、ストレス関連障害および 身体表現性障害			
第5回	講義	精神科病理および治療各論－アディクション			
第6回	講義	精神科病理および治療各論－児童・青年期の 精神障害			
第7回	講義	精神科病理および治療まとめ			
第8回	講義	精神科看護総論			
第9回	講義	精神障害と看護の実際－統合失調症患者の 看護			
第10回	講義	精神障害と看護の実際－気分(感情)障害患 者の看護			
第11回	講義	精神障害と看護の実際－神経症性障害、スト レス関連障害および身体表現性患者の看護			
第12回	講義	精神障害と看護の実際－アディクション患 者の看護			
第13回	講義	精神障害と看護の実際－児童・青年期の精神 障害患者の看護			
第14回	講義	精神科における医療安全と治療的環境および 看護活動			
第15回		終講試験			

科目名		健康状態と看護			
開始時期	1年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】 <input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】 年齢を問わず人が生活していく上での健康とは何かを探究し、健康に必要なアセスメントをもとに看護および看護技術を学習する。					
【到達目標】 1. 「健康」に焦点をあて、人が生活していくうえでの疾病予防と健康維持に必要な看護を学ぶことができる 2. 健康を維持していくうえで必要な看護技術を習得することができる					
【成績評価の方法】 終講試験 80% 課題 20%					
【テキスト】医学書院 看護学概論 地域・在宅看護の基盤 成人看護学総論 老年看護学 小児看護学概論 小児看護学総論 精神看護の展開					
【参考文献】メディックメディア 看護がみえる⑤対象の理解 I					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 演習	暮らしをみる力		予習：基礎看護学概論と地域・在宅看護論のテキストの「暮らし」に関する内容を読み込んで臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第2回	講義	健康の概念・保持増進		予習：基礎看護学概論の該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第3回	講義	セルフマネジメント		予習：成人看護学総論の該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第4回	講義	発達段階にあわせた健康とヘルスアセスメント(成人)		予習：成人看護学総論のテキストの該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第5回	講義	発達段階にあわせた健康とヘルスアセスメント(高齢者)		予習：老年看護学のテキストの該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第6回	講義	発達段階にあわせた健康とヘルスアセスメント(小児)		予習：小児看護学概論のテキストの該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第7回	講義 演習	健康の保持・増進に向けた技術		予習：基礎看護学概論・成人看護学総論のテキストで該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第8回	講義 演習	発達段階にあわせた健康の保持・増進に向けた技術(成人・高齢者)		予習：成人看護学総論・老年看護学のテキストで該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第9回	講義 演習	発達段階にあわせた健康の保持・増進に向けた技術(小児)		予習：小児看護学のテキストの該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第10回	演習 グループワーク	発達段階にあわせた個別の健康支援(成人・高齢者)		予習：これまでの発達段階の学習内容をふまえ、成人・老年期にある人の健康支援に必要なことを考えて臨む 復習：各回で学習・経験した内容を振り返り次回につなげる	
第11回	演習 グループワーク	発達段階にあわせた個別の健康支援(成人・高齢者)			
第12回	演習 グループワーク	発達段階にあわせた個別の健康支援(成人・高齢者)			
第13回	演習	発達段階にあわせた集団への健康支援(小児)		予習：各発達段階で考えられる健康問題について調べておく 復習：授業資料をよく読み振り返る	
第14回	講義 グループワーク	生活者の健康支援		予習：第13回まで学習した内容を復習して臨む 復習：講義内容の要点をまとめる	
第15回		終講試験			

科目名		急性期の看護			
開始時期	2年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員・外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
生命の危機状態にある人のアセスメントを行い、必要な看護を提供できるよう急性期看護の基本的知識と技術を学習する。また、場面設定を行いシミュレーション学習を行うことで、臨床判断能力を身につける機会とする。					
【到達目標】					
1. 急性期にある人のアセスメントと看護に必要な知識と技術を学ぶことができる 2. シミュレーション学習を経験することにより、臨床判断能力を身につけることができる					
【成績評価の方法】 終講試験 80% レポート 20%					
【テキスト】医学書院 クリティカルケア看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 精神看護の基礎 精神看護の展開 基礎看護技術Ⅱ					
【参考文献】メディックメディア 看護がみえる⑤対象の理解Ⅰ					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	クリティカルケア看護の専門性とチーム医療:外部講師			
第2回	講義	クリティカルな状況にある患者・家族の特徴と看護:外部講師		予習:クリティカルケア看護の基礎知識を視聴し要点をまとめる 復習:講義内容を振り返り要点をまとめる	
第3回	講義 演習	クリティカルな状況にある患者・家族の特徴と看護(観察と全身状態のアセスメント):外部講師			
第4回	講義 グループワーク	クリティカルケア看護における家族への代理意思決定支援(法律含む)		予習:クリティカルケアのテキストの該当する内容を熟読したうえで臨む 復習:講義内容の要点をまとめる	
第5回	演習	急性期の観察技術 1 (フィジカルイグザミネーション・モニタリング・ドレーン類)		予習:クリティカルケアのテキストの該当する内容を熟読したうえで臨む 復習:実施した演習の振り返りをする	
第6回	演習	急性期の観察技術 2 (フィジカルイグザミネーション・モニタリング・ドレーン類)			
第7回	演習	急性期にある患者の看護(小児) ネブライザーを用いた気道内加湿・経口与薬:外部講師		予習:小児看護学概論のテキストの該当する内容を熟読したうえで臨む 吸入と経口与薬について調べ、要点をまとめる 復習:実施した演習の振り返りをする	
第8回	演習	急性期の混乱状態にある患者の看護 (精神科疾患)		予習:統合失調症の急性期についてテキストを使用し学習したうえで臨む 復習:実施した演習の振り返りをする	
第9回	講義 演習	BLS・ALS・緊急時の応援要請:外部講師		予習:テキストでBLS・ALSの知識の熟読とBLSの技術を復習したうえで臨む(小児も含む) 復習:実施した演習の振り返りをする	
第10回					
第11回	講義 演習	急変時の対応 SCENARIO 使用 1 (事例についての情報収集・分析解釈・対応を考える)		予習:事例を熟読し必要な情報について考える 復習:実施した演習の振り返りをする	
第12回	演習	急変時の対応 SCENARIO 使用 2 (事例についての情報収集・分析解釈・対応を実践する)		予習:第11回の演習の課題を明らかにするとともに、補足学習をする 復習:実施した演習の振り返りをする	
第13回	演習 グループワーク	急変時の対応振り返り		予習:第11回・12回の演習での学びと課題を明らかにするとともに、補足学習をする 復習:急性期の対応の要点をまとめる	
第14回	講義 グループワーク	急性期における臨床判断の基礎的能力		予習:この科目で学習した内容から、臨床判断に必要な要点をまとめる 復習:講義概要の要点をまとめる	
第15回		終講試験			

科目名		周術期の看護			
開始時期	2年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員・外部講師
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
周術期の概要と経過に合わせた看護および看護技術を学習する。					
【到達目標】					
1. 周術期の概要を学習することで、経過に合わせた患者のアセスメントができる 2. 周術期の経過を学習することで、各疾患に合わせた周術期に必要な看護を考えることができる					
【成績評価の方法】 終講試験 80% レポート 20%					
【テキスト】医学書院 女性生殖器 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論 老年看護 病態・疾患論 がん看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程					
【参考文献】メディックメディア 看護がみえる⑤対象の理解 I					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	周術期看護の概要		予習: テキスト内容と周術期看護の指定された動画を視聴し要点をまとめる 復習: 講義内容を振り返り要点をまとめる	
第2回	講義	手術前の看護 (身体的・心理的支援)		予習: テキスト内容と術前看護と術中看護の指定された動画を視聴し要点をまとめる 復習: 講義内容を振り返り要点をまとめる	
第3回	講義	手術中の看護			
第4回	講義	手術後の看護 1 生体侵襲の看護(ムアアの種類・創傷の治療過程など)		予習: テキスト内容と周術期看護の指定された動画を視聴し身体侵襲の要点をまとめる 復習: 講義内容を振り返り要点をまとめる	
第5回	講義	手術後の看護 2 術後せん妄・疼痛管理		予習: テキスト内容と周術期看護の指定された動画を視聴し身体侵襲の要点をまとめる 復習: 講義内容を振り返り要点をまとめる	
第6回	講義 演習	手術後の看護 3 術後合併症予防のための看護と技術		予習: テキスト内容と周術期看護の指定された動画を視聴し身体侵襲の要点をまとめる 復習: 講義演習内容を振り返り要点をまとめる	
第7回	演習	周術期の観察技術 (フィジカルイグザミネーション・モニタリング・ドレーン類)		予習: テキスト内容と周術期看護の指定された動画を視聴し観察点の要点をまとめる 復習: 演習を振り返り要点をまとめる	
第8回	演習	手術後の患者の看護 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換		予習: テキストなどを参考に点滴・ドレーン留置中の患者の寝衣交換の方法をまとめる 復習: 演習を振り返り要点をまとめる	
第9回	講義	乳がんの手術を受ける患者・家族の看護 1 乳がんの病態生理:外部講師		予習: テキストなどを参考に乳がんの病態生理、治療についてまとめる 復習: 講義を振り返り要点をまとめる	
第10回	演習	乳がんの手術を受ける患者・家族の看護 2		予習: テキストと病気の基礎知識にある乳がんに関する指定された動画を視聴し、乳がん患者・家族への看護をまとめる 復習: 演習を振り返り要点をまとめる	
第11回	演習	乳がんの手術を受ける患者・家族の看護 3			
第12回	演習	乳がんの手術を受ける患者・家族の看護 4			
第13回	演習	周術期看護(小児):外部講師		予習: プレパレーション、ディストラクション、点滴管理について調べ、要点をまとめる 復習: 演習内容を活用できるようにまとめる	
第14回	講義 グループワーク	周術期における看護		予習: 1~13回目までの授業内容を復習する 復習: 授業の要点をまとめる	
第15回		定期試験			

科目名		慢性期の看護			
開始時期	2年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
疾患を抱えながら生活をする人の経過や病みの軌跡に合わせたアセスメントをもとに必要な看護を学習する。また、療養を支援するうえで必要な看護技術を学習する。					
【到達目標】					
1. 慢性期にある人のアセスメントと必要な看護を学習することができる 2. 対象の日常生活を支えるために必要な技術を原理原則に基づいて習得できる					
【成績評価の方法】 終講試験 30% OSCE50% 課題 20%					
【テキスト】医学書院 臨床看護総論 成人看護学総論 内分泌・代謝 地域・在宅看護の基盤 小児看護学概論 小児臨床看護総論 精神看護の基礎 精神看護の展開 老年看護学 老年看護病態・疾患論 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
【参考文献】メディックメディア 看護がみえる⑤対象の理解 I					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義 グループワーク	慢性期看護の概要		予習：臨床看護総論、成人看護学総論にある該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容を振り返りまとめる	
第2回	講義 グループワーク	発達段階の慢性期の捉え方		予習：発達段階に合わせたテキストにある該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容を振り返りまとめる	
第3回	講義 グループワーク	セルフケアへの支援		予習：臨床看護総論にある該当する項目を事前に読み込んで臨む 復習：講義内容を振り返りまとめる	
第4回	講義 グループワーク	回復を支える精神看護 自己効力感		予習：成人看護学総論にある該当する項目を事前に読み込んで臨む 復習：講義内容を振り返りまとめる	
第5回	講義	慢性期疾患を抱える人を支える法律制度		予習：地域・在宅看護論にある該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容を振り返りまとめる	
第6回	講義	慢性期にある小児と家族の看護		予習：テキストをよく読み授業に参加する 復習：講義内容の要点をまとめる	
第7回	講義 グループワーク	慢性期疾患の継続治療に対する支援 1		予習：地域・在宅看護論にある該当する項目を読み込んで臨む 復習：講義内容を振り返りまとめる	
第8回	演習	慢性期疾患の継続治療に対する支援 2 (口腔ケア・義歯の管理)		予習：各技術の基本的手順、根拠を学習し、実施可能な状態で演習に臨むこと あつかんファミリー在森さんの事例を熟読し、疾患や治療の学習をした状態で演習に臨むこと 復習：実践を振り返り第12回以降の演習にむけた自己の課題を明確にする	
第9回	演習	慢性期疾患の継続治療に対する支援 3 (膀胱留置カテーテルを挿入した人の陰部洗浄・オムツ交換)			
第10回	演習	慢性期疾患の継続治療に対する支援 4 (点滴内静脈注射の管理：本体と側管ルート の管理)			
第11回	演習	慢性期疾患の継続治療に対する支援 5 (酸素吸入・吸引)			
第12回	演習	OSCEに向けた演習 1			
第13回	演習	OSCEに向けた演習 2		予習：第8回～11回の実践で明らかになった自己の課題に対して自己学習を重ねた状態で演習に臨むこと 復習：実践を振り返り自己の課題を明確にしながら自己演習を繰り返す	
第14回	演習	OSCEにむけた演習 3			
第15回		終講試験・OSCE			

科目名		終末期の看護			
開始時期	3年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員
【ディプロマ・ポリシー (DP) との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
終末期にある人とその家族のアセスメントと、必要な看護および看護技術を学習する。					
【到達目標】					
1. 疾患の学習や理論を活用し終末期にある人とその家族の全人的なアセスメントができる 2. 終末期にある人とその家族に必要な看護および看護技術を習得することができる					
【成績評価の方法】 終講試験 80%・レポート 20%					
【テキスト】医学書院 看護学概論 臨床看護総論 成人看護学総論 老年看護学 老年看護病態・疾患論 緩和ケア がん看護学 小児看護学概論 小児臨床総論 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 家族看護学 総合医療論					
【参考文献】メディックメディア 看護がみえる⑤対象の理解 I					
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容	
第1回	講義	終末期看護の概要 終末期・看取りとは			
第2回	講義	終末期看護の概要 死に至る経過		予習:臨床看護総論で該当する内容を学習する 復習:講義の要点をまとめる	
第3回	講義 グループワーク	死にゆく人の心理過程 キューブラー・ロスの死の受容過程			
第4回	講義	終末期にある小児の看護		予習:小児とその家族を支援する関わりについてテキスト などを活用し考える 復習:講義の要点をまとめる	
第5回	講義 グループワーク	終末期にある患者家族の看護		予習:家族看護学で該当する内容を学習する 復習:講義の要点をまとめる	
第6回	講義 グループワーク	エンドオブライフケア 全人的苦痛:外部講師		予習:老年看護学・緩和ケア・がん看護学の該当する内容を学習する 復習:講義の要点をまとめる	
第7回	講義 グループワーク	エンドオブライフケアへの意思決定:外部講師			
第8回	講義 グループワーク	エンドオブライフケアへの緩和ケア:外部講師		予習:緩和ケアの該当する内容を学習する 復習:講義の要点をまとめる	
第9回	講義 グループワーク	エンドオブライフケアを支える多職種連携 :外部講師			
第10回	講義 グループワーク	エンドオブライフケアを支える社会保障 :外部講師		予習:地域・在宅看護論の該当する内容を学習する 復習:講義の要点をまとめる	
第11回	演習	終末期における身体的変化と看護			
第12回	演習	看取り		予習:緩和ケアの該当する内容を学習する 復習:講義の要点をまとめる	
第13回	演習	死後の処置・家族へのグリーフケア			
第14回	講義 グループワーク	終末期の看護まとめ 死生観の共有		予習:死生観についてまとめる 復習:科目全体の要点をまとめる	
第15回		終講試験			

科目名		看護管理・医療安全			履修要件あり				
開始時期	3年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員				
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】									
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究									
【授業概要】									
看護組織、看護業務マネジメント、チーム医療、メンバーシップなどの看護サービスを提供する上で必要な管理の基本について学ぶ。また医療安全の考え方と事故防止の考え方が理解できるようになる。									
【到達目標】									
1. 看護管理の基礎が理解できる									
2. 医療安全の考え方と事故防止の考え方が理解できる									
【成績評価の方法】 終講試験 100% (看護管理 40% 医療安全 60%)									
【テキスト】医学書院 看護管理 医療安全									
【参考文献】医学書院 医療安全ワークブック									
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容					
第1回	講義	看護管理 1 看護とマネジメント:外部講師		テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 各章終了後に授業内容を振り返り、自己の考えを深める					
第2回	講義	看護管理 2 看護ケアのマネジメント:外部講師							
第3回	講義	看護管理 3 看護サービスのマネジメント:外部講師							
第4回	講義	看護管理 4 マネジメントに必要な技術:外部講師							
第5回	講義	看護管理 5 看護をとり巻く諸制度:外部講師							
第6回	講義	医療安全 1 事故防止の考え方							
第7回	講義	医療安全 2 ヒヤリ・ハット事例の分析 臨床で行われている医療安全の取り組みを考える							
第8回	講義	医療安全 3 医療安全とコミュニケーション							
第9回	講義	医療安全 4 診療の補助の事故防止							
第10回	演習	医療安全 5 診療の補助の事故防止 輸血の管理/輸液ポンプ使用時のリスクと事故防止					目的、手順、留意点を事前に学習する 演習後はワークシートを提出する		
第11回	演習	医療安全 6 点滴静脈内注射・静脈留置針留置に伴うリスクと安全管理							
第12回	演習	医療安全 7 点滴静脈内注射・静脈留置針留置に伴うリスクと安全管理							
第13回	講義	医療安全 8 療養上の世話の事故防止							
第14回	講義	組織的な安全管理体制への取り組み					テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 次回の講義に該当する内容を復習する 各章が終了後、ゼミナールをもとに復習する		
第15回		終講試験							

科目名		看護倫理			履修要件あり	
開始時期	3年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】						
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
医療現場で求められる倫理について考えることができる。また、看護実践における倫理的問題の存在を認識し、倫理的意思決定ができるための基本を学ぶ。						
【到達目標】						
1. 医療および看護において必要とされる倫理について理解できる 2. 倫理的問題を認識し、倫理的思考のプロセスを理解する						
【成績評価の方法】 終講試験 100%						
【テキスト】医学書院 看護倫理 看護学概論						
【参考文献】なし						
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	倫理学の基本的な考え方		テキストの該当箇所を熟読して授業に臨む 次回の講義に該当する内容を復習する 各章が終了後に授業内容を振り返り、自己の考えを深める		
第2回	講義	生命倫理				
第3回	講義	性と生殖の生命倫理				
第4回	講義	死の生命倫理				
第5回	講義	先端医療と制度をめぐる生命倫理				
第6回	講義	患者の権利・自己決定を支援する多職種との協働				
第7回	講義	看護倫理とは何か				
第8回	講義	専門職の倫理				
第9回	講義	倫理問題へのアプローチ 1				
第10回	講義	倫理問題へのアプローチ 2				
第11回	講義	看護研究の倫理				
第12回	講義	事例分析 1				
第13回	講義	事例分析 2				
第14回	講義	事例分析 3				
第15回		終講試験				

科目名		災害看護・国際看護			履修要件あり	
開始時期	3年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	外部講師・専任教員	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】						
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
災害時に適切な看護ケアを提供するため、災害が人々の健康や生活におよぼす影響を理解し、災害時のニーズに応じた看護の果たす役割を学ぶ。国際看護では、具体的な活動内容を知り、国際的な視野から看護問題の考え方を学ぶ。						
【到達目標】						
1. 災害が人々の生活におよぼす影響について理解する 2. 災害サイクルに応じた看護の役割を理解する 3. 国際救援ならびに開発協力における看護師の活動を具体的に知る 4. 日本における多文化共生について考えることができる						
【成績評価の方法】 終講試験 90%    レポート 10%						
【テキスト】医学書院 災害看護学・国際看護学 救急看護学						
【参考文献】日本看護協会出版会 災害現場でのトリアージと応急処置 学研メディカル秀潤社 いのちとこころを救う災害看護						
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	災害看護の歩み・災害医療の基礎知識 :外部講師		予習:教科書 第1章 災害看護学・国際看護学を学ぶにあたってを読む		
第2回	講義	災害看護の基礎知識 :外部講師		予習:教科書 第2章 災害看護学A~Bを読む		
第3回	講義	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 ①急性期・亜急性期 ②慢性期・復興期 ③静穏期		予習:教科書 第2章 災害看護学C~Eを読む		
第4回	講義	被災者特性に応じた災害看護の展開・災害と こころのケア		予習:教科書 第2章 災害看護学Fを読む		
第5回	講義 グループワーク	日常からの災害予知行動(KYIT)		各自の地域の避難場所・避難経路について調べる 各自宅の「災害への備え」の実態を確認する。		
第6回	校外学習	神奈川県総合防災センター見学		見学時の感染予防、体調確認を行う 見学後、課題レポートを提出する		
第7回	講義	国際看護学とは 世界の健康問題の現状・グローバルヘルス :外部講師		指定された動画を視聴する		
第8回	講義	国際看護活動の展開過程・国際協力の課題 :外部講師				
第9回	講義 グループワーク	文化を考慮した看護 グループワーク		グループで決定した各国の課題、テーマをまとめる		
第10回	講義 グループワーク	机上訓練 避難所での被災者受け入れについて考える ゾーニング・役割分担・必要物品等		予習:教科書 第2章 災害医療の基礎知識を読む グループを編成し机上訓練の実施		
第11回	講義 グループワーク	机上訓練 避難所での被災者受け入れについて考える ゾーニング・役割分担・必要物品等				
第12回	講義	外傷処置の実際、CSCATTT トリアージとは		予習:教科書 第2章 災害医療の基礎知識を読む		
第13回	演習	災害現場での対応と役割 1 トリアージ・応急処置(止血法)・搬送法		予習:教科書 付録資料1A 応急処置の動画を閲覧する		
第14回	演習	災害現場での対応と役割 2 トリアージ・応急処置(止血法)・搬送法		予習:教科書 付録資料1B 搬送法の動画を閲覧する		
第15回		終講試験				

科目名		看護研究			履修要件あり	
開始時期	3年全期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】						
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
<p>本科目は看護を創造する力として、今まで培ってきた看護実践力を発揮し看護研究に取り組む。実習や日常の中で疑問に気づく、また疑問を問いつづけ、解決するための方法、研究法を主体的に協働して問題解決に取り組めるようPBLテュートリアル学習で取り組む。</p>						
【到達目標】						
1. 看護における実践と研究の関連から、質の高い看護実践にむけ看護研究の必要性がわかる 2. 看護研究の進め方がわかる 3. 文献検索や効果的なプレゼンテーションができるようになる						
【成績評価の方法】 参画 50% レポート 20% 課題 30%						
* 提出期限を厳守できなかったものについて、その該当する提出物の評価は0%とする						
* 指示された資料を忘れ事前報告のない者は講義の参加を認めない						
【テキスト】医学書院 看護研究						
【参考文献】医学書院 看護情報学 統計学						
授業の方法		内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
第1回	講義	看護研究とは				
第2回	講義 協同学習	看護研究の進め方・協同学習についてオリエンテーション		気になる臨床疑問をノートにまとめ参加する		
第3回	講義	文献レビュー・文献検索の方法		教科書・文献レビューとその目的、文献検索の方法を読み、わからないことを確認する。		
第4回	協同学習	文献検索演習		原著論文を読み込み、講義に参加すること		
第5回	協同学習	文献検索演習 (文献検索課題提出)		「はじめに」をレポートに記載する		
第6回	講義 協同学習	質的研究デザイン		教科書：質的研究デザインについて協同学習できめた担当をノートにまとめる		
第7回	講義 協同学習	量的研究デザイン		教科書：量的研究デザインについて協同学習できめた担当をノートにまとめる		
第8回	講義 協同学習	文献クリティーク演習		研究テーマに合う文献を読み参加する		
第9回	講義 協同学習	研究計画書の立て方		教科書：研究計画書の立て方を読み、記載してくる		
第10回	協同学習	研究計画書作成(序論・目的・対象・研究デザイン) 研究における倫理的配慮		協同学習で、きめた事前学習を行い参加		
第11回	講義 協同学習 PBL	研究計画書作成(調査方法・分析方法)				
第12回	講義 協同学習	発表用パワーポイント作成		教科書「研究成果を伝える」を読み、パワーポイントを作成する		
第13回	研究発表	研究発表会の運営、研究計画書の発表 1				
第14回	研究発表	研究発表会の運営、研究計画書の発表 2		発表原稿を作成し予行練習時に参加する		
第15回	研究発表	研究発表会の運営、研究計画書の発表 3				

### 3 専門分野

#### 2) 臨地実習 24 単位

臨地実習は、基礎看護学実習、地域・在宅看護論実習、成人・老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、看護の統合と実践実習の 7 分野を設け、24 単位 810 時間という看護教育の中で非常に高いウェイトを占める学習である。

看護の専門分野の 8 領域において学んだ理論や技術を場所も対象者も異なる様々な場面で実践し、さらに学習を深めることにより、看護の実践に必要な知識・技術・態度を習得することを意図している。

実習施設として、病院以外にも地域で生活する人々の理解を深めるため、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、地域活動支援センター、保育所などあらゆる健康の段階にある対象者や家族とふれあい、ライフサイクル各期を網羅した幅広い看護を学べる実習となるよう構成した。

科目名		基礎看護学Ⅰ実習			
開始時期	1年後期	単位数	2単位(60時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
医療環境と看護活動の実際を知り、看護師として求められる姿勢や態度について考え実践する。また、基礎看護学を含め今まで学んだ知識や技術を活用しながら、対象者に応じた日常生活援助について考察し、実践する。					
【到達目標】					
1. 患者との信頼関係を構築できる 2. コミュニケーションや観察から患者の日常生活の変化を知ることができる 3. 患者にとって必要な看護を導きだすことができる					
【成績評価の方法】 評価表に準ずる ※詳細は実習要項を参照					
【テキスト】医学書院 礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 臨床看護総論					
【参考文献】医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 リハビリテーション看護					
内容			授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
<b>実習場所</b> 病院 学内  <b>実習方法</b> 1. 施設と看護場面の見学を行う 療養環境の見学を通して、安全・安楽・自立の視点から患者の健康を促進するために必要な環境について考察する。また、看護師と患者の関わりの場面を見学し、看護師として患者に向かう姿勢について考え、実践する 2. 受け持ち患者1名を決定し、日常生活援助を実施する 日常生活援助の見学、コミュニケーションから得られた情報から、入院による日常生活の変化や、どのような思いで過ごされているのか考察し看護の対象を知る姿勢を持つことを目指す。その上で患者に必要な援助を考え、看護技術の原理に基づき、安全・安楽・自立に向けた計画を立案・実施する。実施した援助を振り返り、援助目標に沿った評価を行い修正点や内容を追加し、より個別性を踏まえた援助を提供することを目指す。 3. それぞれの施設での学びを統合する 各施設で体験したことを共有し、対象者に応じた日常生活援助について考察を深める			<b>事前学習</b> ・ 病院の機能・役割について調査する ・ 実習する病棟について調査する どのような疾患の方が入院されているか ・ 日常生活援助に必要な技術項目が、一定の技術レベルに到達するまで演習を行う ※教員が指示した回数以上の技術練習を行うこと ・ 指定された動画を視聴し学習する		
詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること					

科目名		基礎看護学Ⅱ実習			履修要件あり	
開始時期	2年前期	単位数	2単位(60時間)	科目担当	専任教員	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】						
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
対象者の身体的・精神的・社会的側面から捉え、対象に合わせた状況に合わせた看護過程を実践する。						
【到達目標】						
1. 変化する患者の身体・精神・社会的状況を捉え、看護を導き出せる 2. 健康状態の維持や状態に合わせ回復に向けて必要な看護を実践し、看護展開できる						
【成績評価の方法】 評価表に準ずる ※詳細は実習要項を参照						
【テキスト】医学書院 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 臨床看護総論 リハビリテーション看護 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 緊急度・重症度からみた症状別看護過程						
【参考文献】なし						
		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容			
実習場所 病院 学内		事前学習				
実習方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィジカルイグザミネーションの技術が、一定のレベルに到達するまで演習を行う</li> <li>・ 日常生活援助に必要な技術項目について、技術が低下しないよう定期的に演習を行う ※教員が指示した回数以上の技術練習を行うこと</li> <li>・ 疼痛、嘔気・嘔吐、呼吸困難、浮腫、排泄障害、意識障害、活動と休息の障害のメカニズムとその看護について学習する</li> <li>・ 指定された動画を視聴し学習する</li> </ul>				
1. 受け持ち患者に看護過程の展開を行う 患者を理解するためにヘンダーソンの理論を活用して、ニーズをアセスメントし、今までに得た知識を技術と結び付け、患者の状態に合わせ回復に向けた看護実践ができることを目指す						
2. それぞれの施設での学びを統合する 実践した看護について共有し、改めて患者にとって看護過程を振り返る						
詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること						

科目名		地域・在宅看護論Ⅰ実習			
開始時期	1年前期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
地域で暮らしている人々の暮らし方や生活、健康を支えるしくみの実際を理解する。					
【到達目標】					
1. 地域で暮らしている人々の暮らし方や生活について講義で学んだ実際を知る					
【成績評価の方法】 倫理的態度・レポート評価・発表の参加状況 ※詳細は実習要項を参照					
【テキスト】医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実践 看護学概論					
【参考文献】医学書院 老年看護学 成人看護学総論 小児看護学概論 小児臨床看護総論 公衆衛生					
内容		授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容			
<b>実習場所</b> 機能訓練型デイサービス・精神障害者地域・作業所 地域活動支援センター・児童発達支援事業所 障害者就労支援A・B型事業所・就労移行支援事業所 放課後デイサービス・通所介護事業所・デイケア シルバー人材センター 学内		<b>事前学習</b> ・地域で生活する人々の暮らし方や生活、健康を支えることについて身近な家族や自分との違いを考えてみる ・実習場所の概要や対象者について調べる ・様々な障害のある人々の暮らし方や生活、健康について考える ・障害や健康レベルに合わせた地域支援事業についてどのようなものがあるのか、その内容等を調べる			
<b>実習方法</b> 1. オリエンテーションにて各自の実習施設の概要と対象となる方々について学習してきたことを確認する 地域で暮らすあらゆる発達段階の人々の様々な暮らし方や生活を知るため、コミュニケーションをとり、地域支援事業所での過ごし方や役割、支え合う社会のしくみについて考える 2. 保健福祉センターの実習において、人々の健康を守るしくみや健康生活を支えるしくみを学び、暮らし方や健康について考える。他、1人2施設を1日ずつ臨地実習し、同様にあらゆる発達段階の人々の暮らし方や健康を支える生活の実際を見学及び体験し知る 3. 地域で生活をしている人々の生活の実態を知り、これまでの自分の生活や価値観、暮らし方について考え、暮らし方は様々であることを体験する。あらゆる障害や健康レベルの方々に合わせた地域支援事業があることを知る 4. 学内実習で学びの共有を行う 各施設で学生それぞれが見学及び体験してきた内容を発表し合いどのような学びが得られたかを共有していく 5. 学生間で共有し感じたことや学びが得られた内容をレポートにまとめ期日までに提出できる。実習で見学や体験した内容について共有したことを学習ノートにまとめる。実習後の気づきや学びから自己の今後の実習に向けての課題を明確にする					
詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること					

科目名		地域・在宅看護論Ⅱ実習			履修要件あり	
開始時期	3年全期	単位数	2単位(60時間)	科目担当	専任教員	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】						
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
在宅で療養生活を送る人とその家族が、その人らしく地域で暮らしの継続ができるよう日常生活の支援の方法や社会資源の活用方法、地域包括ケアシステムにおける「生活」と「保健」「医療」「福祉」の連携と看護の実際を学ぶ。						
【到達目標】						
1. 地域包括ケアシステム推進における各実習施設の活動の実際やその役割及び連携が理解できる 2. 在宅療養者の生活環境や療養者とその家族の状況に合わせた看護と社会資源の活用を踏まえ、地域包括ケアシステムの必要性を考えることができる						
【成績評価の方法】 評価表に準ずる ※詳細は実習要項を参照						
【テキスト】医学書院 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護の実際 看護学概論 老年看護病態・疾患論 公衆衛生 看護関係法令						
【参考文献】医学書院 老年看護学 成人看護学[1]～[15] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 緊急度・重症度からみた症状別看護過程						
内容				授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
<b>実習場所</b> 地域包括支援センター・訪問診療・障害児者入所施設 訪問看護ステーション・介護老人保健施設 保健福祉センターなど 学内  <b>実習方法</b> 1. 施設と利用者とその家族の生活場面やケアの場面の見学を行う。 療養者とその家族へのかかわりの場面を見学し、看護師や生活者としての視点で考察できる。 それぞれの実習施設の概要と役割や職種の専門性を理解し療養者とその家族を支える「保健」「医療」「福祉」の視点で考え、「生活」を関連付けることができる。 2. 訪問した対象者について在宅生活を継続するための社会資源を知り、多職種との連携の実際を観る。 対象者とその家族が、在宅生活を継続するために必要とされているサービスや看護を見学し、今後必要とされる援助やサービスを考える。 3. それぞれの家庭の状況に合わせた看護の実際を観察し、その工夫や自立支援、生活の質の向上などの視点で考察でき、自己決定の必要性がわかる。 4. それぞれの施設の学びを統合する。 5. それぞれの施設での役割や連携等学びをもとに、グループで訪問看護ステーションを立ち上げる。 自分たちの目指す地域包括ケアシステムの構築に向けて、特色のある頼みたくなる訪問看護ステーションのポスターを作成し、プレゼンテーション(発表)する。				<b>事前学習</b> ・ 臨地実習施設についての概要・法的根拠を学習する ・ 1・2年次の「地域・在宅看護論」の講義における内容を復習する ・ 1年次の接遇における学習の復習をする ・ これまでの技術学習を復習し技術力を高める		
詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること						

科目名		成人・老年看護学Ⅰ実習（回復期・慢性期）履修要件あり			
開始時期	2年後期	単位数	2単位（60時間）	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
回復期・慢性期の対象者を受け持ち、看護過程の展開を通じて疾患を抱えながら生活していく対象者の看護を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 回復期・慢性期にある対象者のニーズをとらえ、疾患・治療に則した看護過程の展開を通じて対象者に必要な看護を実践することができる 2. 疾患を抱えながら生活をする対象者の今後の生活を想定し、多職種と調整をしながら退院後の生活に必要な看護を検討できる					
【成績評価の方法】 評価表に準ずる ※詳細は実習要項を参照					
【テキスト】医学書院 医学書院 成人看護学[1]～[15] 老年看護学 老年看護病態・疾患論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 臨床看護総論 リハビリテーション看護 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 緊急度・重症度からみた症状別看護過程					
【参考文献】医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術					
		内容	授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容		
実習場所 病院 学内					事前学習
実習方法					・ 下記病態生理の学習を行う
1. 受け持ち患者に看護過程の展開を行う					脳神経疾患 循環器疾患 消化器疾患 呼吸器疾患
ヘンダーソンの理論を活用し、患者のニーズ・疾患・治療を踏まえたアセスメントを行い、看護実践ができることを目指す。実習終盤では、受け持ち患者についての看護要約の記載を行い、継続的な看護の必要性について学習する					内分泌・代謝性疾患 腎・泌尿器疾患 血液・造血器疾患 運動器疾患 皮膚疾患 感覚器疾患 認知症 等
2. 多職種が連携する場面の見学や、多職種との連携を図る					・ 回復期・慢性期、リハビリテーション期における看護
受け持ち患者の治療に関わる多職種の専門性について学習するとともに、協働の必要性について考え、退院後に向けた調整について検討できることを目指す					・ 検査・処置を受ける患者の看護
3. 臨地実習での学びを統合する					・ 薬物療法を受ける患者の看護
臨地実習終了後に、疾患や治療をふまえた看護実践の意味づけを行う					・ 痛みを持つ患者の看護
					・ 廃用症候群予防の看護
					・ 日常生活援助： 自立支援への援助 事故防止・安全な環境への援助
					・ 継続看護 家族看護： 患者、家族への支援、社会資源の活用 ソーシャルサポートシステム
					・ 慢性期の看護で学習した技術を習得しておく
詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること					※各病棟で実施する日常生活援助および診療の補助業務に関し、教員が指示する内容の技術演習を患者に実施可能なレベルになるまで繰り返し行い臨地実習に臨むこと

科目名		成人・老年看護学Ⅱ実習（急性期）			履修要件あり	
開始時期	3年全期	単位数	3単位（90時間）	科目担当	専任教員	
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】						
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
急性期の対象者を受け持ち、看護過程の展開を通じて疾患を抱えながら生活していく対象者の看護を学ぶ。						
【到達目標】						
1. 急性期にある対象者の身体的・精神的状態を把握し、必要な看護を見出し実践することができる 2. 急性期にある対象者からクリティカルケアの視点で情報を収集し、臨床判断を行いながらその場に合わせた看護実践ができる						
【成績評価の方法】 評価表に準ずる ※詳細は実習要項を参照						
【テキスト】医学書院 成人看護学[1]～[15] 老年看護学 老年看護病態・疾患論 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 緊急度・重症度からみた症状別看護過程						
【参考文献】医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術						
内容				授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容		
<b>実習場所</b> 病院 学内  <b>実習方法</b> 1. 受け持ち患者に看護過程の展開を行う 急性期にある患者の身体的・精神的側面をふまえ、ヘンダーソンの理論を活用してアセスメントや臨床判断を行い、急性期を脱するために必要な看護実践ができることを目指す 2. 手術室、ICU、HCU、救急外来の見学を行う 手術室、ICU、HCU、救急外来の場面において、生命の危機状態にある患者のクリティカルケアの実際や方法について見学をすることにより、急性期の患者の状態や多職種との協働、看護師の役割について理解できることを目指す  詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること				<b>事前学習</b> ・ 下記病態生理の学習 脳神経疾患 循環器疾患 消化器疾患 呼吸器疾患 内分泌・代謝性疾患 腎・泌尿器疾患 血液・造血器疾患 運動器疾患 皮膚疾患 感覚器疾患 認知症 等 ・ 急性期、周手術期、回復・慢性期、リハビリテーション期における看護 ・ 検査・処置を受ける患者の看護 ・ 薬物療法を受ける患者の看護 痛みを持つ患者の看護 ・ 廃用症候群予防の看護 ・ 日常生活援助：自立支援への援助 事故防止・安全な環境への援助 ・ 継続看護 家族看護：患者、家族への支援、社会資源の活用 ソーシャルサポートシステム  ※各病棟で実施する日常生活援助および診療の補助業務に関し、教員が指示する内容の技術演習を患者に実施可能なレベルになるまで繰り返し行い臨地実習に臨むこと		

科目名		成人・老年看護学Ⅲ実習（慢性期・終末期）履修要件あり			
開始時期	3年全期	単位数	3単位（90時間）	科目担当	専任教員
【ディプロマ・ポリシー（DP）との関連】					
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究					
【授業概要】					
慢性・終末期にある対象者や家族の状況を把握し、状況に合わせた対象者や家族への支援を学ぶ。					
【到達目標】					
1. 慢性期から終末期、死後の状況にある対象者および家族の心理的側面に思いをはせ、その状況に必要な支援を考 えることができる 2. 各施設での学びから、終末期のシチュエーションに合わせた看護が学内実習で実践できる					
【成績評価の方法】 評価表に準ずる ※詳細は実習要項を参照					
【テキスト】医学書院 成人看護学[1]～[15] 老年看護学 老年看護病態・疾患論 がん看護学 緩和ケア 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 緊急度・重症度からみた症状別看護過程					
【参考文献】医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 臨床看護総論 リハビリテーション看護					
		内容		授業時間外（予習・復習等）の学習と具体的な内容	
実習場所 病院 学内		事前学習 ・ 下記病態生理の学習 脳神経疾患 循環器疾患 消化器疾患 呼吸器疾患 内分泌・代謝性疾患 腎・泌尿器疾患 血液・造 血器疾患 運動器疾患 皮膚疾患 感覚器疾患 認 知症 等 ・ 急性期、回復・慢性期、リハビリテーショ ン期、終末期における看護 ・ 検査・処置を受ける患者の看護 ・ 薬物療法を受ける患者の看護 痛みを持つ患者 の看護 ・ 廃用症候群予防の看護 ・ 日常生活援助：自立支援への援助 事故防止・ 安全な環境への援助 ・ 継続看護 家族看護：患者、家族への支援、社 会資源の活用 ソーシャルサポートシステム  ※各病棟で実施する日常生活援助および診療の 補助業務に関し、教員が指示する内容の技術 演習を患者に実施可能なレベルになるまで繰 り返し行い臨地実習に臨むこと			
実習方法					
1. 緩和ケア病棟またはホスピスで看護師のシャドウイング 終末期もしくは慢性期で緩和ケアが必要な患者について、 状態のアセスメントや看護実践の実際のシャドウイングを通 して学ぶ機会とする 2. 対象者の今後の生活を想定し、地域・多職種との協働の必要 性を学ぶ 3. 透析室、外来（化学療法）の見学 慢性期の患者が継続して必要な治療を受けている状況を把 握し、慢性期患者の身体的・精神的・社会的な課題や必要な 看護を考えられることを目指す 4. 特別養護老人ホームで看取りに関して学ぶ 終の棲家として過ごす施設において、利用者の終末期や看 取りの環境をどのように整え、実践しているのかを学ぶ機会 とする 5. 葬儀場で自分の死を考える体験を通して学ぶ 職員の説明や体験を通して終活の視点をもって自分の死を 現実的に見つめることで、終末期にある人の心理状況につい て考えることができる機会とする 6. 遺族会で遺された家族について学ぶ 終末期の患者の家族看護の視点が持てるよう、遺族の状況 を知る機会とする 7. 学内で終末期のシチュエーションに合わせた演習  1～5. の実習経験を統合し、終末期にある患者や家族に対する看 護実践をシミュレーションとして実践することを目指す  詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配 布する資料を参照すること					

科目名		小児看護学Ⅰ実習			履修要件あり	
開始時期	2年後期	単位数	1単位(30時間)	科目担当	専任教員	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】						
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
子どもとの関わりや日常生活の様子を見学することで、それぞれの発達段階、発達課題の理解を深めていく。発達段階に合わせた関わり方を踏まえ、対象の子どもたちの健康維持、増進をはかるために必要な支援方法を検討し実施していく。						
【到達目標】						
1. 対象とのコミュニケーションを図り、発達段階、発達課題の理解を深めることができる 2. 対象の発達段階、発達課題を踏まえ、対象の健康維持、増進に向けた必要な健康指導を計画し実施することができる						
【成績評価の方法】 評価表に準ずる ※詳細は実習要項を参照						
【テキスト】医学書院 小児看護概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論						
【参考文献】なし						
内容				授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
<b>実習場所</b> 近隣市町村の保育所、幼稚園、小中学校、学内				<b>事前学習</b> ・実習要項を熟読し、オリエンテーション時には質問できるように準備する ・乳児期から学童、思春期の発達段階、発達課題についてテキストやその他の書籍などを活用し学習する ・各発達段階で起こりやすい健康問題、健康維持、増進に向けたニュースなどを調べる ・授業で使用した資料などを読み直す		
<b>実習方法</b> 1. 各施設で子どもの生活を見学する それぞれの施設で生活する子どもたちの発達段階を見学を通して学習する 各施設で対象となる発達段階の子どもたちが、どのような活動を通して発達課題を達成しているのかを考える 2. 各施設での活動に参加をする それぞれの施設に分かれて実習を進め、施設で行われる活動に参加し子どもとのコミュニケーションを図る それぞれの発達段階やその施設の特徴を考え子どもたちにあった健康の維持、増進につなげられる支援内容を検討する 3. 各施設で、子どもたちを対象とした健康支援の実施 それぞれの施設での関わりを通し、子どもたちの必要な支援計画を立案し、実施していく 支援内容の検討、計画、実施を通し、発達段階の理解を深める 4. 学内実習での学びの共有を行う 各施設で学生それぞれが実施した支援内容を発表しあい、どのような学びが得られたかを共有していく						
詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること						

科目名		小児看護学Ⅱ実習			履修要件あり	
開始時期	3年全期	単位数	1単位(45時間)	科目担当	専任教員	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】						
<input checked="" type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】 健康障害を持った子どもたちは、それぞれのスピードは異なるが発達し続けている。対象となる児に対して発達を阻害することなく、看護支援によって発達を促していく関わりを考え、実施し評価する。障害を持ちながらも施設で生活する子どもとの関わりを通し、個別性とは、暮らしを支える看護の役割を考える。子どもをとりまく社会的な問題、虐待などについて考える。						
【到達目標】 1. 発達段階、発達課題を考え、対象に必要な看護を考えることができる 2. 「発達を阻害しない看護」を考え、個別性を含めた計画を立案できる 3. 病院、各施設それぞれの特徴を知り、そこで生活する対象を理解するため工夫したコミュニケーションをとることができる						
【成績評価の方法】 評価表に準ずる ※詳細は実習要項を参照						
【テキスト】医学書院 小児看護概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論						
【参考文献】なし						
内容				授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
<b>実習場所</b> 病院 施設(重症児・者福祉医療施設、知的障害児施設、障害児者支援施設) 学内  <b>実習方法</b> 1. 受け持ち患児を決定し、コミュニケーション、情報収集の実施 健康障害を持つ子どもを受け持ち、コミュニケーションを図る 健康障害について学習し、受け持った子どもの発達段階、 発達課題を考え、その患児の発達を維持、促進できる関わり を考える 2. 受け持ち患児への看護計画の立案、実施と評価 得られた情報と発達段階、課題、個別性を考え、入院中であ っても対象の発達を維持促進できる関わりを検討する 看護計画を立案・実施し、対象の発達段階にあった関わり であったか、対象にとって発達課題の達成を目指した内容とな っていたかなど振り返る 3. 施設で生活する子どもとの関わりを通して、子どもを取り巻 く社会的な環境や問題について知り考える それぞれの施設実習を通して、経済的問題や虐待など子 どもを取り巻く問題を知る 障害があり施設での生活の中でも発達を維持、促進できる 関わりを考える 施設が実施している個別性とそれぞれの発達に合わせた関 わりを知り自己の考えをまとめる 4. 学内実習でそれぞれの学びを共有する それぞれの施設実習での自己の考えを発表し、学びの共有を はかる 社会的環境、問題についての学びを深める				<b>事前学習</b> ・実習要項を熟読し、オリエンテーション時には質問できるように準備する ・乳児期から学童、思春期の発達段階、発達課題についてテキストやその他の書籍などを活用し学習する ・各発達段階で起こりやすい健康問題、健康維持、増進に向けたニュースなどを調べる ・授業で使用した資料などを読み直す		
詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること						

科目名		母性看護学実習			履修要件あり	
開始時期	3年全期	単位数	2単位(60時間)	科目担当	専任教員	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】						
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input checked="" type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input type="checkbox"/> DP4 協働 <input type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
周産期にある母子の特徴を理解し、個に応じた看護を行う為の能力を養う。						
【到達目標】						
1. 周産期にある対象者の健康管理の実際を学び、看護に活用できる 2. 周産期にある対象者の退院を見据えた支援のあり方がわかり、看護に活用できる 3. 新生児に必要な看護がわかり、対象者へ支援できる						
【成績評価の方法】 評価表に準ずる						
※詳細は実習要項を参照						
【テキスト】医学書院 母性看護学概論 母性看護学各論						
【参考文献】なし						
内容				授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容		
<b>実習場所</b> 病院 学内  <b>実習方法</b> 1. 学内実習において、対象を理解するために必要な情報やウェルネスの考え方についてグループで検討・共有し、事例に応じて看護実践できるようシミュレーションを実施する 2. 各施設で、妊婦健診等の各種健診、母乳外来、両親学級などの見学を通して周産期にある対象者の健康管理や支援の実際を学ぶ 3. 可能な範囲で対象者を受け持ち、状況に応じた必要な看護を考え、実践する 受け持ちが無い場合であっても、事例に応じた必要な看護を考え、グループ内で共有することができる				<b>事前学習:</b> ・母性看護学の授業資料の見直し ・「周産期の看護」の事例学習 ・正常経過にある対象者の看護支援の実際 ・切迫早産経過にある対象者の看護支援の実際 ・帝王切開での出産となった対象者の看護支援の実際 ・各自、自己演習を行いながら母性看護に必要な看護技術を自己研鑽する		
詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること						



科目名		看護の統合と実践実習			履修要件あり	
開始時期	3年後期	単位数	3単位(135時間)	科目担当	専任教員	
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関連】						
<input type="checkbox"/> DP1 援助関係形成 <input type="checkbox"/> DP2 倫理的態度 <input checked="" type="checkbox"/> DP3 看護実践 <input checked="" type="checkbox"/> DP4 協働 <input checked="" type="checkbox"/> DP5 探究						
【授業概要】						
病院及び病棟における日勤帯及び夜間帯の看護師の役割や、看護管理・医療安全の実践について学ぶ。また、看護の根拠を踏まえ、時間管理・優先順位を考えながら、複数受け持ち患者の看護実践を行う。						
【到達目標】						
1. 病院及び病棟における看護チームの一員として看護業務の実際を学ぶことができる 2. 既習学習を通して学んだ知識・技術・態度を活用し実務に即した看護実践能力を養うことができる						
【成績評価の方法】 評価表に準ずる ※詳細は実習要項を参照						
【テキスト】医学書院 看護管理 医療安全 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程						
【参考文献】なし						
		内容	授業時間外(予習・復習等)の学習と具体的な内容			
実習場所		病院 学内		事前学習 下記の内容を看護の統合と実践実習前に学習し、事前学習ファイルに綴じること		
実習方法		1. 患者を複数受け持ち、病棟で行われている看護を基に看護実践を行う 複数患者を受け持ち、患者理解や病院で行われている看護の意味付けを行いながら看護を行うことで、科学的根拠に基づいた看護実践能力を養う 2. 実習病棟の看護体制に沿った看護を実践する チームの動きを意識しながら、時間管理を行い優先順位の決定を行うことで、臨床判断能力を養う チームでの行動を意識し、報告・連絡・相談することで、自分一人の行動ではなくチームとしてより良い看護を提供する 3. 病棟で行われている看護の実際を理解する 病棟管理者やリーダー看護師の業務を見学することで、病棟を運営する管理者の視点を学び、日勤・夜勤のスタッフの業務を見学することで、医療・看護チームの業務や連携の実際を学ぶ。また、カンファレンスへの参加や防災対策を学ぶことで、医療安全や危機管理について学ぶ 4. それぞれの施設での学びを統合する 各施設で体験したこと、学んだことを共有することで、健康障害を抱える対象者への看護とは何か学びを深める		・ 看護管理、医療安全 ・ 医療・看護体制、医療・看護チームについて ・ 疾患については、実習病棟の特徴に合わせて代表的な疾患の解剖生理、病態、検査、治療、看護を学習すること		
詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時に配布する資料を参照すること						

表1：学年進行に合わせたシミュレーション演習の内容

区分	領域	1年生前期	1年生後期
基礎分野	人間関係論	人間関係の自己と他者 接遇	
	運動と健康		生活習慣病・介護予防運動処方
	コンピューターリテラシーとセキュリティ	Word・Excel・PowerPoint演習	
	情報科学		
	英語Ⅱ		
専門基礎分野	リハビリテーション学		
	薬理学		
基礎看護学	安全を確保する援助技術	スタンダードプリコーションに基づく手洗い 必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の選択・着脱 感染性廃棄物の取り扱い 創傷処置(無菌操作) 包帯法 一次救命処置 緊急時の応援要請 安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防) インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	
	環境を整える援助技術	快適な療養環境の整備 ベッドメーカーキング リネン交換 臥床患者のリネン交換	
	活動を支える援助技術	褥瘡予防ケア 安楽な体位の調整(体位変換・体位保持) MMT,関節可動域(自動・他動運動の援助) 移乗・移送の介助(車椅子, ストレッチャー) 電法	
	食・排泄を支える援助技術	食事の援助(食事介助) 口腔ケア	排泄の援助(床上、ポータブルトイレ)オムツ交換
	清潔を保つ援助技術	入浴 寝衣交換(点滴・ドレーン等を留置していない患者) 洗髪 整容 足浴	陰部の保清 全身清拭
	フィジカルアセスメント	バイタルサインの測定 身体計測(身長・体重・腹囲・皮下脂肪厚)	フィジカルアセスメント (消化器・呼吸器系・循環器系・神経感覚器系・乳房・腋窩)
	症状別看護	呼吸困難のある患者の看護の実際 循環障害のある患者の看護の実際 栄養・代謝障害のある患者の看護の実際	排泄の援助をうける患者の看護の実際 運動・感覚機能に障害がある患者の看護の実際 嘔気・嘔吐・痛みのある患者の看護 安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア 意識障害のある患者の看護の実際
	看護過程		看護過程の展開
	与薬・検査の看護Ⅰ		薬剤等の管理 患者の誤認防止策の実施 経口薬の投与 経皮・外用薬の投与 洗腸
	与薬・検査の看護Ⅱ		
地域・在宅看護論	在宅看護技術		
	成人看護学各論Ⅰ		
	成人看護学各論Ⅱ		
	成人看護学各論Ⅲ		
	成人看護学各論Ⅳ		

領域	2年生前期	2年生後期	3年生前期	3年生後期
人間関係論				
運動と健康				
コンピューターリテラシーとセキュリティ				
情報科学			情報処理	
英語Ⅱ	英会話・プレゼンテーション			
リハビリテーション学			運動療法 作業療法 視覚障害者のリハビリテーション リハビリテーション工学	言語・嚥下リハビリテーション 嚥下障害とリハビリテーション リハビリテーション看護
薬理学	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露 予防策の実施			
安全を確保する援助技術				
環境を整える援助技術				
活動を支える援助技術				
食・排泄を支える援助技術				
清潔を保つ援助技術				
フィジカルアセスメント				
症状別看護				
看護過程				
与薬・検査の看護Ⅰ				
与薬・検査の看護Ⅱ	針刺し事故の防止・事故後の対応 使用した器具の感染防止の取扱い 検体検査(血液・尿・便) 検体の取扱い(導尿) 検査・処置の介助 (12誘導心電図、放射線検査、MRI) 放射線の被ばく防止策の実施	静脈血採血 (シリンジ採血・真空管採血) 筋肉内注射 点滴静脈内注射とその管理 静脈路確保 ミキシング・プライミング ・自然滴下・輸液ポンプ		
在宅看護技術			在宅における移乗・移動の援助 在宅での清潔援助 褥瘡予防とケア	在宅中心静脈栄養法 在宅酸素療法 人工呼吸器
成人看護学各論Ⅰ	シリンジポンプの操作と管理 12誘導心電図の装着 心電図モニターの装着	酸素吸入療法の実施 体位ドレナージ		
成人看護学各論Ⅱ	食事指導 消化管ストーマ管理 体温調節の援助 酸素吸入療法(酸素ポンプの管理) ドレーン管理(挿入部の処置も含む) 早期離床(歩行介助)			
成人看護学各論Ⅲ	簡易血糖測定 インスリン注射			
成人看護学各論Ⅳ		膀胱留置カテーテルの管理		

表1：学年進行に合わせたシミュレーション演習の内容

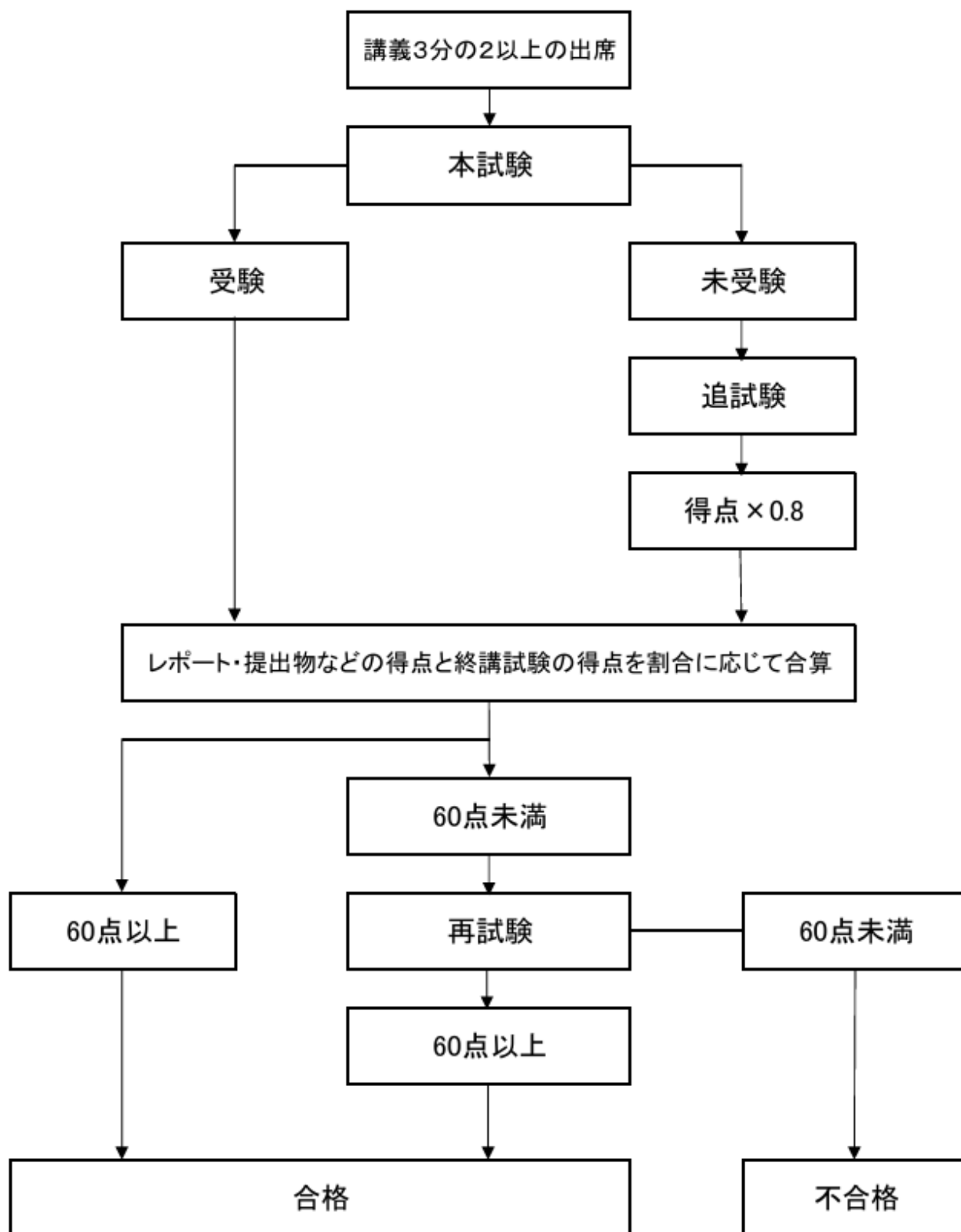
区分	領域	1年生前期	1年生後期
老年看護学	老年看護学概論	高齢者疑似体験	敬老会
	高齢者の生活を支える援助技術		
	高齢者に特有な疾患の看護		
小児看護学	小児の成長と発達		健康を維持・増進するための食事援助 (食事指導について・子どもに合わせた食の選択) 清潔を維持するための援助 (臀部浴・乳幼児のおむつ交換・更衣) 子どもの事故と安全対策 子どもの遊び
	小児の疾病・症状からみる看護		
母性看護学	周産期の実際と支援		
	周産期の看護		
精神看護学	精神の機能と健康		看護場面の再構成 回復を支える精神療法(SST) 精神的安寧を保つためのケア
健康状態別看護	健康状態と看護	発達段階に合わせた健康の保持・増進にむけた技術	
	健康状態と看護		
	急性期の看護		
	周術期の看護		
	慢性期の看護		
	終末期の看護		
看護の統合と実践	看護管理・医療安全		
	災害看護・国際看護		
実習時期		地域・在宅看護論Ⅰ実習	基礎看護学Ⅰ実習
各学年のねらいと到達目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間関係を豊かにする</li> <li>2. 生命の尊さを理解し、人間関係を深めることができる</li> <li>3. 看護に対する関心を高める</li> <li>4. 他者を理解し、協調性を高める努力ができる</li> <li>5. 学習の必要性を理解し、学習習慣を身につけられる</li> </ol>	

領域	2年生前期	2年生後期	3年生前期	3年生後期
老年看護学概論				
高齢者の生活を支える援助技術	排便・直腸内与薬 高齢者の清潔ケア(爪切り、髭剃り) 食事援助(摂食・嚥下障害) 口腔ケア・義歯の取り扱い 経鼻経管栄養 経鼻胃チューブの挿入 口腔内・鼻腔内吸引・気管切開の管理			
高齢者に特有な疾患の看護	麻痺のある患者の更衣	看護過程の展開 (立案した看護計画の実施)		
小児の成長と発達				
小児の疾病・症状からみる看護		子どものフィジカルアセスメント 子どもと家族に合った看護実践 (バイタルサイン測定、環境整備、 計測、生活指導)		
周産期の実際と支援	妊婦の健康診査の実際 (腹部診察・子宮底測定) 分娩期の看護の実際 新生児の健康状態のアセスメントと看護の実際 産褥期のアセスメントに沿った観察の実際と看護 (退行性変化と進行性変化の観察と支援) (育児行動への支援⇒新生児の抱き方、オムツ交換、授乳) 新生児の健康状態のアセスメントと看護の実際 (出生直後の新生児の健康診査、生理的変化の観察) (栄養、清潔ケア⇒沐浴と清拭)	分娩期の看護の実際 (呼吸法、陣痛緩和の実際、胎盤計測)	切迫早産で入院している対象者の観察と看護の実際 帝王切開での出産となった対象者の観察と看護	
周産期の看護		産褥期の排便を促す援助 リラクゼーションケア 褥婦の退院に向けての支援		
精神の機能と健康				
健康状態と看護				
健康状態と看護	検診場面での子どもと家族への関わり フィジカルアセスメント(小児)			
急性期の看護	急性期の観察技術 急性期にある患児の看護 (ネブライザーを用いた気道内加湿・終口と薬)	急性期の混乱状態にある患者の看護 BLS(成人・小児)・ALS 緊急時の応援要請		
周術期の看護	術後合併症予防のための看護 術後の観察技術 術後の点滴やドレーンを留置している患者の寝衣交換 乳がんの手術をうける患者と家族の看護			
慢性期の看護	口腔ケア・義歯の管理 膀胱留置カテーテルを挿入した人の陰部洗浄 オムツ交換	点滴静脈内注射の管理 (本体ルートと側管ルート) 酸素吸入・吸引 OSCE		
終末期の看護			終末期のバイタルサイン測定 グリーフケア 看取り 死後のケア	
看護管理・医療安全				輸血の管理 輸液ポンプ使用時と点滴静脈注射・静脈留置針留置に伴うリスクと事故防止
災害看護・国際看護			災害現場でのトリアージ 止血法 搬送法	
	基礎看護学Ⅱ実習	成人・老年看護学Ⅰ実習	地域・在宅看護論Ⅱ実習	看護の統合と実践実習
		小児看護学Ⅰ実習	成人・老年看護学Ⅱ実習	
			成人・老年看護学Ⅲ実習	
			小児看護学Ⅱ実習	
			母性看護学実習	
			精神看護学実習	
	1. 日々の学習や看護学校での生活で理論的に考える力を養うことができる 2. 社会人になる自覚を持ち、自身を律し良識ある態度がとれる 3. 対象の状況に応じた、看護過程展開の技術を習得できる 4. 他者との関係の中で自己の役割を理解し、協力的な行動がとれる 5. 自らの理想とする看護師像を目指し、目的意識をもって行動できる		1. 対象を理解し、援助関係を形成する能力を習得する 2. 倫理的な態度を身につけ、研鑽し続ける能力を高める 3. 根拠に基づき対象に応じた看護を実践する能力を獲得する 4. 協働して問題解決をはかる能力を習得する 5. 課題を発見し、探究し続ける能力を育成できる	

## 試験に関する考え方

1. 評価は行った講義・演習などの学びの結果を明らかにするものであり、次への課題を明確にするとともに、単位の認定に関わる重要なものである。
2. 終講試験等の一斉試験の行い方は、その講師の判断で選択する。シラバス（例えば：終講試験90%・レポート10%など）を確認し、講義に臨む。
3. 1単位（30時間、15時間）毎の評価となる。
4. 試験時間は以下を目安として実施する。
  - 1) 1単位30時間の場合は45分程度の試験時間を目安とする。
  - 2) 1単位15時間の場合は30分程度の試験時間を目安とする。
5. 1単位（30時間、15時間）を二人以上の講師が分担した場合は
  - 1) 原則として合計100点で同時に試験を行い、講義の時間配分に応じた問題の配分とする。
  - 2) 最終評価は学則に準じる。60点以上をもって合格となる。
6. 終講試験100%以外の場合は、「終講試験のみでない場合の評価」を参照のこと

## 定期試験のみでない場合の評価



## 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

### ●卒業時の到達レベル

〈演習〉

I：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる

II：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

〈実習〉

I：単独で実施できる

II：指導の下で実施できる

皿：実施が困難な場合は見学する

項目	技術の種類		卒業時の到達度	
			演習	実習
1. 環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	I	I
	2	臥床患者のリネン交換	I	II
2. 食事の援助技術	3	食事介助（嚥下障害のある患者を除く）	I	I
	4	食事指導	II	II
	5	経管栄養法による流動食の注入	I	II
	6	経鼻胃チューブの挿入	I	III
3. 排泄援助技術	7	排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）	I	II
	8	膀胱留置カテーテルの管理	I	III
	9	導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	II	III
	10	浣腸	I	III
	11	摘便	I	III
	12	ストーマ管理	II	III
4. 活動・休息援助技術	13	車椅子での移送	I	I
	14	歩行・移動介助	I	I
	15	移乗介助	I	II
	16	体位変換・保持	I	I
	17	自動・他動運動の援助	I	II
	18	ストレッチャー移送	I	II
5. 清潔・衣生活援助技術	19	足浴・手浴	I	I
	20	整容	I	I
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	I	I
	22	入浴・シャワー浴の介助	I	II
	23	陰部の保清	I	II
	24	清拭	I	II
	25	洗髪	I	II
	26	口腔ケア	I	II
	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	I	II
	28	新生児の沐浴・清拭	I	III
6. 呼吸・循環を整える技術	29	体温調節の援助	I	I
	30	酸素吸入療法の実施	I	II
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	I	II
	32	口腔内・鼻腔内吸引	II	III
	33	気管内吸引	II	III
	34	体位ドレナージ	I	III
7. 創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	II	II
	36	創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）	II	II
	37	ドレーン類の挿入部の処置	II	III
8. 与薬の技術	38	経口薬（バツカル錠、内服薬、舌下錠）の投与	II	II
	39	経皮・外用薬の投与	I	II
	40	坐薬の投与	II	II
	41	皮下注射	II	III
	42	筋肉内注射	II	III
	43	静脈路確保・点滴静脈内注射	II	III
	44	点滴静脈内注射の管理	II	II
	45	薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）	II	III
	46	輸血の管理	II	III
9. 救命救急処置技術	47	緊急時の応援要請	I	I
	48	一次救命処置（Basic Life Support：BLS）	I	I
	49	止血法の実施	I	III

項目	技術の種類		卒業時の到達度	
			演習	実習
10. 症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	I	I
	51	身体計測	I	I
	52	フィジカルアセスメント	I	II
	53	検体（尿、血液等）の取扱い	I	II
	54	簡易血糖測定	II	II
	55	静脈血採血	II	III
	56	検査の介助	I	II
11. 感染予防技術	57	スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い	I	I
	58	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱	I	I
	59	使用した器具の感染防止の取扱い	I	II
	60	感染性廃棄物の取扱い	I	II
	61	無菌操作	I	II
	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	I	II
12. 安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	I	I
	64	患者の誤認防止策の実施	I	I
	65	安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）	I	II
	66	放射線の被ばく防止策の実施	I	I
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	II	III
	68	医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ポンプ、人工呼吸器等）の操作・管理	II	III
13. 安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	I	II
	70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	I	II
	71	精神的安寧を保つためのケア	I	II

看護師の		卒業時の到達目標		
実践能力	構成要素			
I群 ヒューマンケアの基本的な能力	A. 対象の理解	1	対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造と機能について理解する	
		2	胎生期から死までの生涯各期の成長・発達・加齢の特徴に関する知識をもとに対象者を理解する	
		3	対象者を身体的・心理的・社会的・文化的側面から総合的に理解する	
	B. 実施する看護についての説明責任	C. 倫理的な看護実践	4	実施する看護の根拠・目的・方法について対象者の理解度を確認しながら説明する
			5	看護職としての倫理観を持ち、法令を遵守して行動する
			6	対象者の尊厳を守る意義を理解し、価値観、生活習慣、慣習、信条等を尊重した行動をとる
			7	対象者の情報の取扱い及び共有の方法を理解し、適切な行動をとる
	D. 援助的関係の形成		8	対象者の選択権及び自己決定権を尊重し、対象者及び家族の意思決定を支援する
			9	対象者と自分の境界を尊重しながら関係を構築する
			10	対人技法を用いて、信頼関係の形成に必要なコミュニケーションをとる
			11	必要な情報を対象者の状況に合わせた方法で提供する
II群 根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力	E. アセスメント	12	健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を系統的に収集する	
		13	情報を整理し、分析・解釈・統合し、看護課題の優先順位を判断する	
	F. 計画		14	根拠に基づき対象者の状況に応じた看護を計画する
			15	看護計画の立案にあたって、対象者を含むチームメンバーと連携、協働する必要性を理解する
	G. 実施		16	計画に基づき看護を実施する
			17	対象者の状態に合わせて、安全・安楽・自立／自律に留意しながら看護を実施する
	H. 評価		18	実施した看護の結果を評価し、必要な報告を行い記録に残す
			19	評価に基づいて計画の修正をする
III群 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力	I. 健康の保持・増進、疾病の予防	20	生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を説明する	
		21	環境が健康に及ぼす影響と予防策について理解する	
		22	対象者及び家族に必要な資源を理解し、健康の保持・増進に向けた生活に関する支援を行う	
	J. 急速に健康状態が変化する対象への看護		23	急速に健康状態が変化する（周術期や急激な病状の変化、救命救急処置を必要としている等）対象の病態や、治療とその影響について理解する
			24	基本的な救命救急処置の方法を理解し、模擬的に実践する
			25	健康状態の急速な変化に気づき、迅速に報告する
			26	合併症予防のために必要な看護を理解し、回復過程を支援する
			27	日常生活の自立／自律に向けた回復過程を支援する
	K. 慢性的な変化にある対象への看護		28	慢性的経過をたどる人の病態や、治療とその影響について説明する
			29	対象者及び家族が健康課題に向き合う過程を支援する
			30	健康課題を持ちながらもその人らしく過ごせるよう、生活の質（QOL）の維持・向上に向けて支援する
			31	急性増悪の予防・早期発見・早期対応に向けて継続的に観察する
	L. 終末期にある対象への看護		32	終末期にある対象者の治療と苦痛を理解し、緩和に向けて支援する
			33	終末期にある対象者の意思を尊重し、その人らしく過ごせるよう支援する
34			終末期にある対象者及び家族を多様な場においてチームで支援することの重要性を理解する	
IV群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	M. 看護専門職の役割と責務	35	看護職の業務を法令に基づいて理解するとともに、その役割と機能を説明する	
		36	看護チーム内における看護師の役割と責任を理解する	
	N. 安全なケア環境の確保		37	リスク・マネジメントを含む医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について説明する
			38	感染防止策の目的と根拠を理解し、適切な方法で実施する
			39	関係法規及び各種ガイドラインに従って行動する
	O. 保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働		40	保健・医療・福祉チームにおける看護師及び他職種の機能・役割を理解する
			41	対象者をとりまく保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解する
			42	対象者を含むチームメンバーと連携・共有・再検討しながら看護を実践する
	P. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割		43	地域包括ケアシステムの観点から多様な場における看護の機能と役割について理解する
			44	日本における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する
45			諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する	
V群 専門職者として研鑽し続ける基本能力	Q. 継続的な学習	46	看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性と方法を理解する	
		47	看護の質の向上に努める必要性を理解する	
	R. 看護の質の改善に向けた活動	48	看護実践に新たな技術やエビデンスに基づいた知見を活用し、批判的吟味をすることの重要性を理解する	

